

DEEP INSIDE



「風神雷神図屏風」 俵屋宗達

BY WILD INVESTORS

DEEP INSIDE

- | | | |
|---|-----------------------|-----|
| 1 | 新興国内で「西高東低」さらに加速 | 1 |
| 2 | 【再掲】投資戦略アップデート[週末]メール | 70 |
| 3 | 【再掲】投資戦略アップデート[特別]メール | 114 |

07

ワイルドインベスターズ

会員専用投資レポート

2024 年 7 月号

0/115

“DEEP INSIDE” 202407

©Wild Investors Inc. <http://www.wildinvestors.com/>



新興国内で「西高東低」さらに加速

2024年07月18日（木）

ワイルドインベスターズ代表 安間 伸

中国株が 下がっても
他の新興国 ブチ上げる
意外と小さい インパクト
再ブロック化が 進んだか

中国の切り離しが進み新興国連鎖破綻は中国が中心にならない可能性高まる。
一方米国は「トランプ・バンス＝トレード」でバリュー株が買い戻される可能性あり。

文章内のリンクに飛んだとき、ブラウザによっては「戻る」ボタンを押しても元の文章に戻らずレポート最初のページに戻ってしまうことがあります。そのような場合はリンクの上で右クリックをして「リンクを新しいタブで開く」を選択すると、別タブが開いてリンク先を読むことができます。[青文字アンダーラインがなくても飛べるリンクがありますのでお試しください。](#)

「目次のページ番号」や文章内の「図表番号」「章の番号やタイトル」などは原則的に「相互参照」となっており、クリックすると[青文字アンダーライン](#)でなくてもそのリンク先に飛ぶようになっています。参照したい場合はお試しください（ただし相互参照になっていない場合もあります）。

レポートの後ろにすでに送信した会員さん向けメールを収録しています。「【再掲】投資戦略アップデート」の章で、[週末] [特別]の2つに分かれています。これらにより時系列として何が起こったのかを後から振り返ることができます。メールで送った内容ですから、覚えている方は基本的に読む必要はありません。ただし読んだけれども忘れてしまった方や、途中から入会した方などはもう一度読んでいただくと話がわかりやすくなると思います。

目次

1.	概要.....	2
2.	先月の市況：インフレ鈍化で米長期金利が低下、米株ブチ上がる（パターンb）	5
3.	先月（2024年06月）のパフォーマンス	7
4.	6月の米CPIは広範囲に鈍化	10
5.	輸出入物価、そろそろドル高が効いてきたか.....	16
6.	市場は09月から年3回0.75ポイント利下げ織り込む	18
7.	コモディティは食料が下落	19
8.	短期のブレイクイーブンインフレ率(BEI)が急低下.....	22
9.	実質実効為替レート、ドル反落だが円も弱い.....	25
10.	やはり日銀介入は敏腕トレーダーのよう	27
11.	ISM「非」製造業指数、4年ぶり低水準で外需の危うさ示す.....	30
12.	新興国の中で東側から西側に資金移動か.....	32
13.	2024年06月は「大型グロース」だけで無理矢理上げた	37
14.	経済指標が悪化するから米株が上昇する	41
15.	クレジット市場は目立った動きなし	47
16.	VIX 投機売り増えるもまだ警戒水準ではない.....	50
17.	マグニフィセント7 占有率が34%から35%近くまでさらに昇.....	52
18.	新興国株まで中国の影響を受けなくなってきた	56
19.	新興国連鎖破綻のきっかけは中国以外になるか.....	58
20.	J. D. バンス副大統領候補はトランプ氏以上に保守的.....	60
21.	（予告）「トランプ・バンス＝トレード」でバリュー株が買い戻される可能性アリ	62
22.	まとめ：新興国内で「西高東低」さらに加速.....	63
23.	【再掲】投資戦略アップデート[週末]メール.....	70
	（20240628）えっ！中古価格が新築より高いんでっか？「レバビディア」に恐怖するベテラン勢。バブル佳境の脳筋戦略「松竹梅」のほうがはるかにまとも。	70
	（20240705）情報技術、2 か月以上突っ走る。もはや中国株が下げても新興国すら下げない。「トランプトレード」の影響少なく後付けの理由。	82
	（20240712）広範囲にインフレ鎮静化で9月利下げ確実視。中国、この秋に向け大混乱ありそう。ポリコレで破壊されたドイツの産業。	102
24.	【再掲】投資戦略アップデート[特別]メール.....	114
	今月も整理する時間がなかったので、後日まとめます	114

1. 概要

米国は引き続き史上最高値を更新し、エヌビディアを筆頭に **AI 関連など一部の大型グロース株主導の上昇**が続いています。やはり **米長期金利が空気入れの役割**を果たし、それが少し低下してドル安になると企業収益が好転して株価が買われるという **ドットコムバブル期のパターンに戻って**きました。弊社予想通り米国株のEPS（一株あたり利益）が加速し始めたため、引き続き「米株を売るのは危険」

と考えます。

- 一部の銘柄が市場全体を牽引する **AI バブル**が始まった。今は **AI アクセラレータ(プロセッサ)** 関連や周辺機器にまでに注目が集まっている。
- 経済指標を見るとインフレ圧力が低下し、特に**住居費が低下**し始めた。**ゴルディロックシナリオ**が織り込まれている。これ以上景気がスローダウンすれば**リセッション懸念**が高まるはずだが、今のところその兆候は薄い。
- **米実質金利の上昇**や**新興国通貨の下落**など物価引き下げ要因との綱引き続く。米国に資金が集まり、資金が流出する新興国はさらに苦境に陥る。
- 商業不動産(CRE)は**オフィスビルに引き続き注意**。**住宅販売も腰折れ気配**。新築よりも中古の価格中央値が高いという異常事態になっている。
- 米中小銀行の中に不動産融資比率が高いものがまだ残っており、そこから危機が波及する可能性は十分ある。
- **米中小銀行の信用収縮**や**新興国連鎖破綻**の可能性続く。しかし中国株が下げてもそれ以上に他の新興国が上昇しているので、新興国連鎖破綻のきっかけや中心になるのは中国ではないかもしれない。

状況としては引き続き、1990 年代後半の**ドットコムバブル**に酷似しています。下の 2 つの局面が循環的に訪れ、二極化とリバーサルを繰り返しながら果てしない高みへと昇ってゆくパターンです。これまでのバブルと同じように、**米国のイールドスプレッドはおそらくマイナスへ**と突入するでしょう。

(パターン a) 好調な経済指標 → インフレ懸念強まる → 米金利上昇・ドル高 → 米株は小幅高

(パターン b) 経済指標悪化 → インフレ懸念やわらぐ → 米金利低下とドル安 → 米株は大幅上昇

中国の実態を知る人が増え、「**中国からの大脱出が始まった**」と解釈しています。私はかれこれ 20 年以上、中国を成長させることの危険性に対し警鐘を鳴らしてきました。それを多くの人々が知るようになり、**資本流出が本格化**してきたのだと思います。また情報やサプライチェーンのセキュリティが重視され、米中ともに**経済ブロックを強化し潜在敵国企業を追い出そう**としています。そこを見誤った企業や投資家は大損を食らう可能性があると考えてください。

米実質金利が再び上昇し**新興国から資金流出**が続いているため、1997-98 年のような、「新興国連鎖破綻を契機とした**世界的信用収縮**は近い」と覚悟しておくべきでしょう。**世界史上最大級の中国不動産バブル崩壊**が現実になれば、人類史上見たことがないような**クラウドイングアウトが中国で起きる**と考えます。しかしそのインパクトは、私が想像していたよりも小さくなりそうです。

先月と比較すると弊社の「**三大潮流シナリオ**」のうち「**(1)ドットコムバブル型の米株上昇**」はまだ続いています。米国の対中半導体輸出規制強化で「AI バブル第一段階」が正念場を迎えつつあります。「**(2)新興国クラッシュ**」は新興国内で資金シフトが起きているようで、いずれ連鎖破綻に至るにしても中国が与えるインパクトは限定的かもしれません。「**(3)再ブロック化**」も米国の「再ブロック化」政策と中国の「**鎖国・囲い込み政策**」の両輪で、お互いの企業を追い出し「**戦時経済色**」をさらに強めてゆくと考えます。バイデン政権が**自傷行為**のような政策を連発しているため米国の威信はガタ落ちです。

が、世界的な金融危機が起きれば新興国も手のひらを返して米国に「米ドルと通貨スワップを結んでくれ」と寝返ると考えます。仮にトランプ氏が大統領になりバンス氏が副大統領になれば、急速に保守回帰が進んで米国は繁栄するでしょう。

ワイルドインベスターズの三大潮流

1. ドットコムバブル型の米株上昇

2. 途中で新興国クラッシュ

3. 再ブロック化

ただし危険な兆候として、紅海などで米英が海洋覇権を失いつつあります。船舶を攻撃するフーシ派に屈し、欧米諸国は紅海を避けるようになりました。その裏には当然、中国・ロシア・イランが居ます。バイデン政権がトランプ派潰しに血道を上げている間に、中国は海上交易で重要なチョークポイントを奪い取って行きました。世界最強の米軍もトップからしてポリコレの毒に冒されており、敵味方の区別すらつきません。もはやカネを食うだけの利権集団に近いかもしれません。中国はこの時を逃さず、台湾・尖閣というチョークポイントを奪うことを考えているでしょう。

すでに第三次世界大戦が始まっているというのに、岸田政権はこの期に及んで中国に接近しています。伝統的な保守派からは完全に見放されたので、リベラルの票田を狙っているのかもしれませんが。しかし極左の人々は民主主義や資本主義を嫌っているため、自民党に投票することはないでしょう。消去法で自民に投票していた人々が中道や右派に流れたら、立憲民主党などが競り勝つ選挙区が増えて自民党が少数与党になっても不思議ではありません。

総合的には引き続き

「中国など新興国から逃げた資金が米国に向かう」

という潮流に変化はないと考えます。米国の覇権は揺らいでいますが、だからといって中国がすんなりその地位を奪い取れる感じではありません。再ブロック化が進めば、新興国のほうが危うい状況にあることは変わりありません。したがって

米株ロング+新興国ショートの本流ポジションを維持

しつつ、

米株の中では情報技術関連のウェイトを落とし、 大型バリュー株のウェイトを増やす

ことを基本戦略とします。

2. 先月の市況：インフレ鈍化で米長期金利が低下、米株ブチ上がる（パターン b）

2024 年 06 月も米景気スローダウンとインフレ鈍化を示す指標が続き、米長期金利が低下し米株がブチ上がる（パターン b）でした。「AI 業種御三家」の情報技術・一般消費財・コミュニケーションサービスが特に好調でした。ただし SP500 の 11 業種のうち半分以上が下落し、極端な二極化が進行しました。バリューグロス大中小で見ると大型グロス株以外はほとんど上昇せず、小型・中型バリューに至ってはドルベースでマイナスでした。MSCI ワールド株価指数は欧州が下げ日本の上昇も小幅でしたが、米株上昇と円安により円ベースで+4.35%の上昇。一方で MSCI 新興国株指数は韓国やインドが上昇し、円ベースで+6.34%とさらに強かったです。株価が上昇しながら米株に対して新興国株が上げる「ブル逆流」でした。米金利はドットコムバブル期と同じように空気入れの役割を果たしており「それが上昇しても米株は下げないが、低下すると米株が上昇する」関係が続いています。米国に世界中から資金が流れ込んでいるため資産インフレが起き、FOMC は利下げしにくくなっています。しかしそれによって米国の実質金利が上昇し、ますます世界中から資金を集める好循環に嵌っています。経済指標が悪化する局面ではインフレ圧力低下とともにゴルディロックシナリオが連想され、米株が上昇します。ただし米国の住宅販売が減少しているため、新興国連鎖破綻や欧州金融危機のほかに世界的な不動産価格の下落から信用収縮が拡大する局面があると想定しています。弊社はバブル相場に対応した「邪道の銘柄選択」を大きく縮小しましたが、引き続き米株買いに AI 銘柄をトッピングし新興国株売りによってヘッジする本流ポジションを継続します。

図表 1 は主要株価指数と通貨のパフォーマンスです。まず右側の「為替」の列を見ると円に対してドルは+2.24%と反発。ユーロは+1.03%、英ポンドは+1.46%とドル高円安でした。

真ん中の列は現地通貨ベースの主要株式指数リターンです。米 SP500 指数が+3.47%と続伸し、米 NASDAQ 指数はさらに強く+5.96%と大幅上昇でした。しかし先進国は米国ほど好調ではなかったようで、MSCI ワールド株価指数は+2.07%の上昇にとどまりました。一方で主要新興国は中国こそマイナスに沈んだものの韓国・インドなどが強く、ドルベースで+4.01%と先進国を上回る上昇をマークしました。

一番左は株価と通貨を合わせた「円ベース JPY 収益」です。MSCI ワールド株価指数は円安に助けられて+4.35%とプラス。米 SP500 指数はそれを上回る+5.78%でした。MSCI 新興国指数はドル上昇が加わって+6.34%と好調でした。これにより株価全体は強めながら米株に対して新興国株が強い「ブル逆流」となり、仮にこの一か月ずっと「米 SP500 買い+新興国売り」の本流ポジションを持ちっぱなしにしていれば約 0.56%の損失となった計算となります。

図表 1 2024 年 06 月のパフォーマンス（株価指数・円ベース）

	JPY収益	現地通貨	通貨	株価指数
通貨はドル高円安。	4.35%	2.07%	2.24%	世界MSCI WORLD GR
「米株買い+新興国売り」 で約 0.56%の損失	6.34%	4.01%	2.24%	新興国EM
	5.78%	3.47%	2.24%	米SP500指数
	8.33%	5.96%	2.24%	米NASDAQ COMPOSI/d
	1.34%	1.34%	0.00%	東証TOPIX
	2.85%	2.85%	0.00%	日経平均
米 NASDAQ は米 SP500 を約 2.55%上回った。	-0.40%	-1.42%	1.03%	独XETRA DAX PF/d
	0.10%	-1.34%	1.46%	英FTSE 100 EOD IDX
	-2.35%	-3.34%	1.03%	スペインIBEX 35 INDEX/d
	0.33%	-2.00%	2.38%	香港恒生指数/d
日経は TOPIX を 1.51% 上回った。	-2.06%	-3.87%	1.88%	上海上証総合指数/d
	-2.71%	1.48%	-4.13%	ブラジルBVSP BOVESPA I/d
	9.04%	6.57%	2.32%	インドNIFTY 50/d
	#N/A	#N/A	2.24%	ロシアRTS INDEX
新興国株は中国が弱かったのに韓国・インドなどが 弱く先進国をしのご上昇。	9.68%	7.21%	2.31%	韓国KOSPI 200 INDEX
	3.34%	0.85%	2.47%	豪S&P/ASX 200
	2.18%	-0.05%	2.24%	金スポット
	8.28%	5.91%	2.24%	WTI原油先物期近
	3.51%	1.25%	2.24%	米国10年債リターン

図表 2 は米国のセクターパフォーマンスです。11 業種のうち上昇したのは 5 業種だけでしたが、それらがブチ上げて指数を牽引しました。景気敏感セクターは情報技術・一般消費財・コミュニケーションサービスの「AI 業種御三家」がブチ上げましたが、素材や資本財はマイナスでした。金利敏感セクターは米長期金利が低下したもののまちなちでした。エネルギーセクターは原油高騰にもかかわらず下げました。

図表 2 2024 年 06 月の米国セクターパフォーマンス

	JPY収益	現地通貨	通貨	米SP500業種指数(配当込)
エネルギーは原油高騰にもかかわらず下げ。	1.33%	-0.89%	2.24%	金融
	11.77%	9.32%	2.24%	情報技術
	0.92%	-1.29%	2.24%	エネルギー
	1.28%	-0.94%	2.24%	資本財
	4.19%	1.91%	2.24%	ヘルスケア
	2.05%	-0.18%	2.24%	必需品
	7.24%	4.89%	2.24%	一般消費財
	-3.40%	-5.51%	2.24%	公益
	-0.86%	-3.03%	2.24%	素材
	7.15%	4.80%	2.24%	コミュニケーション
	4.30%	2.02%	2.24%	不動産

図表 3 は米国の「バリュー・グロース」「大型・中型・小型」のセグメントを分けた現地通貨ベー

スのパフォーマンスです。上昇はほぼ大型グロース「だけ」によってもたらされたもので、他はほとんど上昇しませんでした。小型・中型バリューに至ってはドルベースでマイナスでした。

図表 3 2024 年 06 月の米国バリュー・グロースパフォーマンス

CRSP米国株(配当込みトータルリターン)			
現地通貨ベース			
	総合	バリュー	グロース
総合	3.14%		
大型	3.75%	0.20%	6.61%
中型	-0.61%	-1.55%	0.50%
小型	-1.34%	-2.37%	0.03%

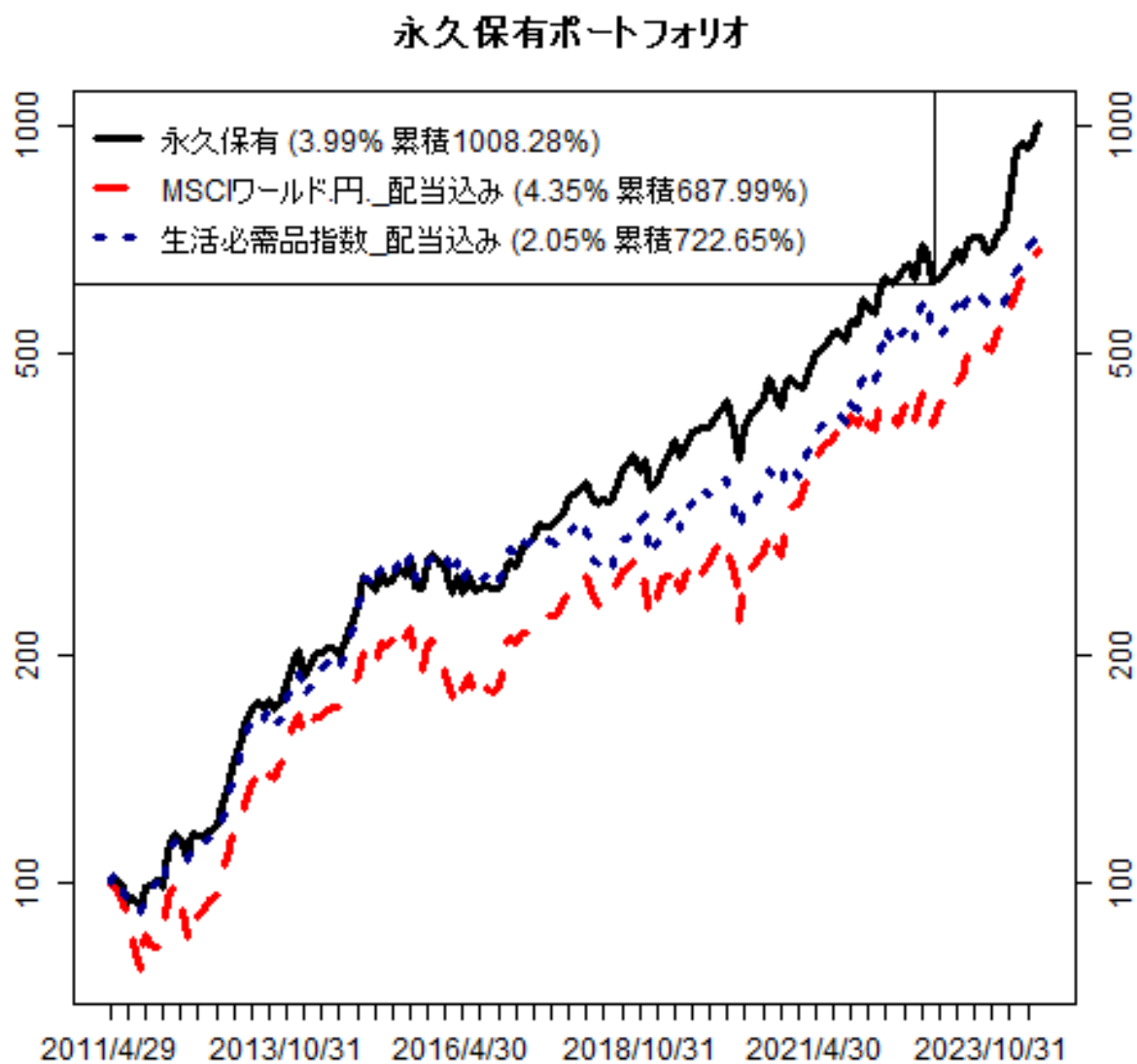
3. 先月（2024 年 06 月）のパフォーマンス

「永久保有」は成長銘柄が強く必需品指数を 1.94%ポイント上回りました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分が健闘しロングショートも利益を上積みしたものの、バリュー株 ETF を組み入れていたことが裏目で MSCI ワールド指数に対して 0.42%劣後しました。

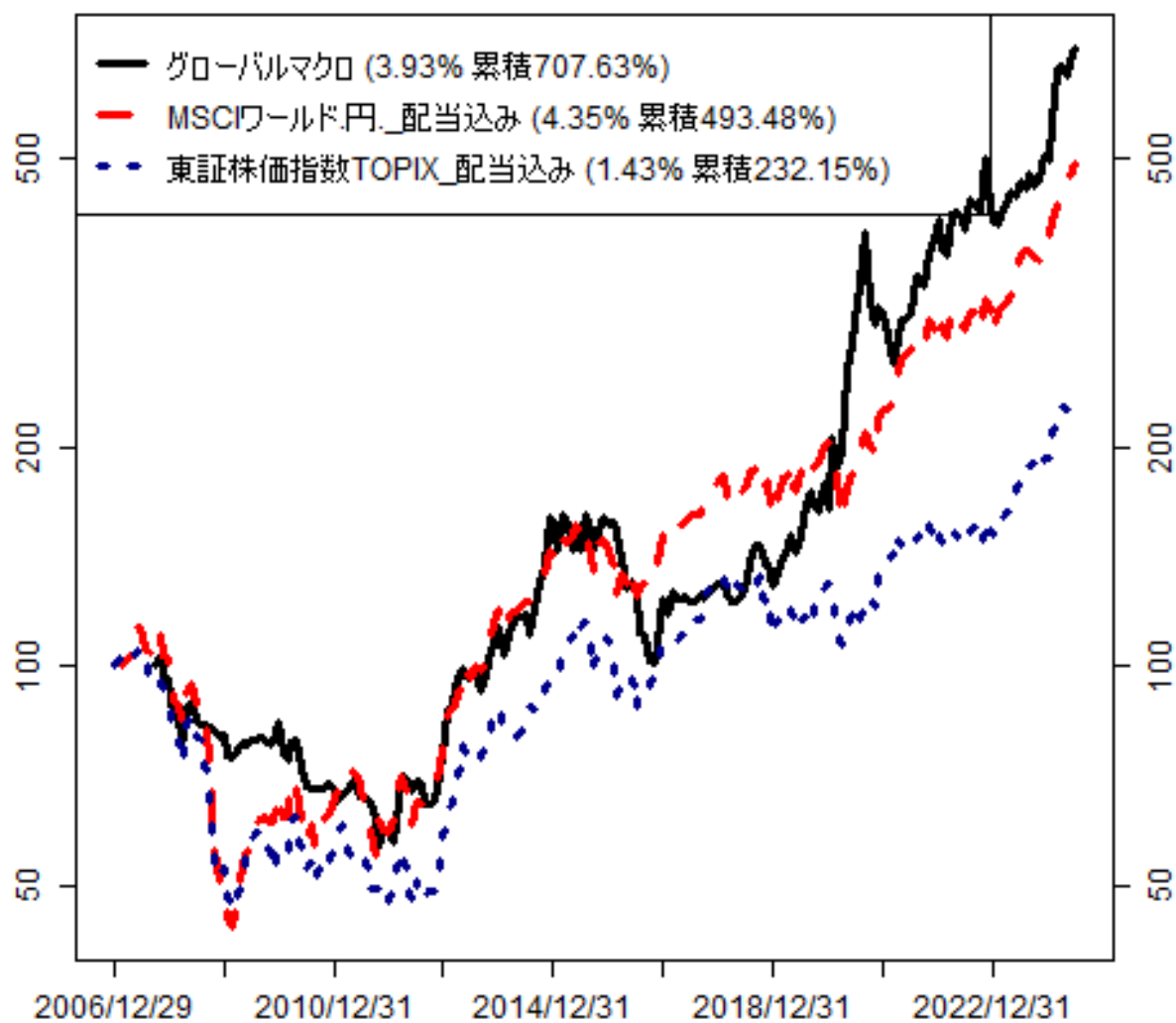
「個別銘柄」はバリュー株 ETF を組み入れていたことが裏目に出て MSCI ワールド指数に対し 0.81%ポイント劣後しました。

- +3.99% 永久保有
- +3.93% グローバルマクロ
- +3.54% 個別銘柄

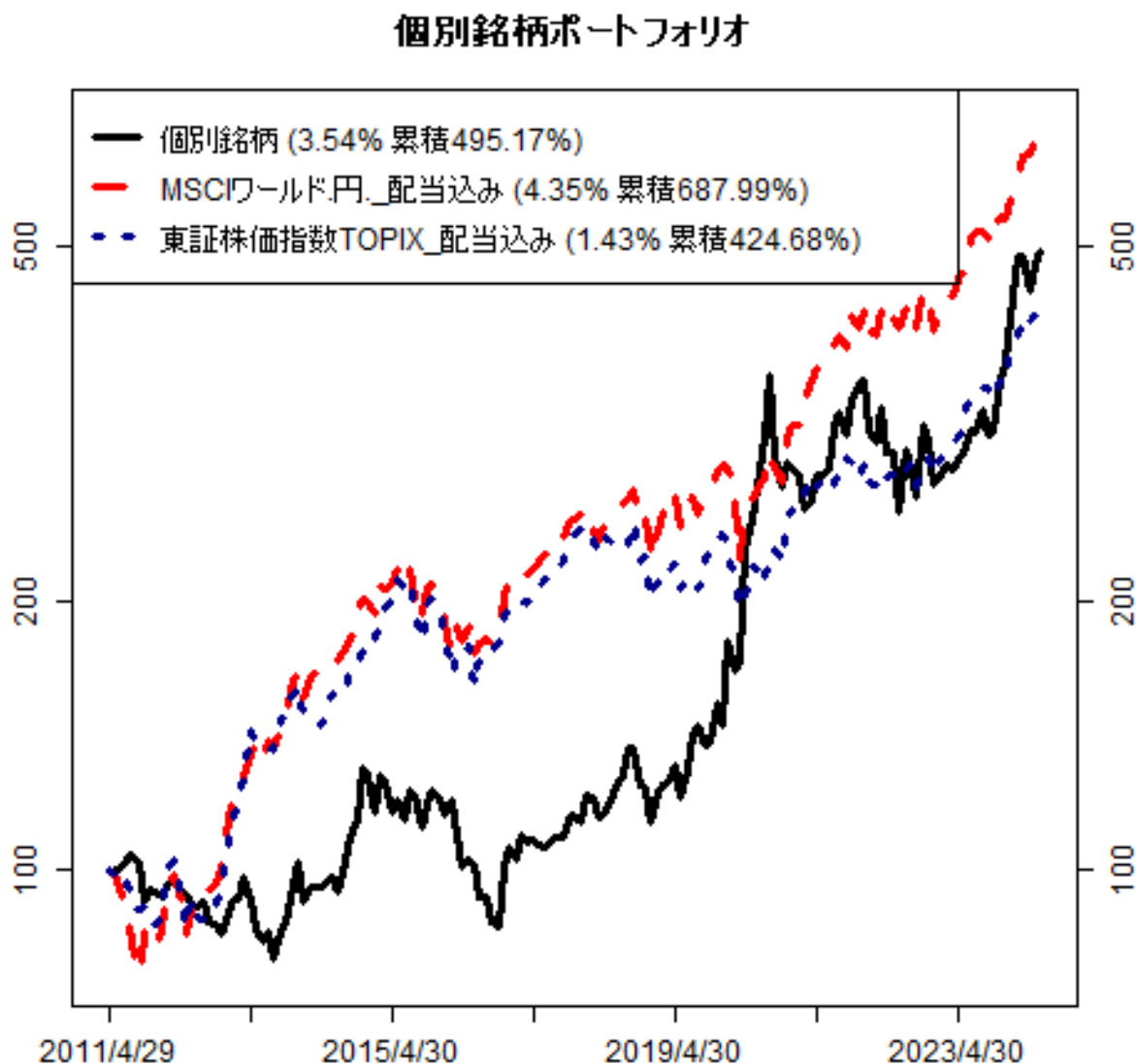


作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/6/30

グローバルマクロ（過去から引き継ぎ）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/6/30



4. 6月の米CPIは広範囲に鈍化

2024年06月の米CPIは広範囲に鈍化。

住居費の伸びが鈍化し、エネルギーと住宅を除いたサービス価格も2か月連続で低下したとのこと。

=====

米CPIは広範囲に鈍化、総合指数が低下→利下げの論拠強まる

2024年7月11日 21:40 JST 更新日時 2024年7月12日 0:40 JST

コアCPIは前月比0.1%上昇、2021年8月以来の小幅な伸び

総合CPIは前月比0.1%低下、コロナ禍初期以来のマイナス

米国のインフレは6月、広範囲に鈍化。住居費の減速が目立った。米金融当局は近い時期に利下げが可能だという、これまでで最も強いシグナルとなった。

キーポイント

食品とエネルギーを除くコア消費者物価指数（CPI）は前月比0.1%上昇－2021年8月以来の小幅上昇

市場予想は0.2%上昇、5月は0.2%上昇

前年同月比では3.3%上昇－3年余りで最も低い伸び

市場予想3.4%上昇、5月は3.4%上昇

総合CPIは前月比0.1%低下

市場予想0.1%上昇、5月は横ばい

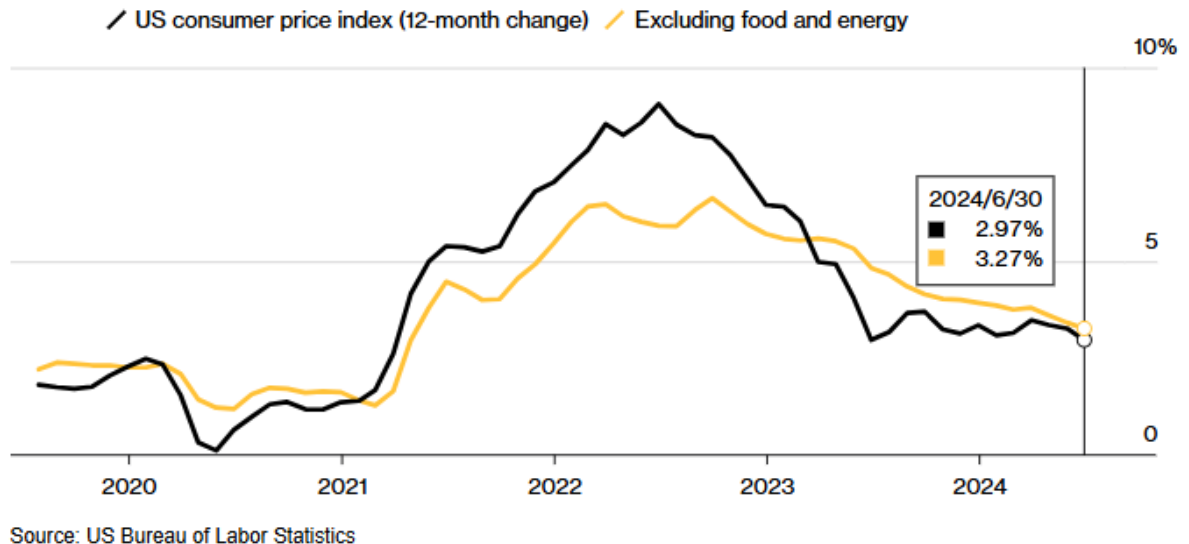
前年同月比では3%上昇

予想3.1%上昇、5月は3.3%上昇

総合CPIが前月比でマイナスとなったのは、新型コロナ禍の初期以来。ガソリン価格の下落が影響した。

US Core Inflation Cools to Slowest Pace Since 2021

Deceleration boosts odds of a Federal Reserve rate cut in September



今回の統計は、1－3月（第1四半期）に再燃したインフレが再び鈍化傾向に入ったことを示す新たな証左となった。一方で、経済活動は全般的に減速しているようにみえる。先週5日に発表された6月の米雇用統計では、失業率が3カ月連続で上昇した。今回のCPI統計と併せて考えると、米金融政策は引き続き年内利下げに向けた道筋にあるようだ。

（略）

CPI発表元の米労働統計局（BLS）は小数第1位までの表示にしているが、当局者らはインフレの方向性をより包括的に把握するため、細かい数字に注目している。小数第3位までを見ると、コアCPIの前月比は0.065%の上昇だった。

住居費の伸び鈍化

サービス分野で最大部分を占める住居費は0.2%上昇と、21年8月以来の低い伸びにとどまった。持ち家のある人がその家を賃貸する場合の想定家賃である帰属家賃（OER）は、0.3%上昇。同じく約3年ぶりの低い伸び率だった。

マクロポリシー・パースペクティブズの創業者で、米連邦準備制度エコノミストも務めたジュリア・コロナド氏は「6月CPI統計で恐らく最も重要なのは、住居関連インフレの鈍化だ」と述べた。

住居費の伸び鈍化に加え、6月は航空運賃やホテル宿泊費、入院患者の医療費が全て前月比で低下した。

ブルームバーグの計算によれば、エネルギーと住宅を除いたサービス価格は2カ月連続で低下。政策当局はインフレ軌道を見極める上で、こうした指標に目を向けることの重要性を強調しているが、実際には別の指標である個人消費支出（PCE）価格指数に基づいてそれを算出している。

ブルームバーグ・エコノミクスのエコノミスト、アナ・ウォン氏とスチュアート・ポール氏は「『非常に良かった』5月CPIよりも1段階良い内容だった。インフレ軌道に関する連邦公開市場委員会（FOMC）の自信を深めるはずだ」と指摘。「9月利下げ開始のお膳立てをただけでなく、

7月利下げのリスクさえ警戒させる内容だった」と分析した。

食品とエネルギー商品を除く財のコア価格は、4カ月連続で低下した。

新車価格は前月比ベースで6カ月連続の低下。中古車価格も下落した。衣料品分野でも一部が低下。家庭用家具・備品は過去1年のほぼ全ての月で下げている。

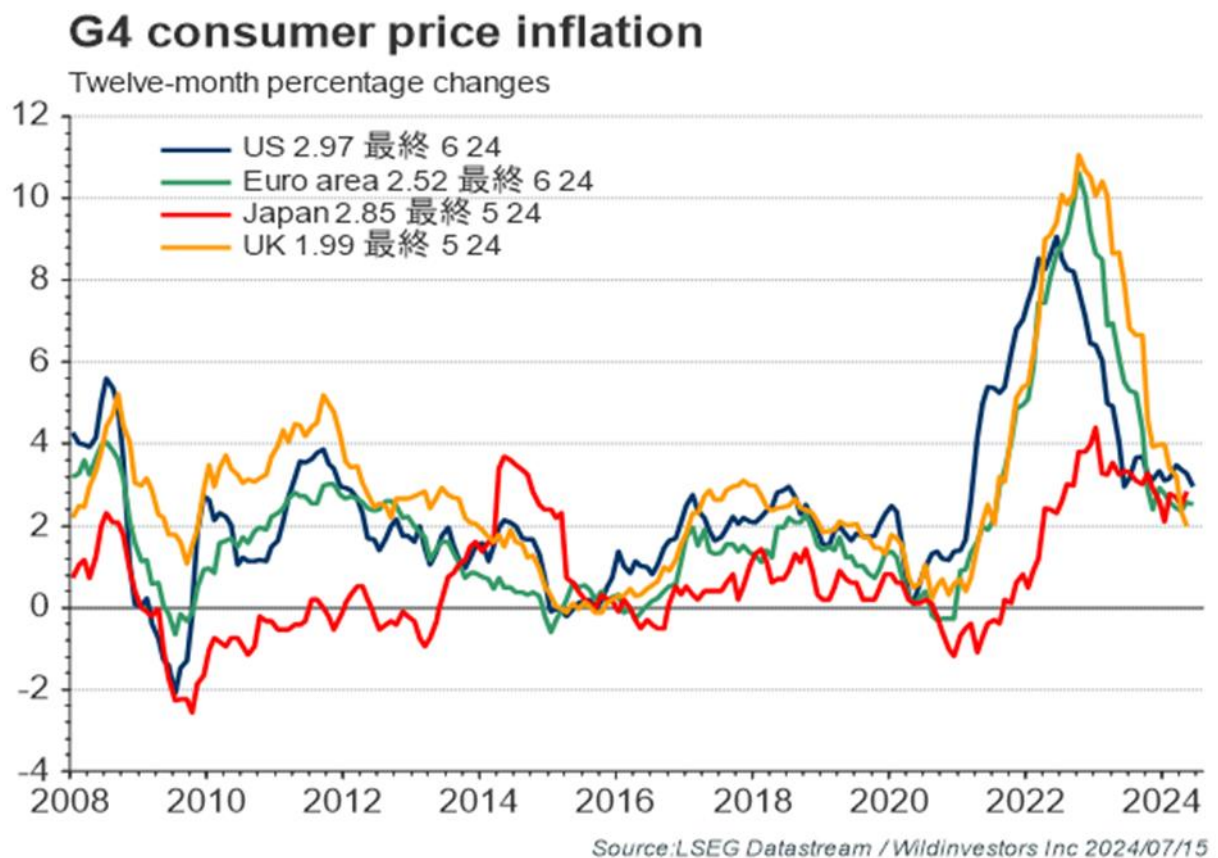
別の統計によれば、実質平均時給は過去1年余りにわたってプラスを維持した。

統計の詳細は表をご覧ください。

=====

主要国のインフレ（総合CPI）を前年比で見ると**米国**がさらに低下。**ユーロ圏**はわずかに低下です。**日本**と**英国**はまだ5月の数字から変わっていません（**図表 4**）。

図表 4 主要国インフレ

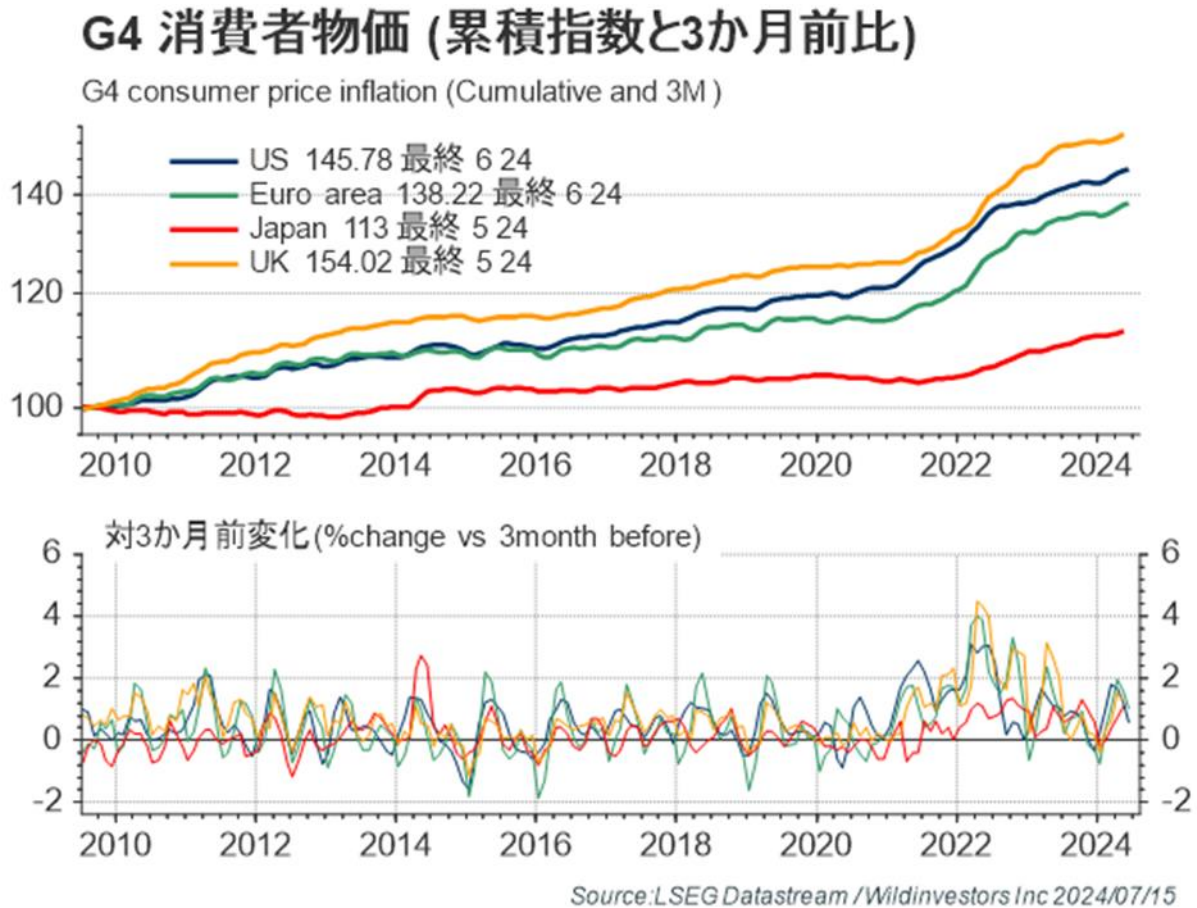


これを累積指数（3か月移動平均、対数目盛）で確認します（**図表 5**）。いつも書いているように

「12月に底をつけ、3-5月ぐらいにピークをつける」シ クリカリティ（循環性）

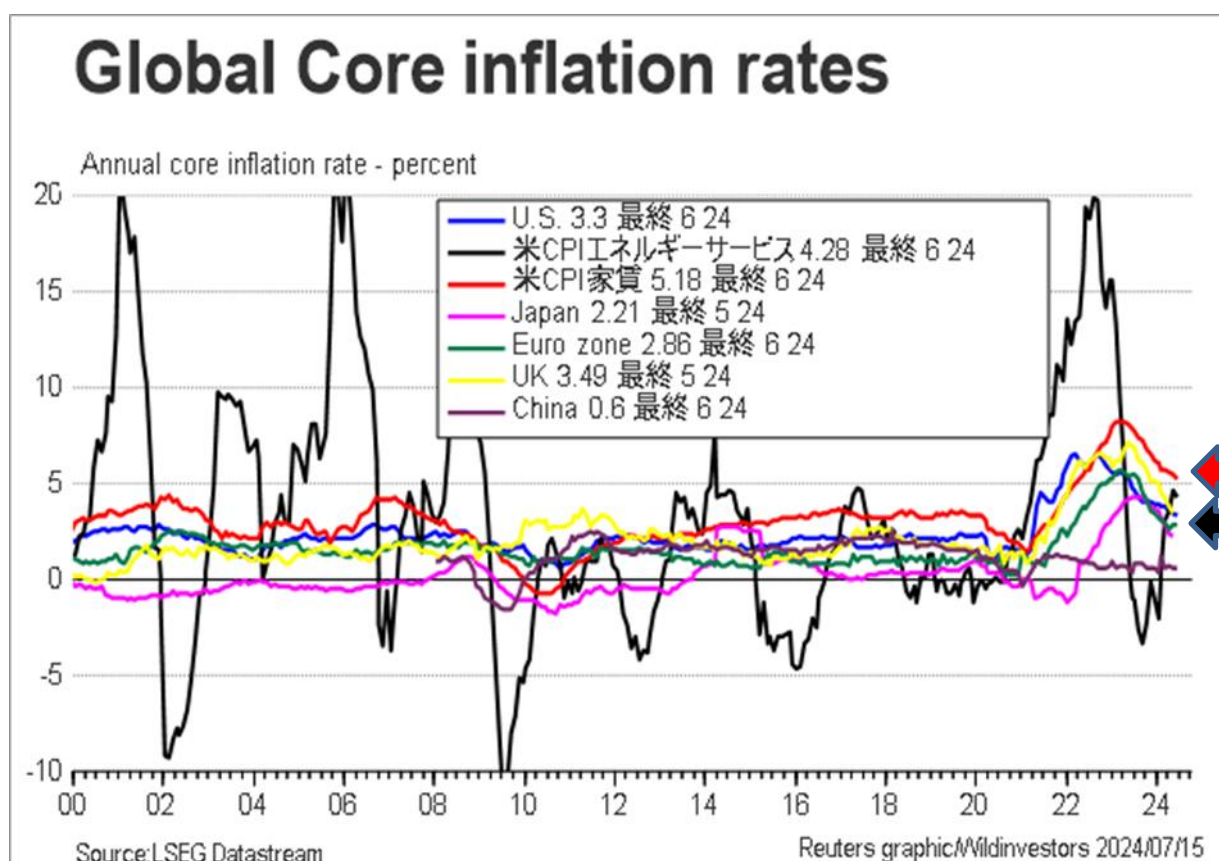
が見て取れます（下段パネル）。その季節性から見るとどの国も例年より少し早くピークを付けた感
じで、順当に下げてきた様子が見えがえします。

図表 5 主要国インフレ（累積指数と3か月前比）



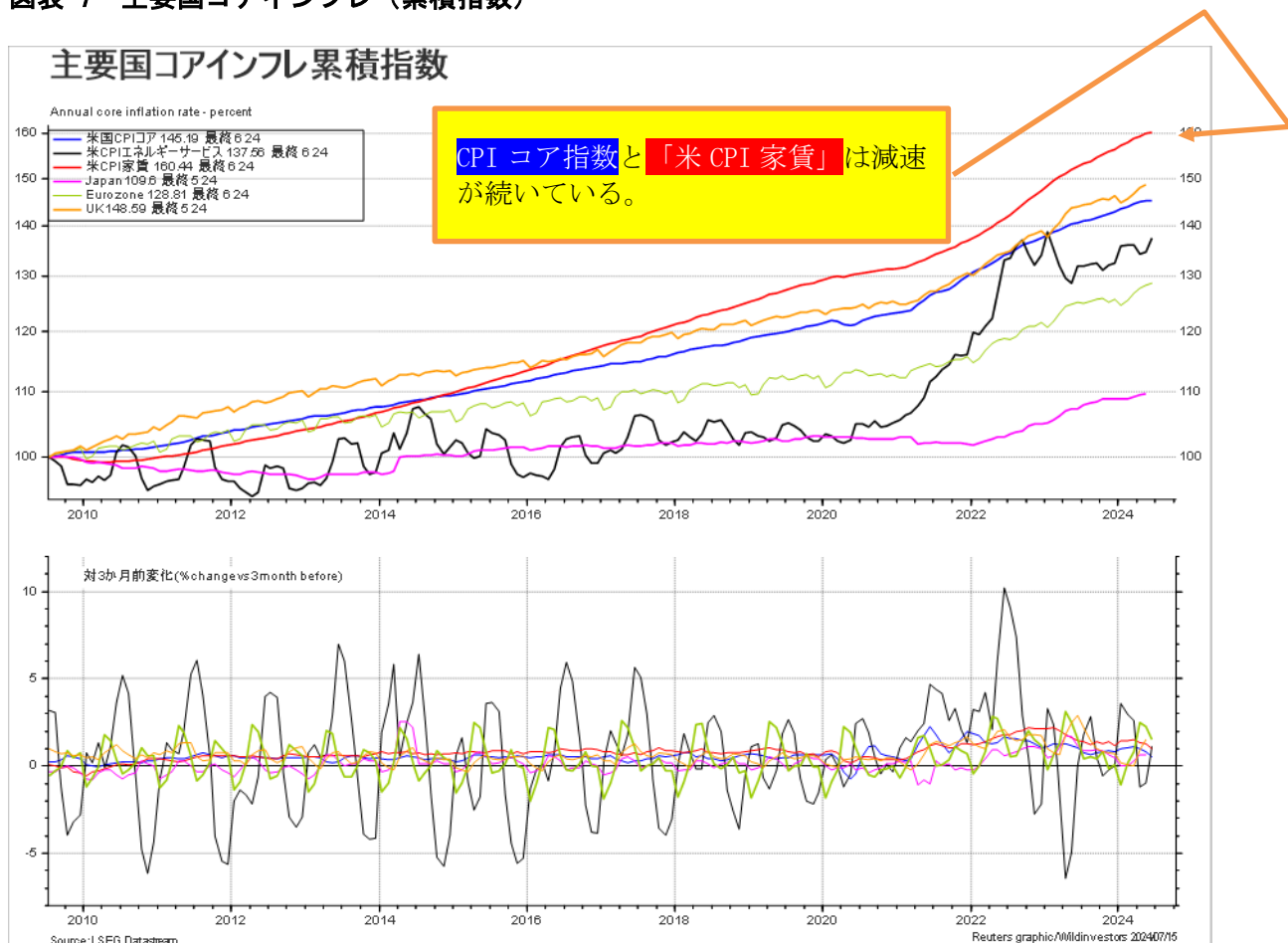
各国のコアインフレ率を前年比で較べると**米国**は3.4%から3.3%へとさらに低下（図表 6）。**「米 CPI 家賃」**も5.24%から+5.18%へとさらに低下。そして**エネルギーサービス**も+4.67%から+4.18%へ小反落しました。**エネルギーサービス**と**「米 CPI 家賃」**がともに低下傾向であることは朗報です。

図表 6 主要国コアインフレ



念のため、上記のチャートを累積指数（対数目盛）で観察します（図表 7）。下段の3か月前比のパーセンテージ変化を見ると **CPI コア指数**と **「米CPI 家賃」**は減速が続いているようにも見えます。しかし **「米CPI エネルギーサービス」**がまた上昇し始めていることは気になります。

図表 7 主要国コアインフレ（累積指数）

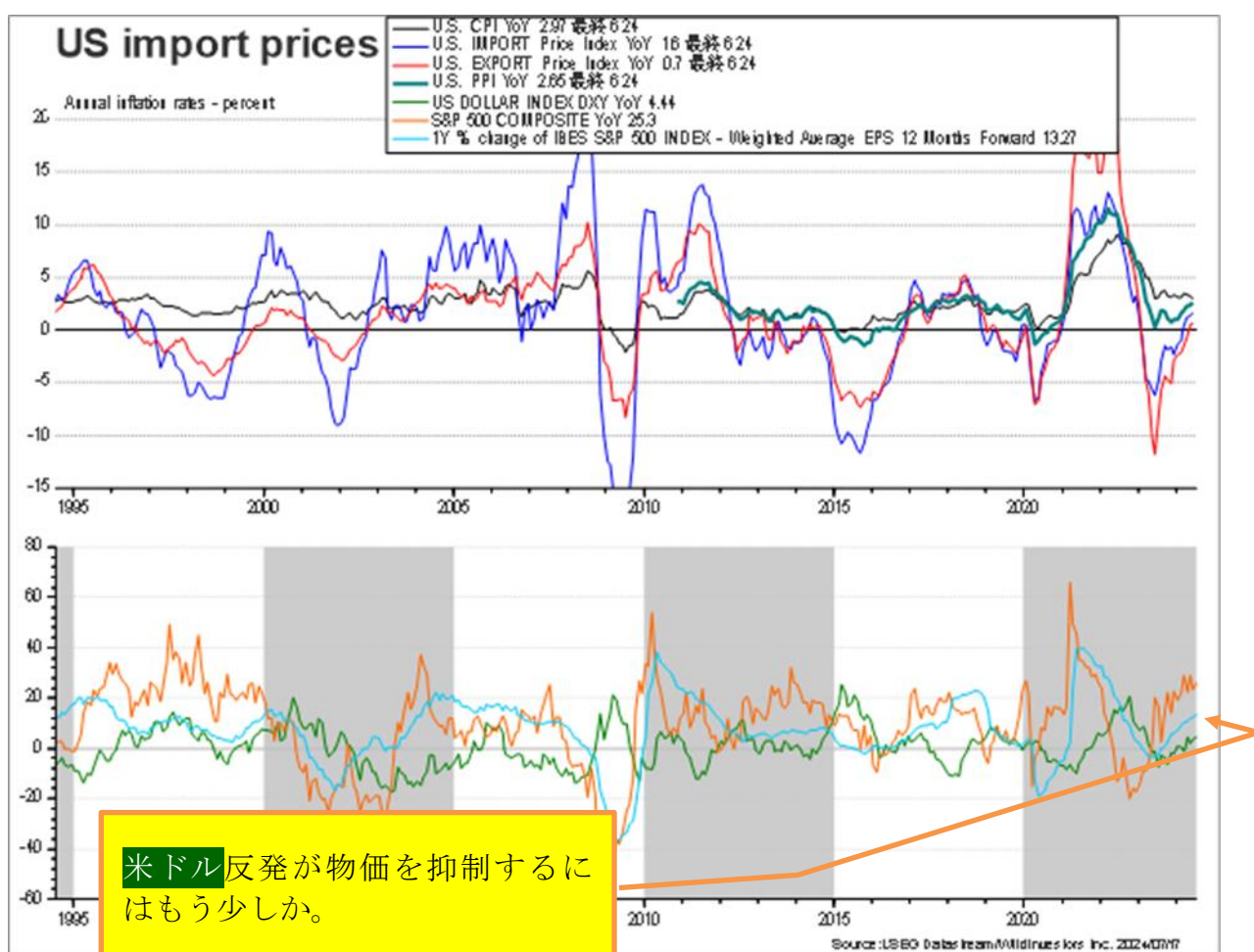


5. 輸出入物価、そろそろドル高が効いてきたか

2024 年 06 月の米**輸入物価**は前年比+1.6%と前月の+1.1%から上昇。しかし前月分が+1.4%に修正されたようで、その意味では上昇が鈍化しているとも言えないこともありません。

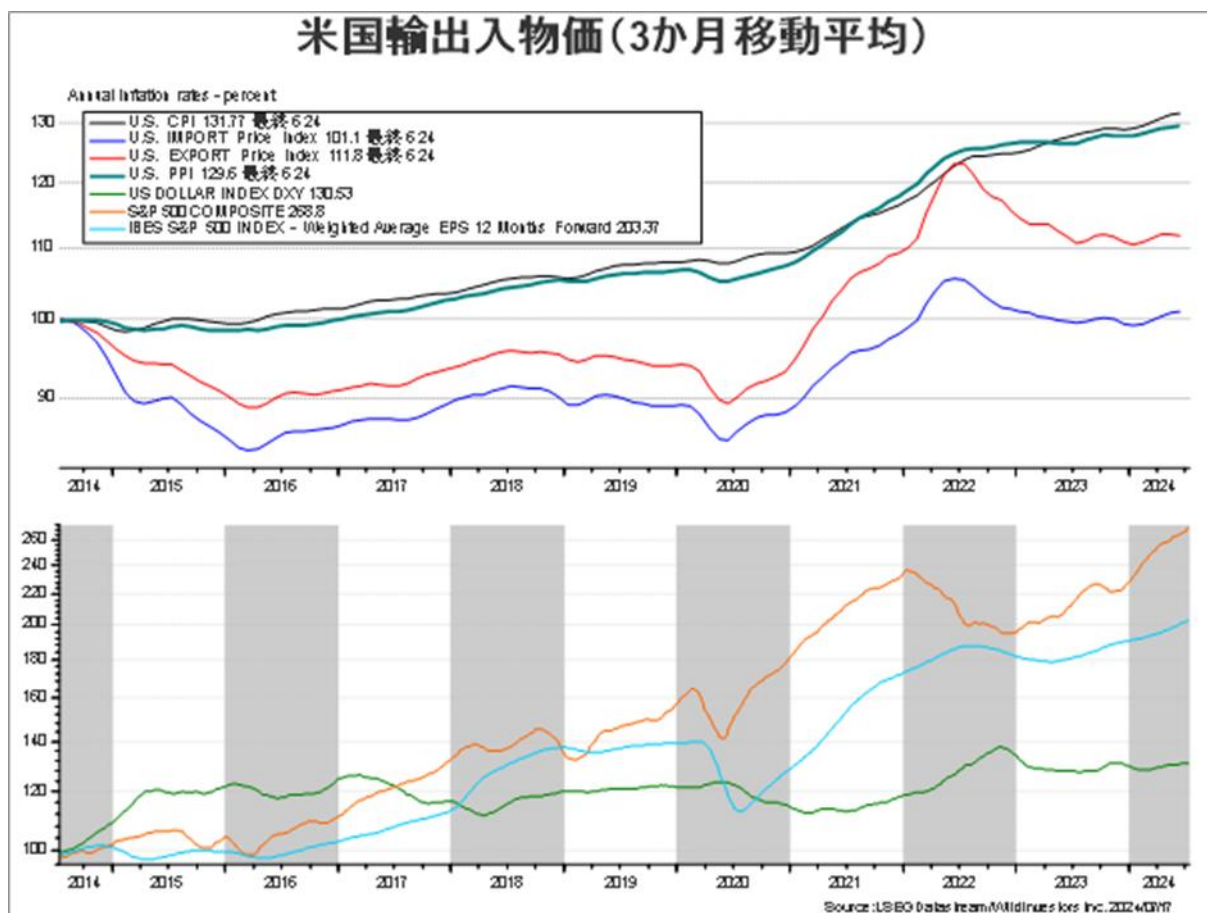
輸出物価は前年比+0.6%から+0.7%へプラス圏でやや上昇（図表 8）。今年に入ってから**米ドル**が強くなっているのですが、そろそろ輸出入物価の上昇を抑制し始める可能性があります。

図表 8 米国の輸出入物価、ドル円、株価指数



図表 9 の累積指数（3 か月移動平均、対数目盛）を見ると輸出物価と輸入物価が下向きになり始めたように見えます。これも海外需要の低迷に加え、今年 1-4 月のドル高が影響しはじめたのではないかと考えます。

図表 9 米国輸出入物価、ドル円、株価指数（3 か月移動平均）



6. 市場は 09 月から年 3 回 0.75 ポイント利下げ織り込む

FOMC 関係者はこれらの物価統計を歓迎。

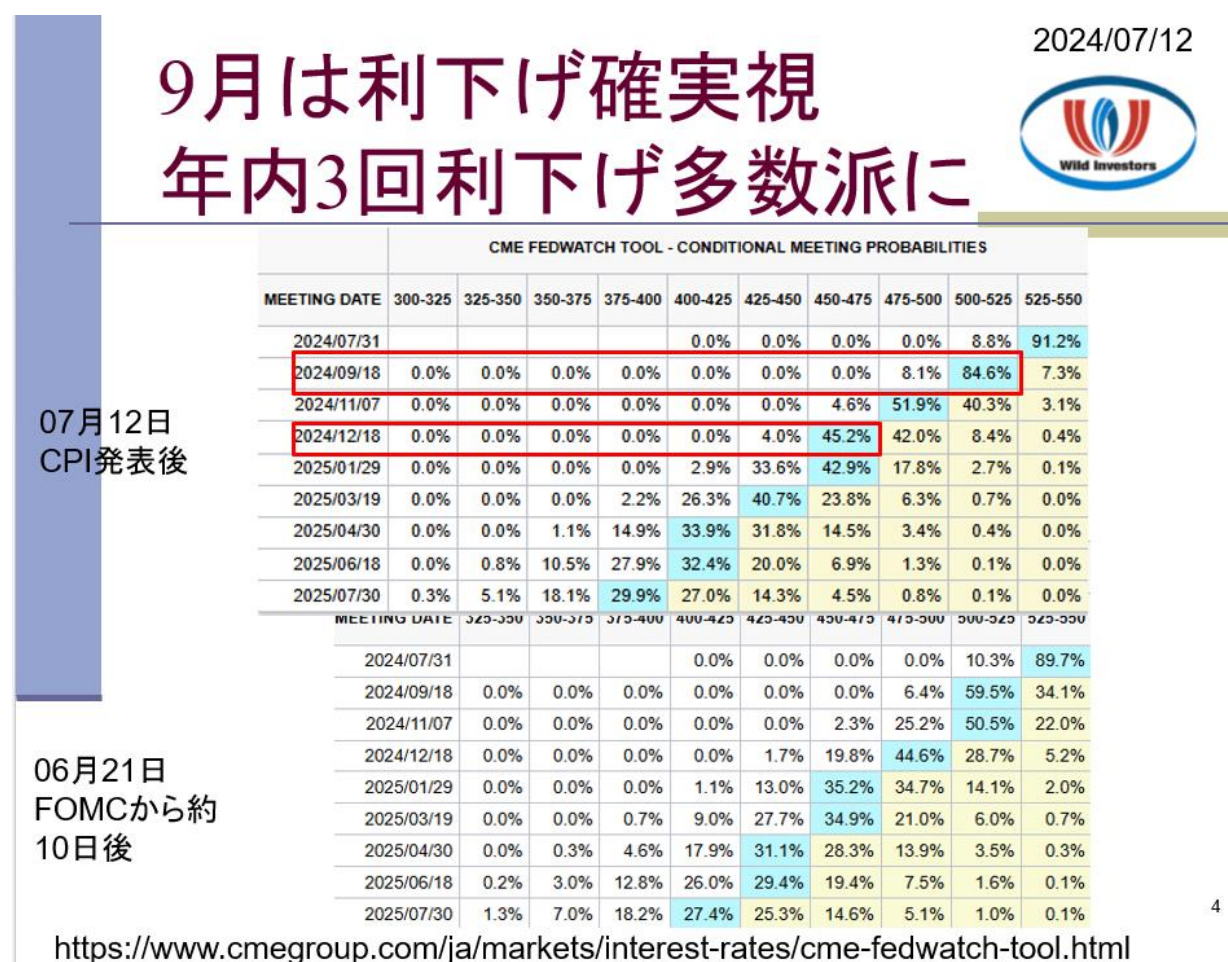
シカゴ連銀グールズビー総裁は「(最新の物価データは) 上々だ」「私の見解では、これこそ 2 % への軌道というものだ」とほめています。

サンフランシスコ連銀デーリー総裁は「これまでに得られた情報を考慮すると、何らかの政策調整が正当化される可能性が高い」と利下げを示唆。

セントルイス連銀ムサレム総裁も「6 月 C P I 統計はインフレ低下に向けたさらなる前進を示唆している」と歓迎しています。

それらを反映して市場ではさらなる利下げ観測が台頭。CME の FedWatch ツールを見ると市場予想では「9 月利下げ開始」9 割超と引き続き多数派ですが、うち 8% が 0.25 ポイントではなく 0.50 ポイント利下げを織り込んでいる計算になります。またこれまで「年内 2 回、計計 0.50%ポイント利下げ」が主流だったのか「年内 3 回、計 0.75%ポイント利下げ」が多数派になりました（図表 10）。

図表 10 CME の FedWatch ツールによる利下げ予想



(出所：) CME フェド・ファンด์・ツール

↓の左タブから probabilities をクリック。

<https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html>

4

7. コモディティは食料が下落

原油価格は引き続きレンジ内ながらやや強含み (図表 11)。引き続き原油は下がりにくいと考えているのですが、以下の条件にもかかわらずそれほど上昇もしていません。世界全体の景気がスローダウンしているからだとは私は考えています。

- イランの核施設を破壊するまでイスラエルの攻撃は続くはず
- バイデン政権はいったん緩めたベネズエラやイランへの制裁を再開した
- (追加) 中東の騒乱でスエズ運河や紅海を迂回する海路を取る船が増え、コスト上昇
- 米国の石油戦略備蓄 (SPR) は 17.7 日分にまで減少しており、いつ買い戻されるかわからない恐れ

図表 11 WTI 原油先物



(出所：investing.com <https://jp.investing.com/commodities/crude-oil-streaming-chart>)

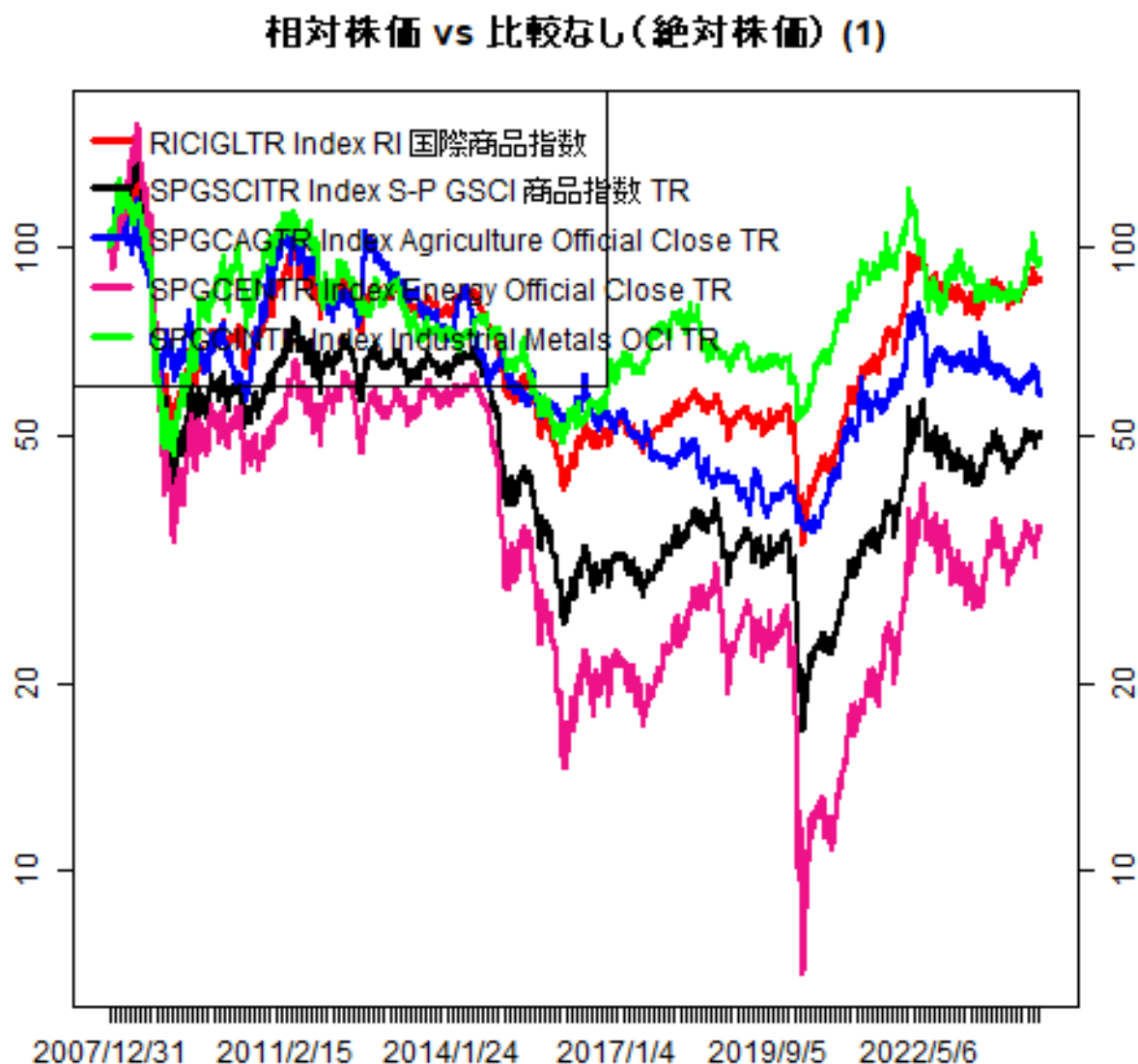
今年3月に米エネルギー長官は「今年末の戦略石油備蓄 (SPR) は大規模放出前の水準以上に戻る」と発言しましたが、その言葉とは裏腹にほとんど増えていません (図表 12)。このままではとても年末までに放出前の水準に戻ることはないでしょう。

図表 12 米原油在庫・戦略備蓄 (SPR)



コモディティ指数はまちまち (図表 13)。**産業用金属**が踏み上がったところから反落し、**エネルギー**はレンジの中でやや上昇しています。一方で**食料**が弱いことが気になっています。日本国内では米の価格が上昇しているようですが、これは「在庫減少」のほかに「他の穀物との価格差修正」の動きが入っているのかもしれません。

図表 13 主要コモディティ指数

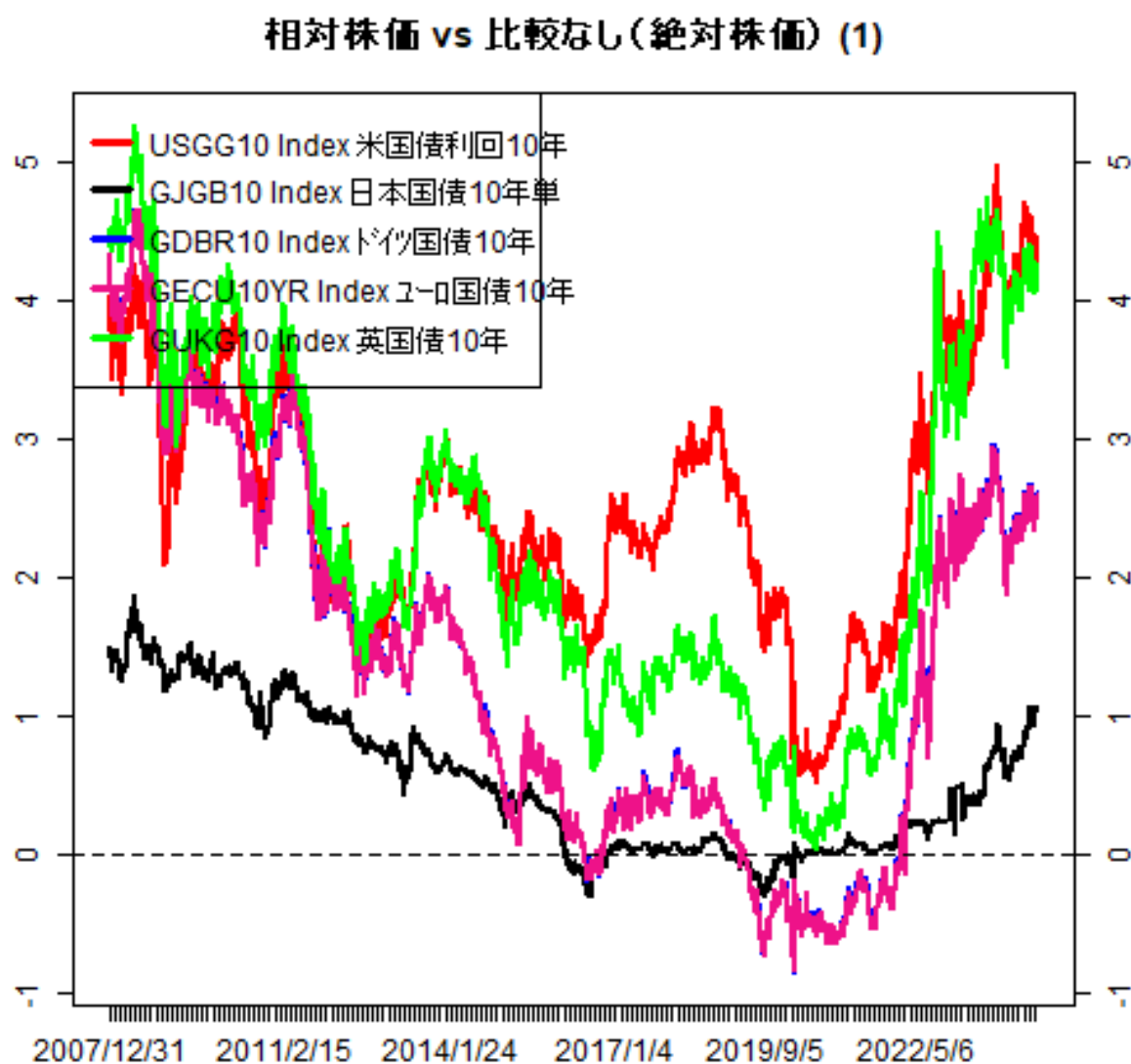


作成:wildinvestors.com, データ元:トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

8. 短期のブレイクイーブンインフレ率(BEI)が急低下

米物価指数が落ち着いたことで米 10 年国債金利は 4.18% 近辺へやや低下 (図表 14)。ユーロ・英国・日本の 10 年国債もあまり変わりませんでした。

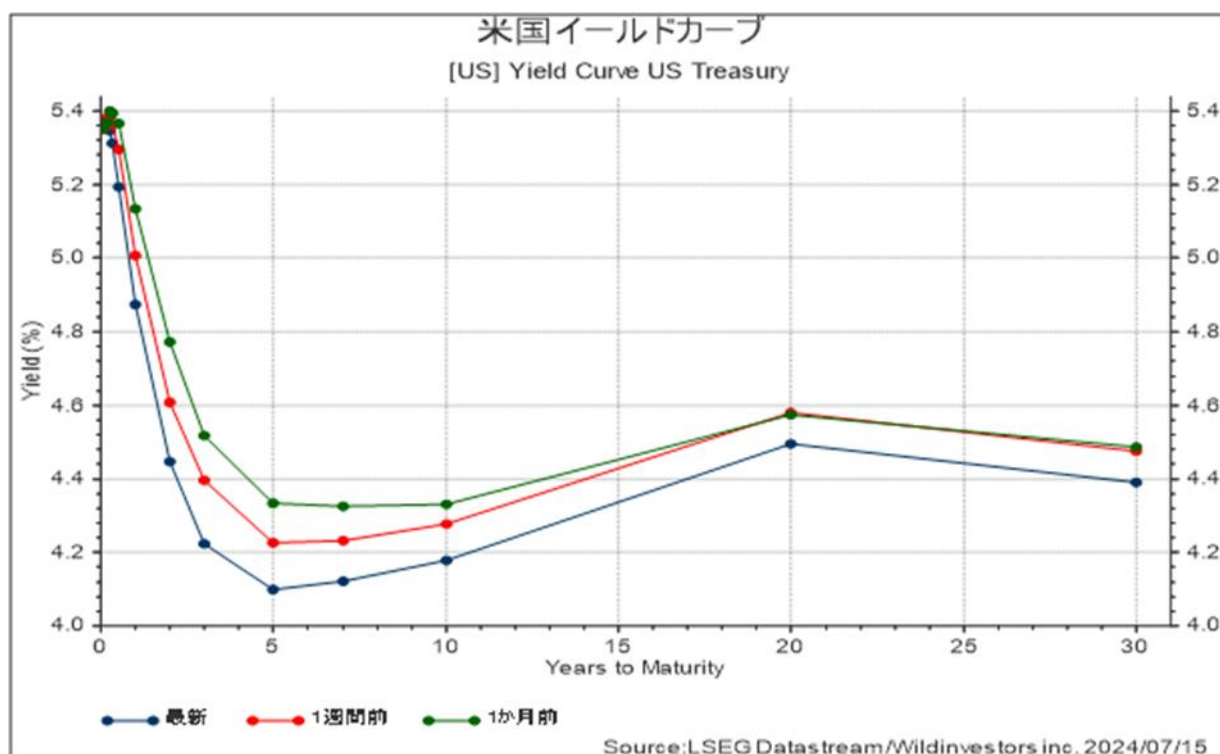
図表 14 主要国 10 年国債金利



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

米国国債のイールドカーブは5年から先の期間が先月から約0.20%ポイント超低下し、逆イールドが強まりました(図表 15)。これは秋以降の利下げを織り込む動きです。一方でそれよりも長い10 - 30年債はそれほど金利が低下しませんでした。世界中の投資資金が米国に集中すると、新興国はいずれ資金不足に陥る可能性が高いです。するとドットコムバブルの途中で見られた1997-98年のアジア・ロシア危機と同じように、「新興国連鎖破綻によって短期金利が急低下し順イールドへ復帰」という展開がメインシナリオです。

図表 15 米国イールドカーブ

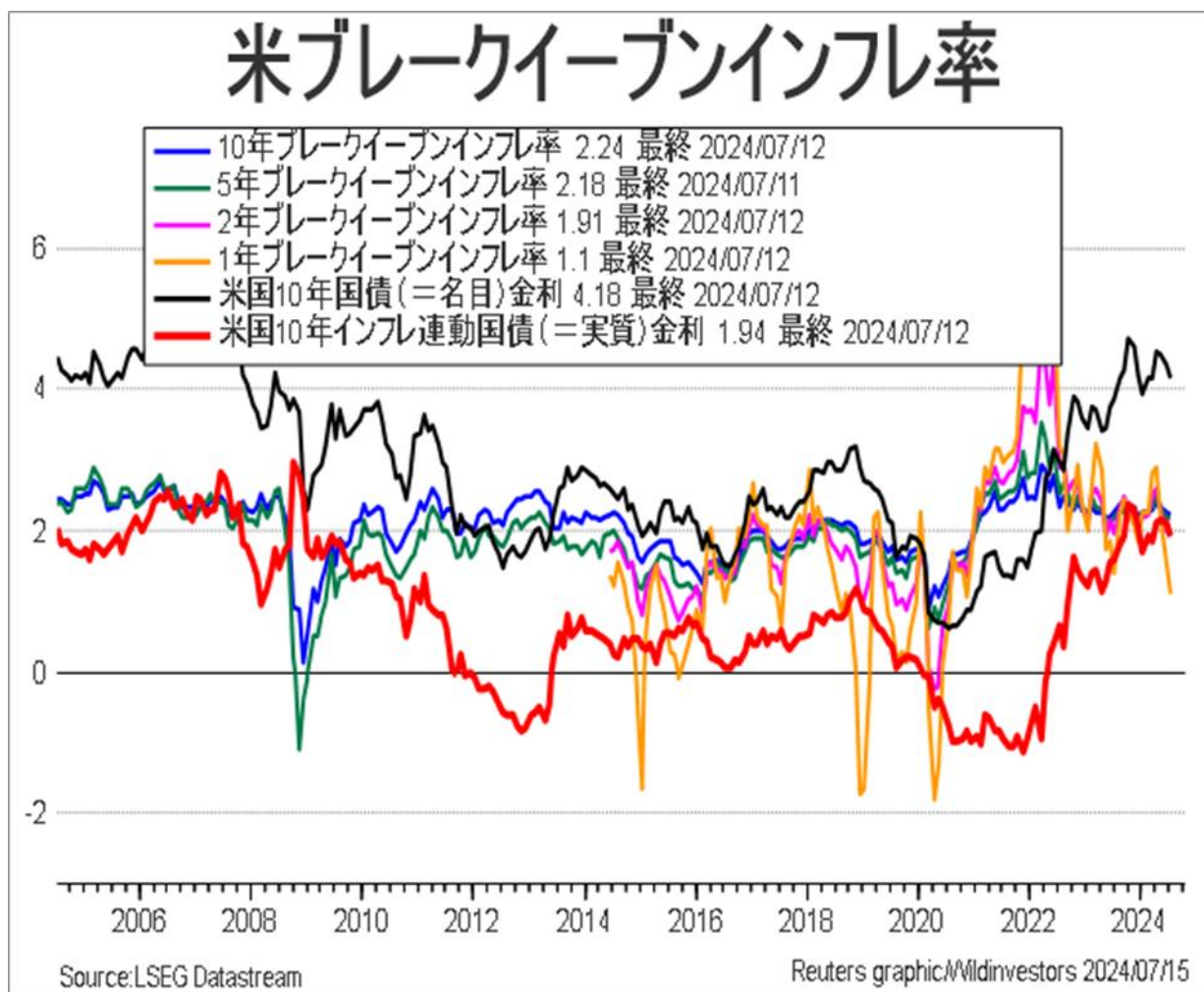


期待インフレ率に等しいとみなされるブレイクイーブンインフレ率(BEI)は **1年**が 1.60%から 1.10%へさらに急低下 (図表 16)。これはもうほとんど

「リセSSIONを織り込み始めているレベル」

と言えそうです。さらに **2年・5年・10年**と長くなるにしたがって 1.91%-2.24%と「順イールド」がさらに急になってきました。また、ほぼ実質金利である **米10年インフレ連動国債金利**は 2.02%から 1.94%へとさらに低下。それでも **この実質金利は世界中の投資家にとって魅力的であり、引き続き米国への資金集中が続く**と私は考えます。

図表 16 米国のブレイクイーブンインフレ率 (BEI)

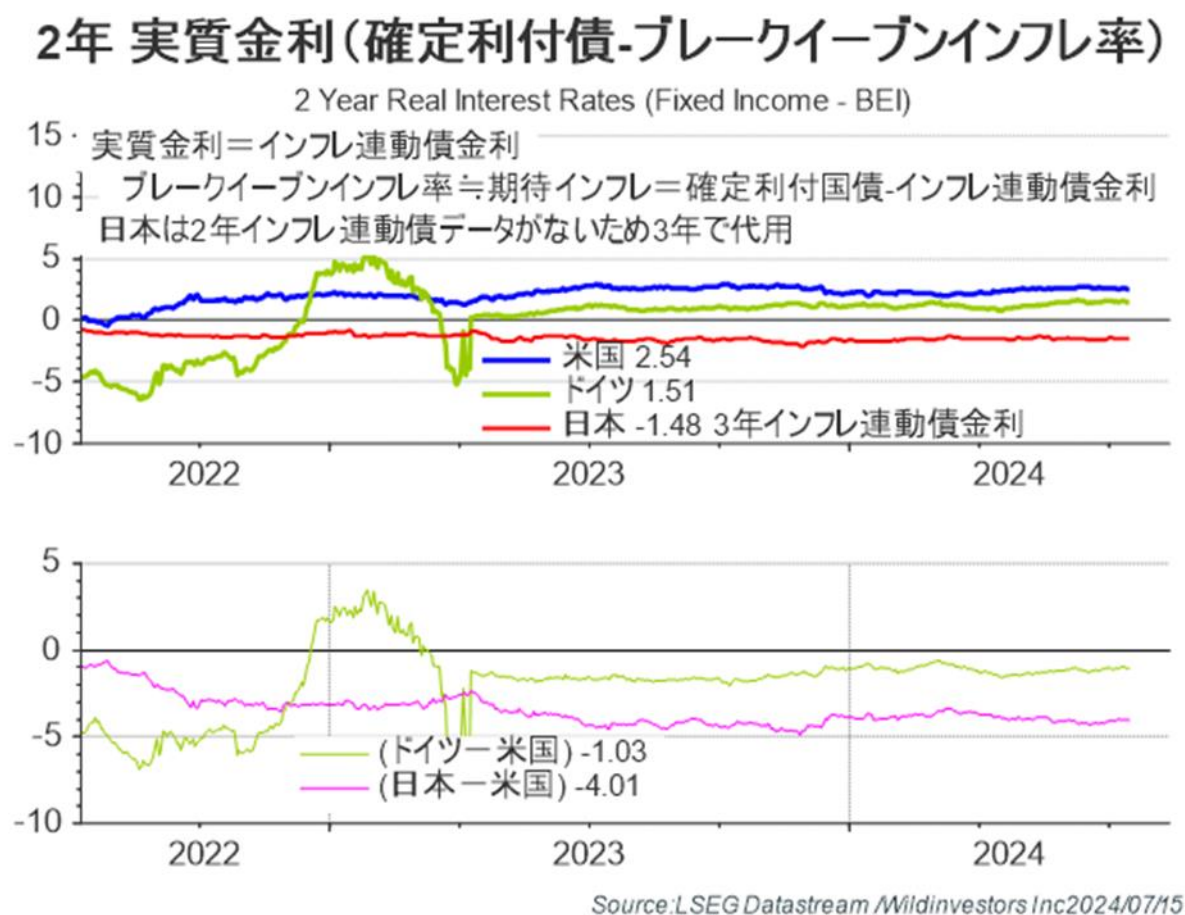


9. 実質実効為替レート、ドル反落だが円も弱い

また例によって少し雑なやり方ですが、日米独の**実質金利**を確認します。**インフレ連動債金利**あるいは「確定利付債金利」から「ブレイクイーブンインフレ率 (BEI)」を引いた**米国**の2年実質金利は先月の2.61%から2.54%と低下 (**図表 17**)。一方**ドイツ**は1.48%から1.51%へ上昇したため、米国との実質金利差は-1.12%から-1.03%へとマイナスがさらに縮小しました (同下段パネル)。

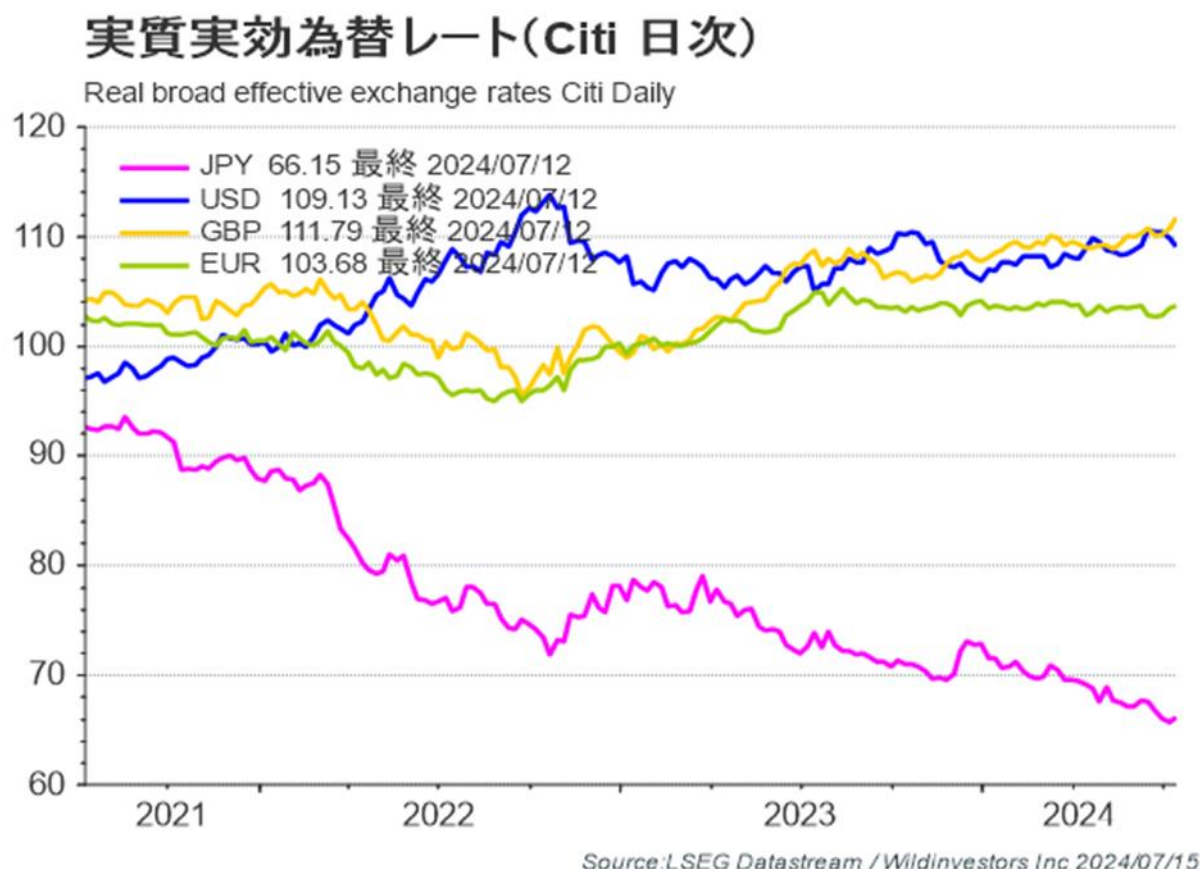
日本にはそれらに相当するものがないので、3年のインフレ連動債金利で代用します。それによると日本の3年実質金利は-1.59%から-1.48%と若干上昇。米国の2年実質金利との差は-4.20%から-4.01%へと縮小しました (同下段パネル)。

図表 17 日米独の実質 2 年金利（確定利付債-ブレイクイーブンインフレ率）



先進国の4通貨**実質実効為替レート**は**米ドル**が下げました（図表 18）。代わりに**英ポンド**や**ユーロ**が挙げています。**円**は引き続き安くなり続けていたところから、最近になってやや反発しました。

図表 18 主要通貨の実質実効為替レート



10. やはり日銀介入は敏腕トレーダーのよう

ドル円は 160 円を突破して 161 円台をうろついたあと、米 CPI 発表を受けて 4 円以上の急反落（**図表 19**）。急な動きだったことから日銀による介入が噂され、のちの統計でその規模は約 3.5 兆円と推定されています。やはり日銀さんはタイミングを見て為替トレーダーのような介入をやってきますね。うまいと思います。

図表 19 ドル円は日銀介入水準が定着

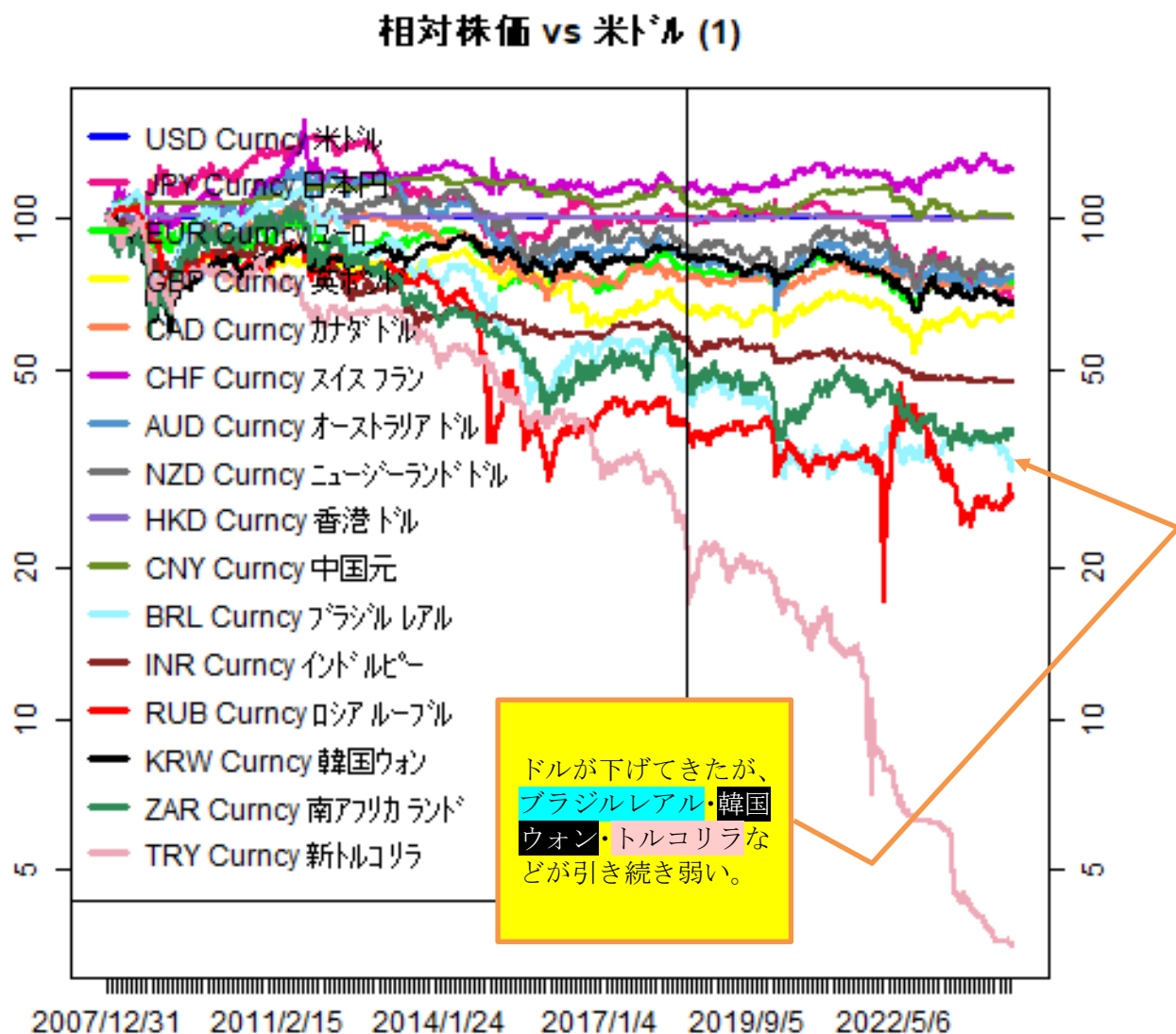


(出所：Zai FX)

<https://zai.diamond.jp/list/fxchart/detail?pair=USDJPY&time=1mon#charttop>

06 月中はドルが強かったのですが、07 月に入ってからドルが弱くなり右肩下がりになる主要通貨が増えていきます（図表 20）。しかし新興国の中では弱いものが残っており。特に **ブラジルレアル**・**韓国ウォン**・**トルコリラ**などが目立ちます。

図表 20 主要国通貨（対ドル）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

人民元/米ドルは軟化したところで小動き（図表 21）。

今は「中国から西側への資金引き揚げ」と「中国企業が外国資産を叩き売って国内の損失に充当するリバトリエーション」が拮抗しているのではないかと私は考えます。デフレが進むと通貨は高くなるはずなのに、それと拮抗するほどの資金流出があるのではないかと推測しています。

「ドル 7.3 人民元の水準を超えるとどこまで下がるかわからない」という予想は変わっていませんが、いつそうなるかと言われると全く分かりません。そのときはおそらく、中国にとって破滅的な出来事と一緒に起きるのではないかと考えています。

図表 21 人民元/ US ドルレート（月次）



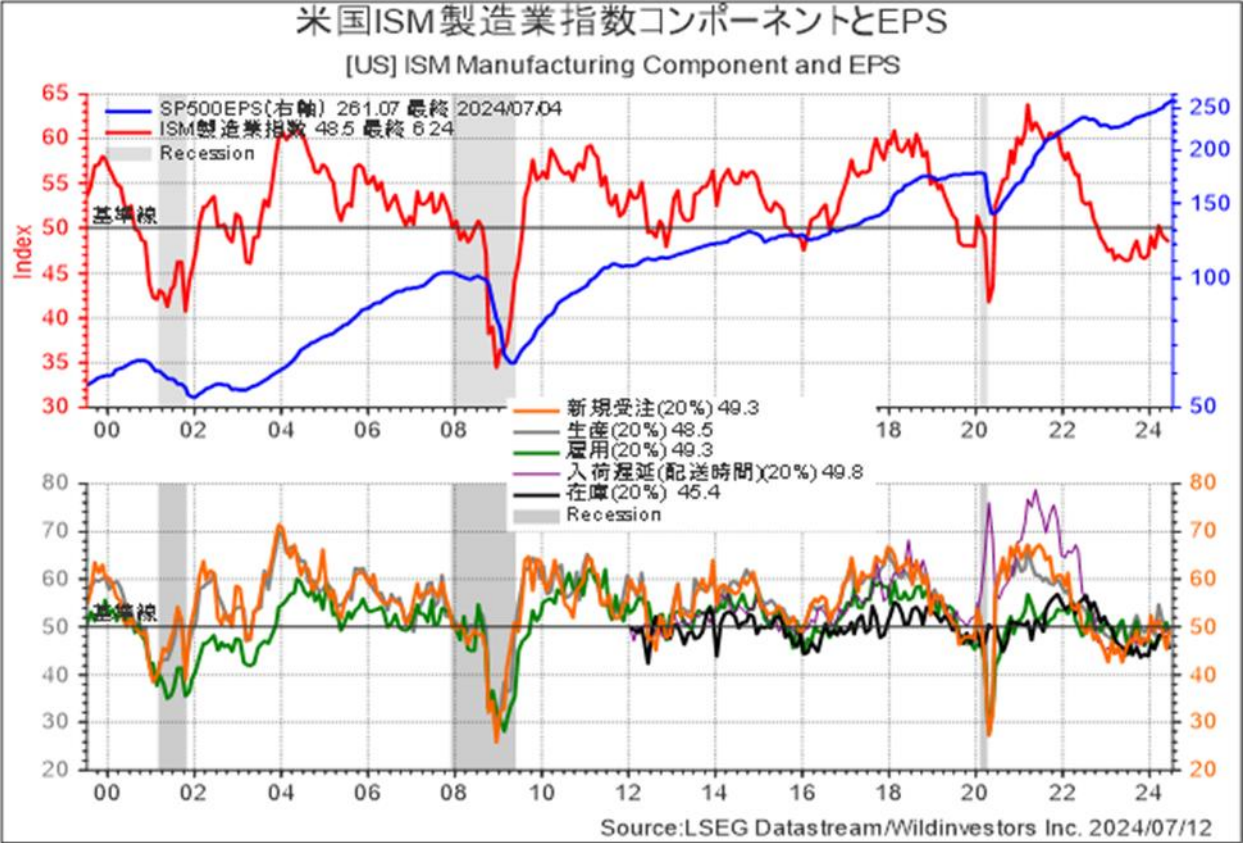
(出所：investing.com <https://jp.investing.com/currencies/usd-cny-chart>)

11. ISM「非」製造業指数、4年ぶり低水準で外需の危うさ示す

5月の米ISM製造業指数は48.5と4か月連続の縮小領域（図表22）。生産と雇用まで50を割り込み、拡大しているものがなくなりました。しかし新規受注が反発し、在庫が縮小したのでそれほど悪くないと私は考えています。市場は入荷遅延が縮小領域であり現状がゴルディロックスシナリオに近いことを好感しているようで、その先にあるかもしれないリセッションシナリオはあまり考えていないようです。

03月	→	04月	→	05月	→	06月	
50.3	→	49.2	→	48.7	→	48.5	ISM 製造業指数
51.4	→	49.1	→	45.4	→	49.3	新規受注
54.6	→	51.3	→	50.2	→	48.5	生産
47.4	→	48.6	→	51.1	→	49.3	雇用
49.9	→	48.9	→	48.9	→	49.8	入荷遅延
48.2	→	48.2	→	47.9	→	45.4	在庫

図表 22 米 ISM 製造業指数コンポーネントと EPS



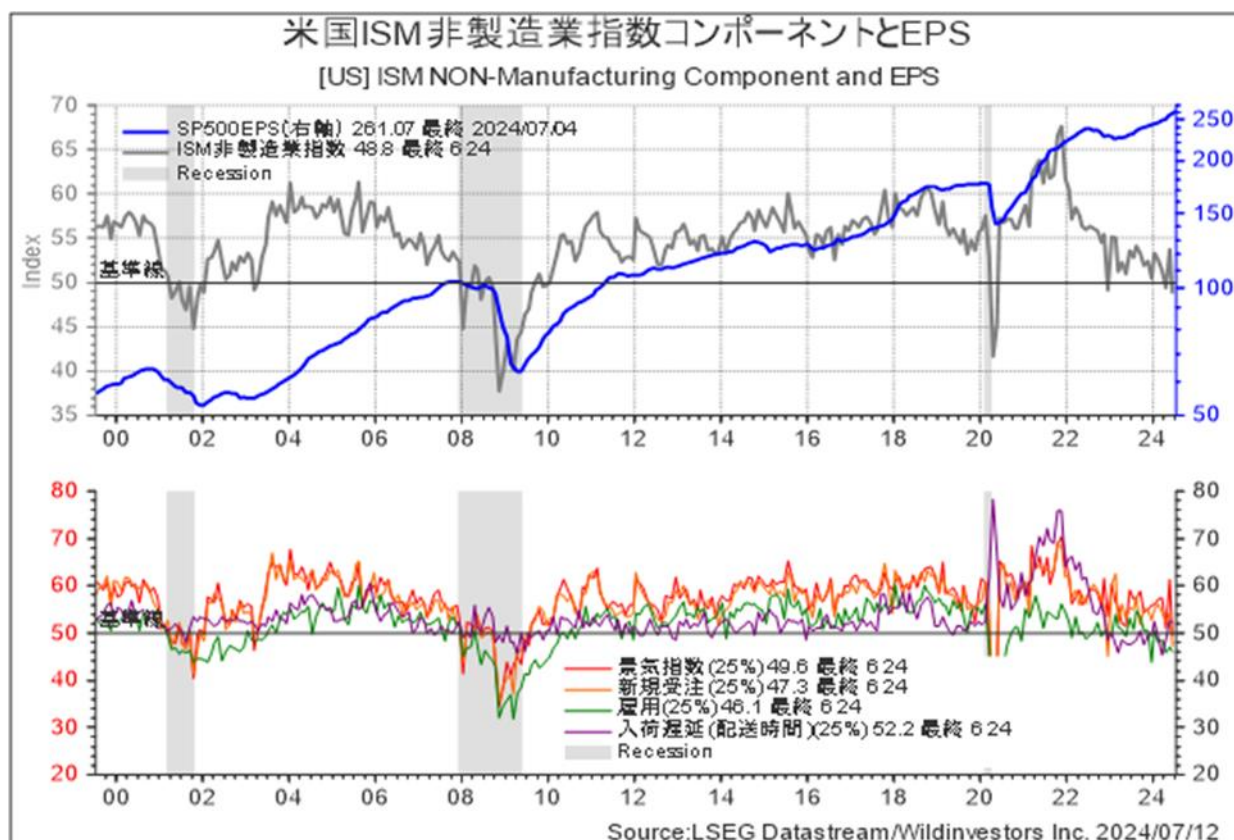
一方、米 ISM「非」製造業指数は 48.8 と前月の 53.8 から反落して 4 年ぶり低水準（図表 23）。その底堅さがこれまで製造業の低調さを支えてきましたが、その構造に暗雲が立ち込めています。

特に景気指数が 10 ポイント以上反落し、新規受注も 7 ポイント近く下げて縮小領域に突っ込んでいます。雇用は引き続き冴えません。ただ入荷遅延だけがまた拡大領域で踏みとどまっています。

ある記事によると「新規輸出受注指数はなお 50 を上回っているものの、10.1 ポイント低下の 51.7 と海外需要の低迷」と書いてあります。海外需要が腰折れしたのかもしれませんが。

03 月	→	04 月	→	05 月	→	06 月	
51.4	→	49.4	→	53.8	→	48.8	ISM「非」製造業指数
57.4	→	50.9	→	61.2	→	49.6	景気指数
54.4	→	52.2	→	54.1	→	47.3	新規受注
48.5	→	45.9	→	47.1	→	46.1	雇用
45.4	→	48.5	→	52.7	→	52.2	入荷遅延

図表 23 米 ISM「非」製造業指数コンポーネントと EPS



12. 新興国の中で東側から西側に資金移動か

この米株の上昇相場は、【ドットコムバブル期に交互に表れたパターン】を繰り返しながら上昇を続けてきました。

(パターン a) 好調な経済指標 → インフレ懸念強まる → 米金利上昇・ドル高 → 米株は小幅高

(パターン b) 経済指標悪化 → インフレ懸念やわらぐ → 米金利低下とドル安 → 米株は大幅上昇

4月に米経済がスローダウンすると米金利が下げ、米長期金利が低下すると(パターン b)で米株はあっさりとして史上最高値を更新しました。6月もそれが続き、毎日のように史上最高値を更新しています(図表 24)。

図表 24 米 SP500 指数（現地通貨ベース）



（出所： <https://www.marketinout.com/chart/market.php?breadth=advance-decline-line>）

NASDAQ「総合」指数もさらなる勢いで史上最高値を更新（図表 25）。しかも **AD ライン**（値上がり銘柄数から値下がり銘柄数を引いて累積してゆく指数）が上がらないという「**極端な二極化で広がり (Breadth) のない相場上昇**」が継続しています。

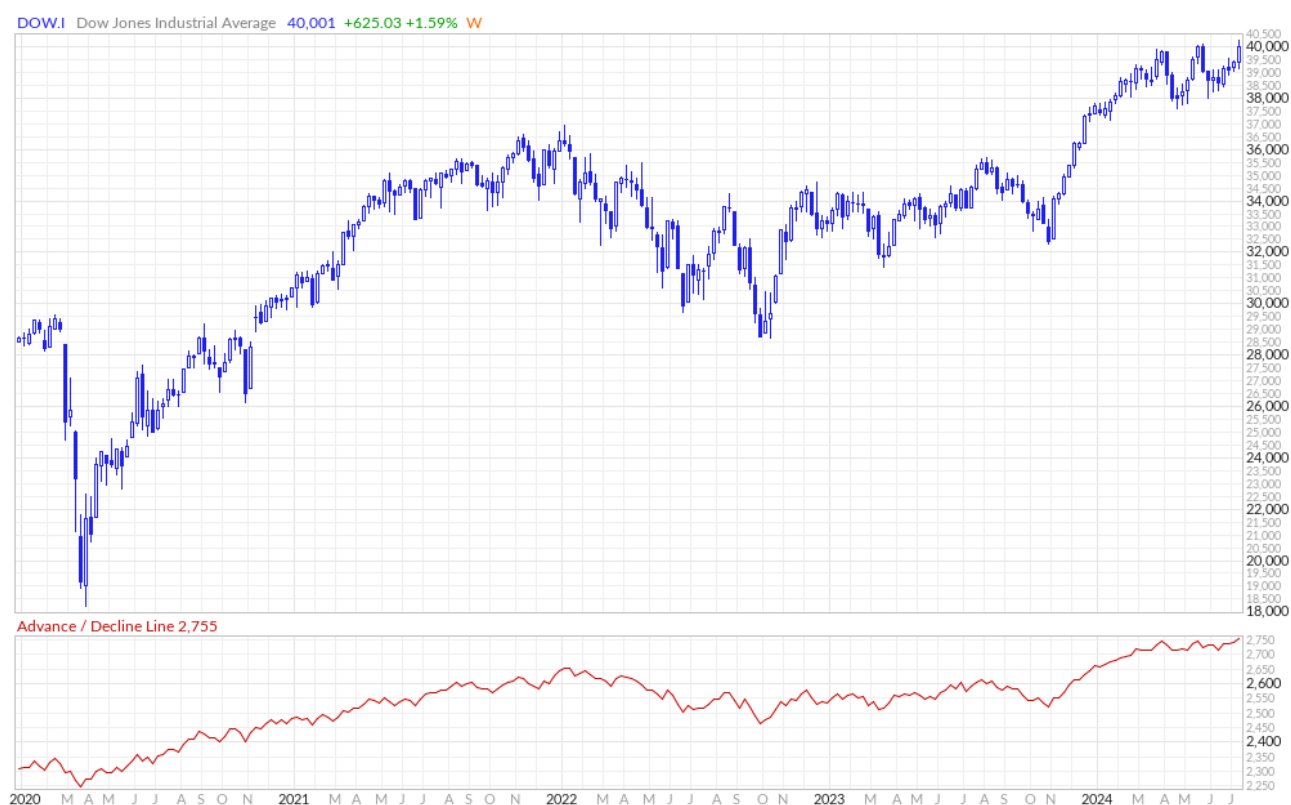
図表 25 米 NASDAQ「総合」指数（現地通貨ベース）



(出所: <https://www.marketinout.com/chart/market.php?breadth=advance-decline-line>)

一方でバリュー株が多いNYダウは05月の史上最高値をやっと更新しました（図表 26）。極端な二極化が進む中で、どうしても劣後しやすい状況です。

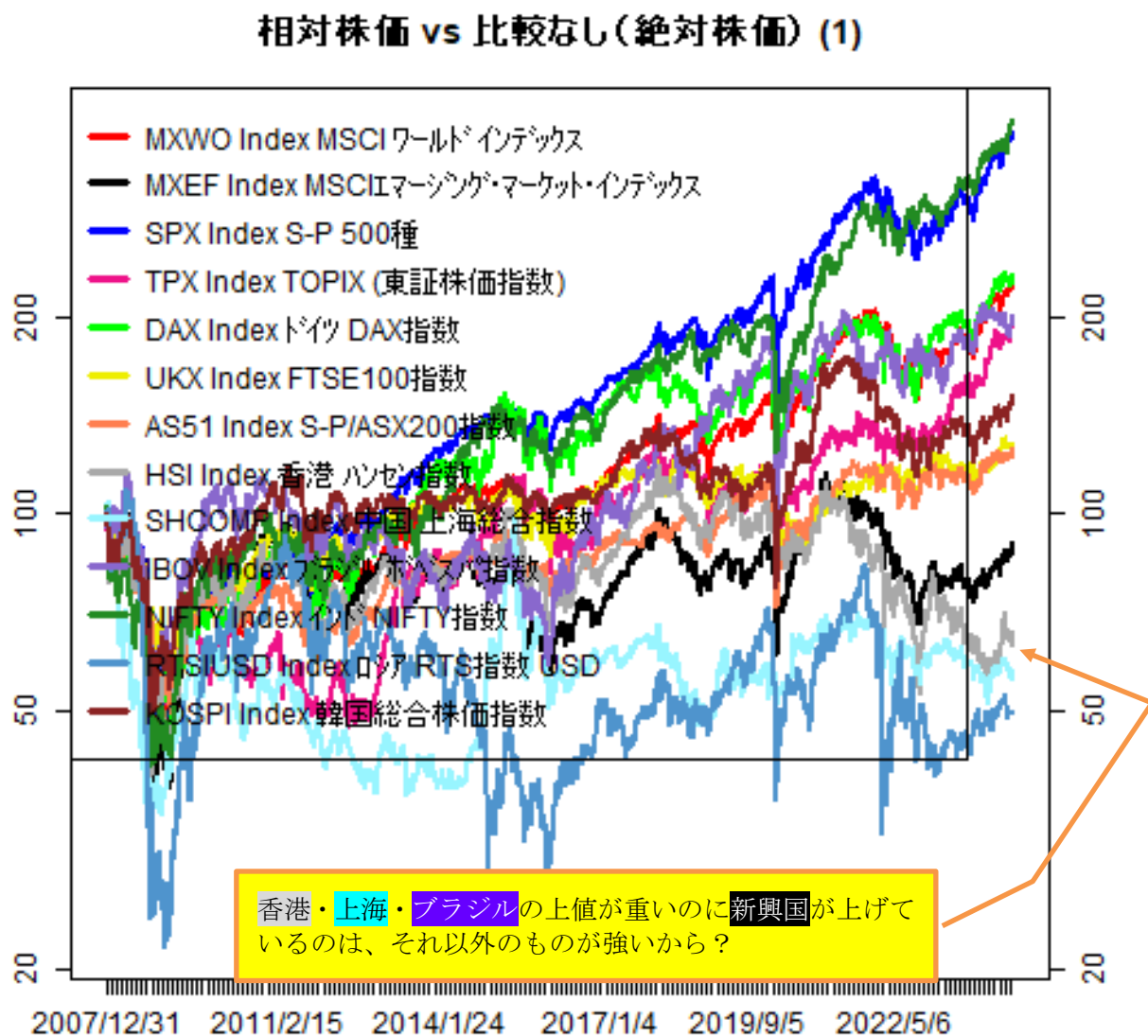
図表 26 米 NY ダウ指数（現地通貨ベース）



（出所： <https://www.marketinout.com/chart/market.php?breadth=advance-decline-line>）

現地通貨ベースで主要国の株価を見ると、**米国株**をはじめほとんどの株価が上昇（図表 27）。しかし**香港・上海・ブラジル**の上値が重くなっています。それでも**新興国**が上げているのは、それ以外のものが強いということなのでしょう。

図表 27 主要国株価指数（現地通貨ベース）

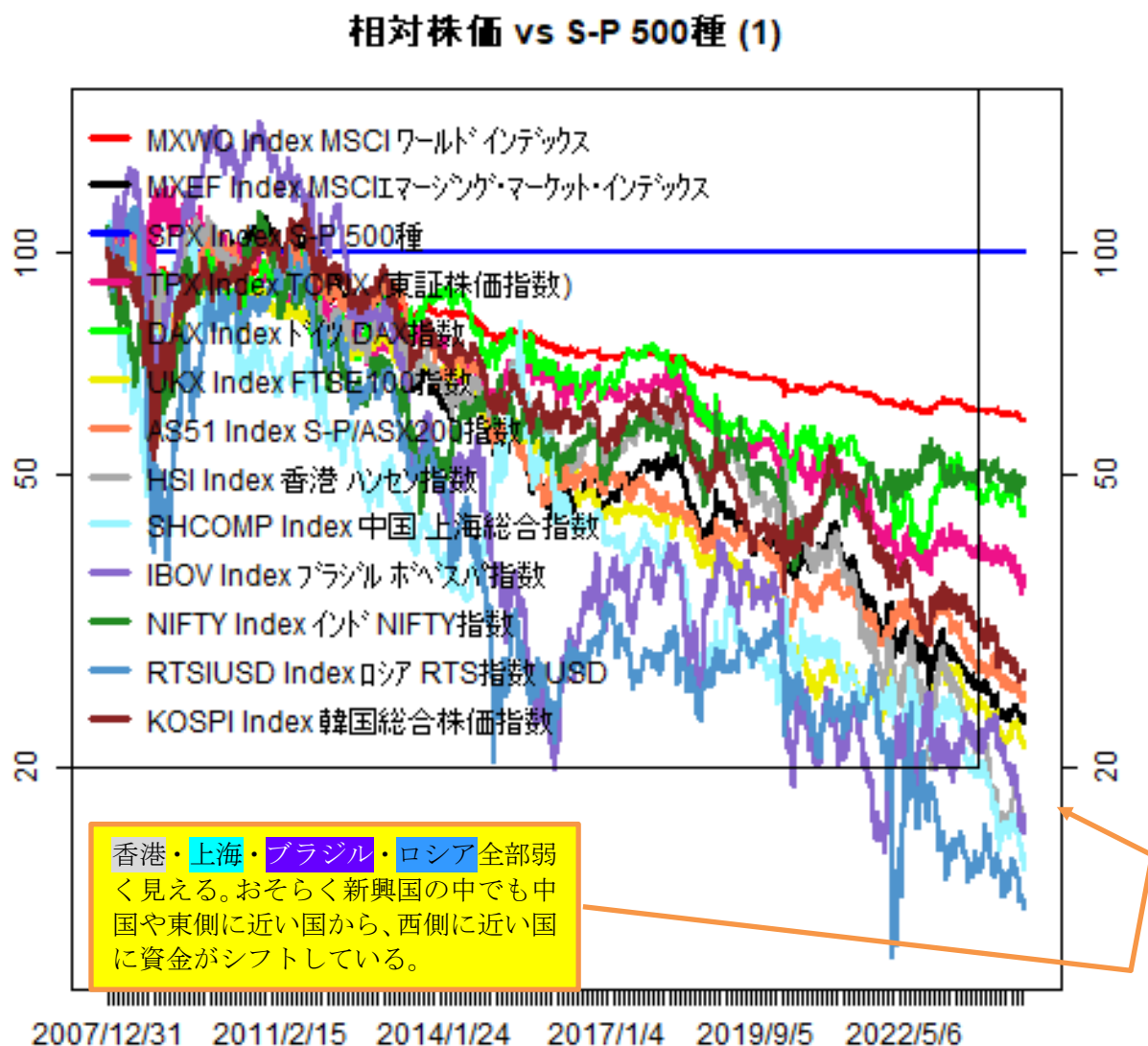


作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

これら通貨と株価を合成して対 SP500 指数ドルベースと比較したものが（図表 28）です。通貨まで加味すると米株よりも強い国はなく、ドイツとインドも弱くなってきました。日本も円安を勘案すると米国に対して弱いです。

新興国株指数は少し戻して「逆流」。香港・上海・ブラジル・ロシア全部弱く見えます。おそらく新興国の中でも中国や東側に近い国から、西側に近い国に資金がシフトしているのでしょう。

図表 28 ドルベース主要国株価指数（対米国 SP500）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

13. 2024 年 06 月は「大型グロース」だけで無理矢理上げた

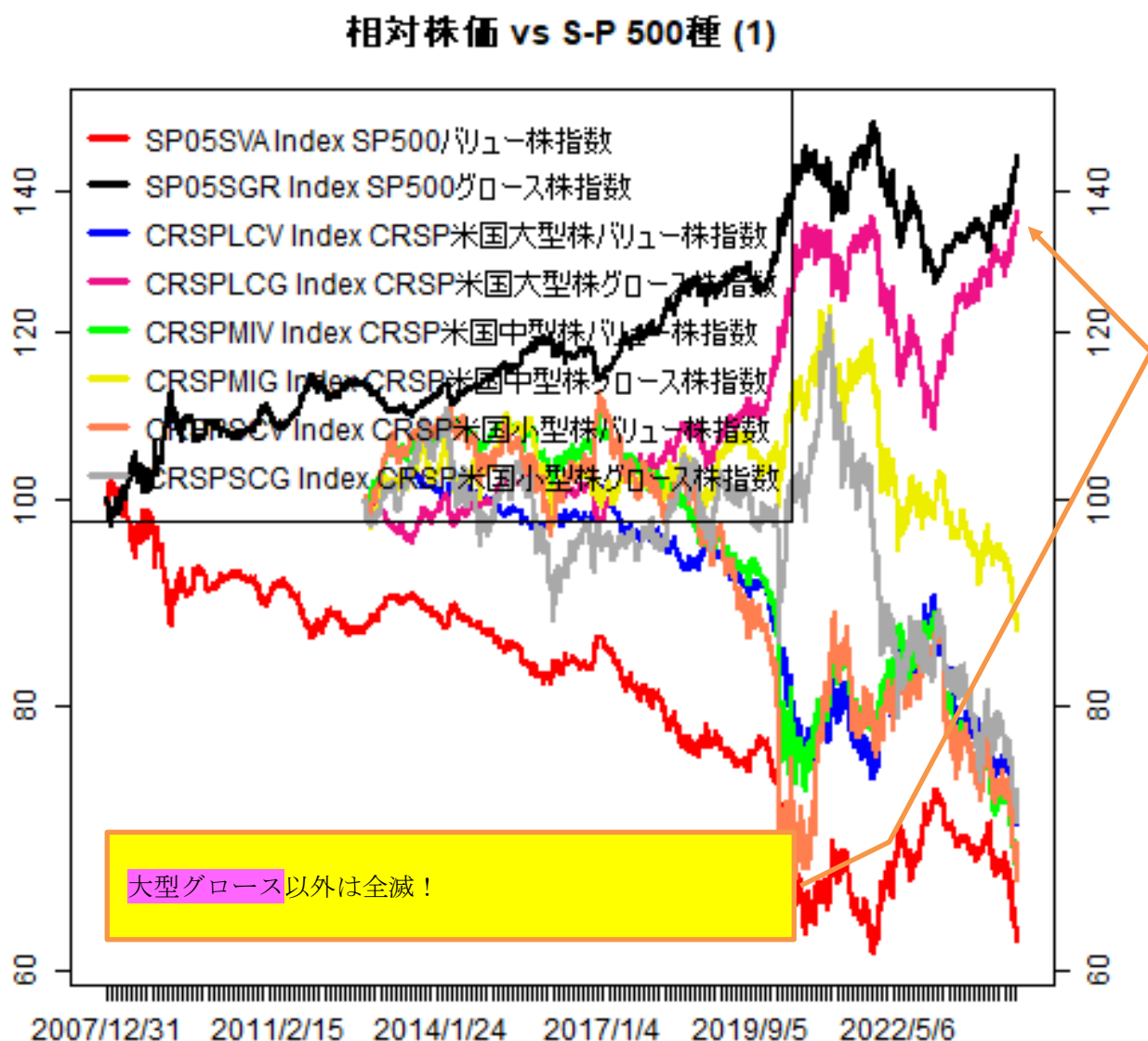
図表 3 はすでに掲載した米国の「バリュー・グロース」「大型・中型・小型」のセグメントを分けた現地通貨ベースのパフォーマンスです。上昇はほぼ大型グロース「だけ」によってもたらされたもので、他はほとんど上昇しませんでした。小型・中型バリューに至ってはドルベースでマイナスでした。

図表 3 2024 年 06 月の米国バリュース・グロースパフォーマンス

CRSP米国株(配当込みトータルリターン)			
現地通貨ベース			
	総合	バリュー	グロース
総合	3.14%		
大型	3.75%	0.20%	6.61%
中型	-0.61%	-1.55%	0.50%
小型	-1.34%	-2.37%	0.03%

これを SP500 に対する相対チャートで見ます (図表 29)。大型グロースだけが相対的に強くあとは全滅で、さらに二極化が進みました。

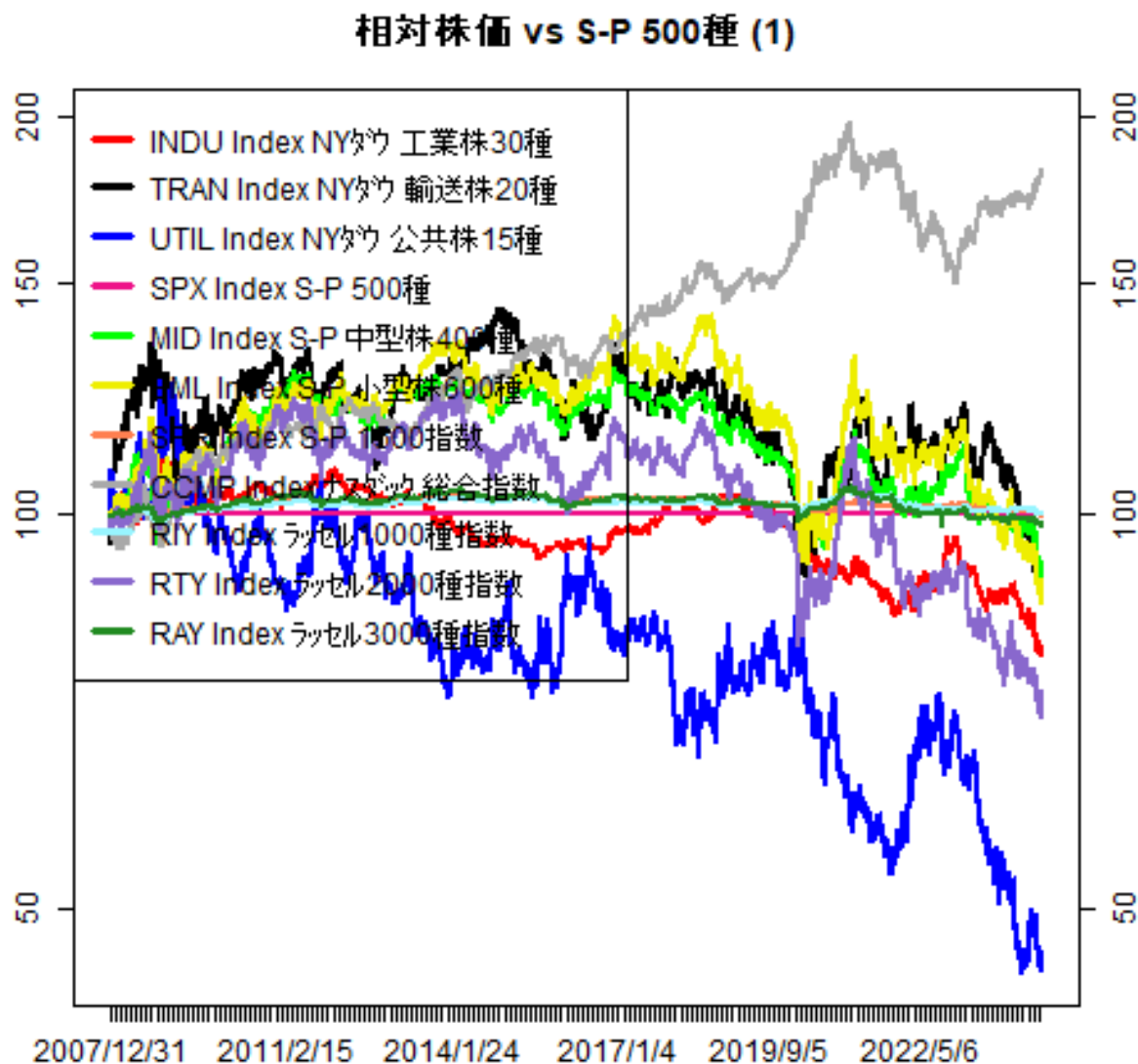
図表 29 米国主要バリュース・グロース株指数 (対 SP500)



作成:wildinvestors.com, データ元:トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

米国の主要株価指数（対 SP500）を見てもナスダックがなんだかんだ上昇を続け、**公共株**が反落する**二極化再開の局面**でした（図表 30）。まだ**小型**・**中型**・**ラッセル 2000** など中小型株は弱く、基本的に大型グロース「だけ」の上昇相場という認識は変わっていません。

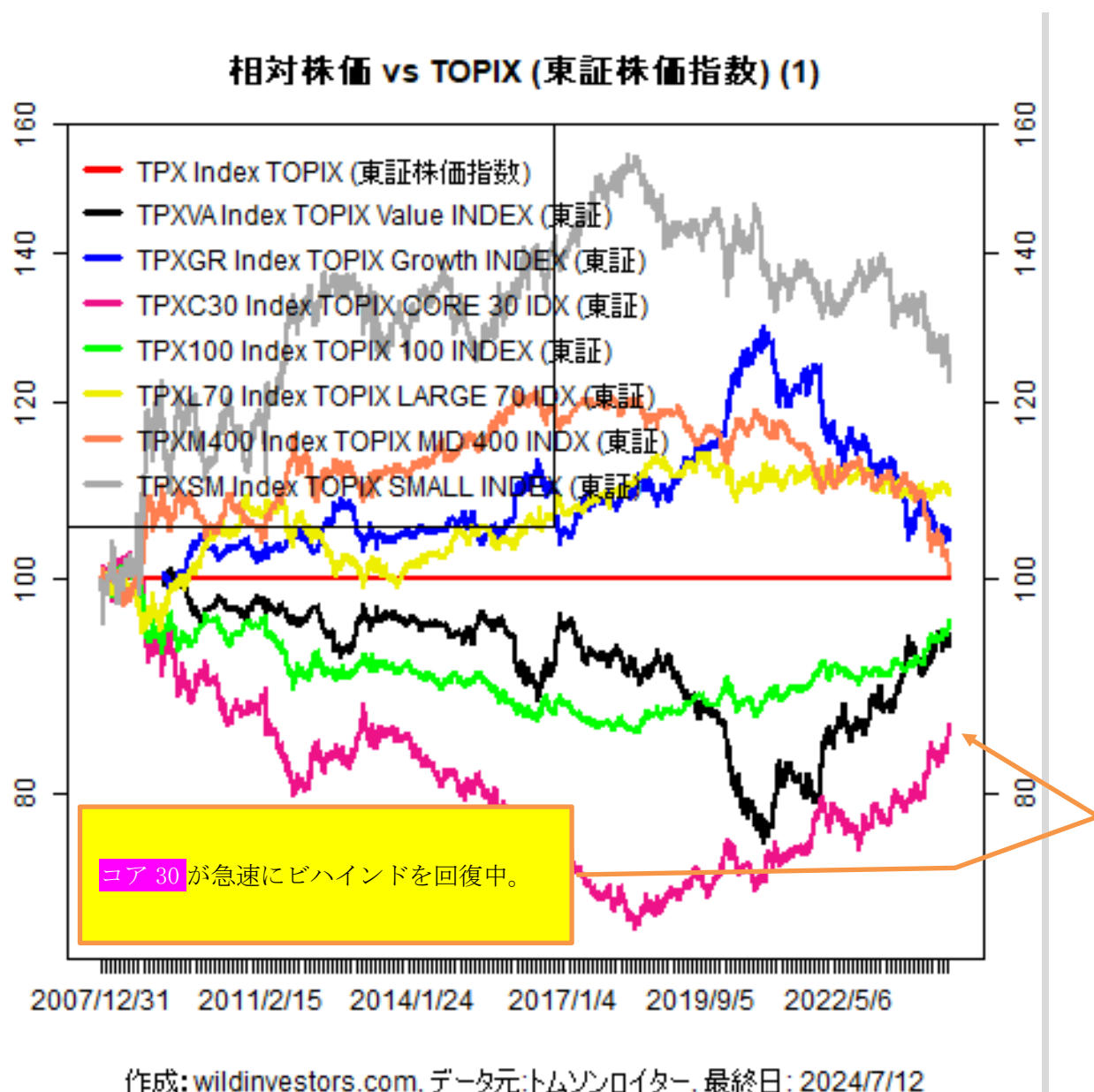
図表 30 米国主要株価指数（対 SP500）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

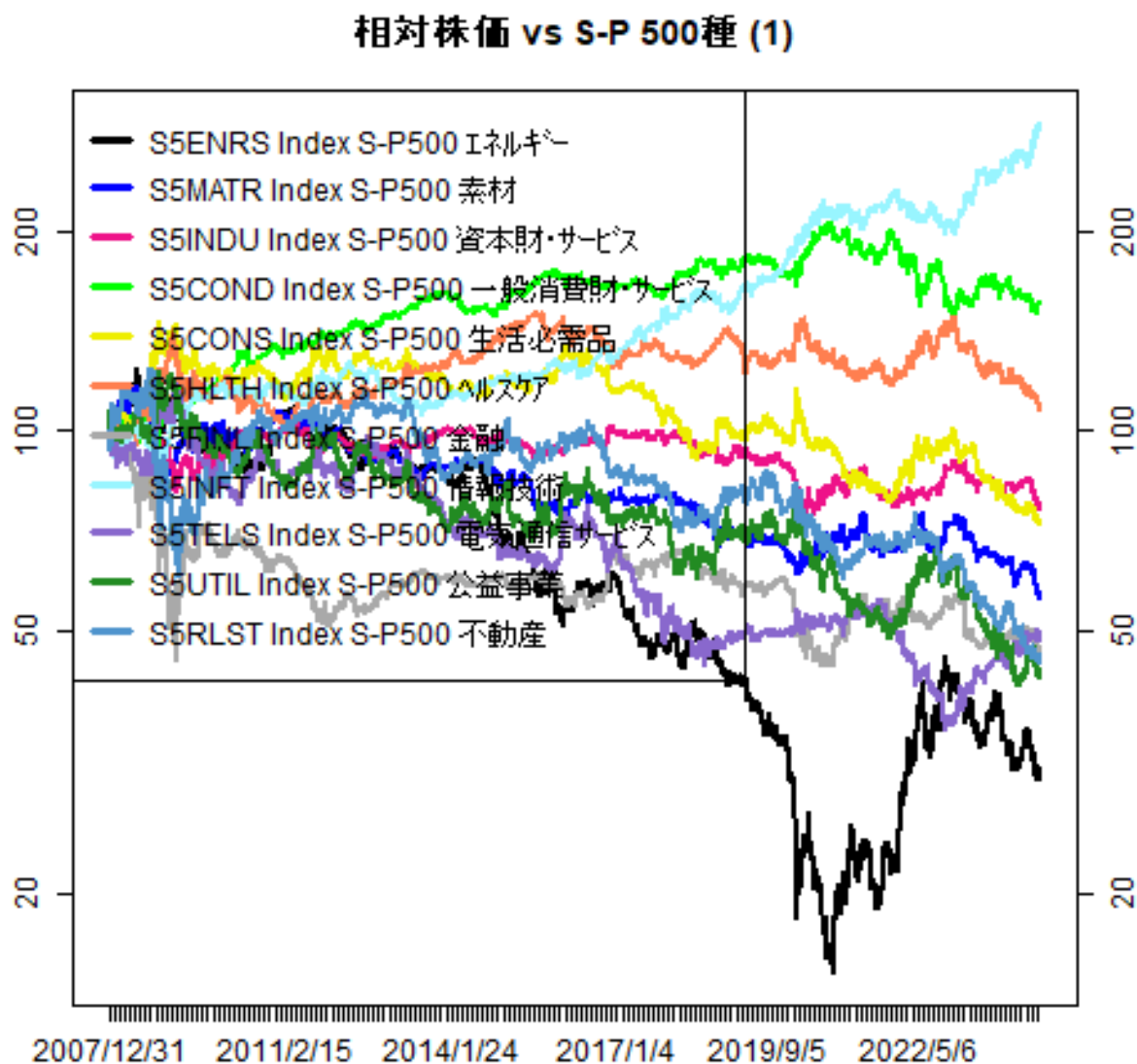
日本株では逆に、**バリュー株**と**グロース株**がその差を急速に縮小しています（図表 31）。その中でも特に、**コア 30**がビハインドを急回復させてきました。

図表 31 日本主要株価スタイル指数 (対 TOPIX)



米国 11 業種相対指数は引き続き**情報技術**がブチ上げ (図表 32)。同じ **AI 業種御三家**の**一般消費財**や**コミュニケーションサービス**も悪くないのですが、どうしても霞んでしまいます。他のセクターは「相対的にほぼ死んで」います。

図表 32 米国 11 業種相対株価指数

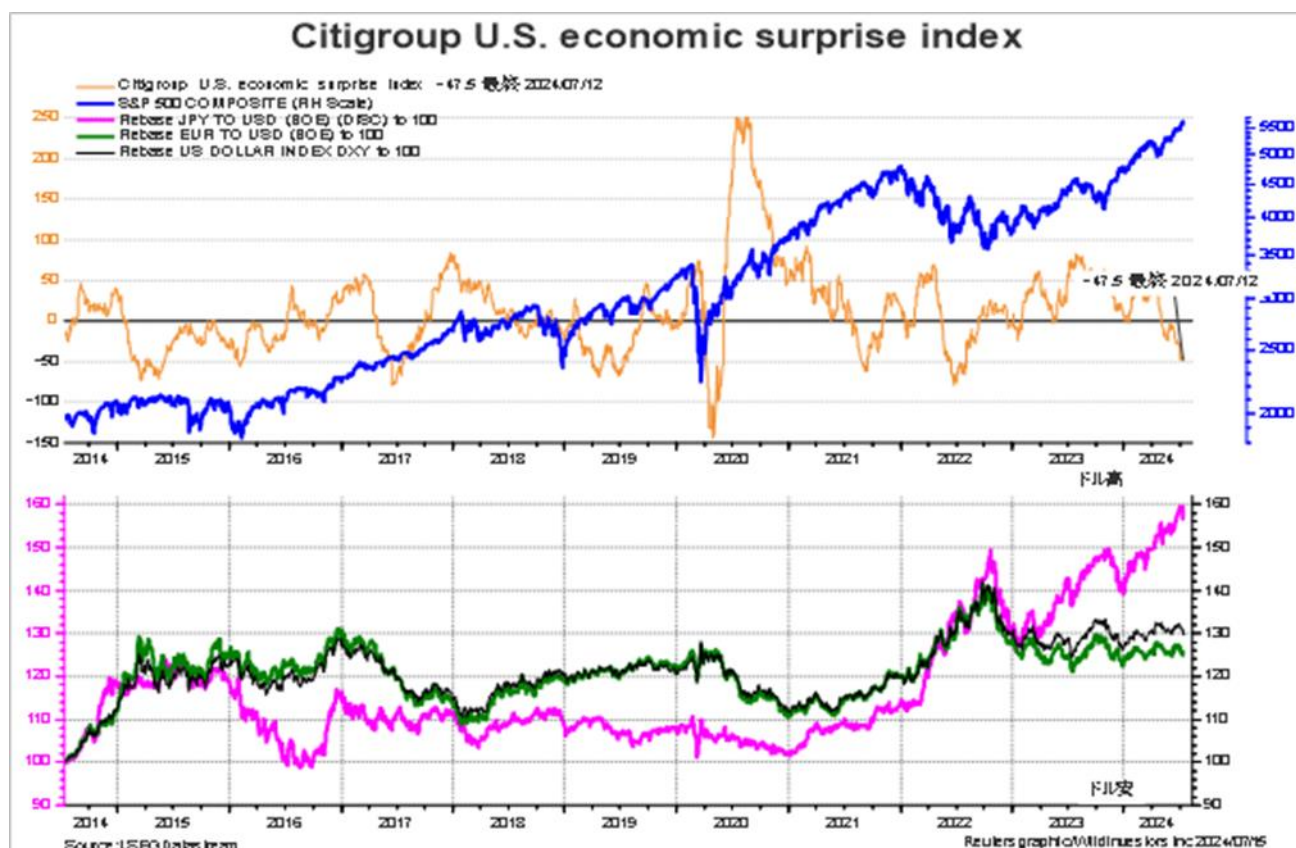


作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

14. 経済指標が悪化するから米株が上昇する

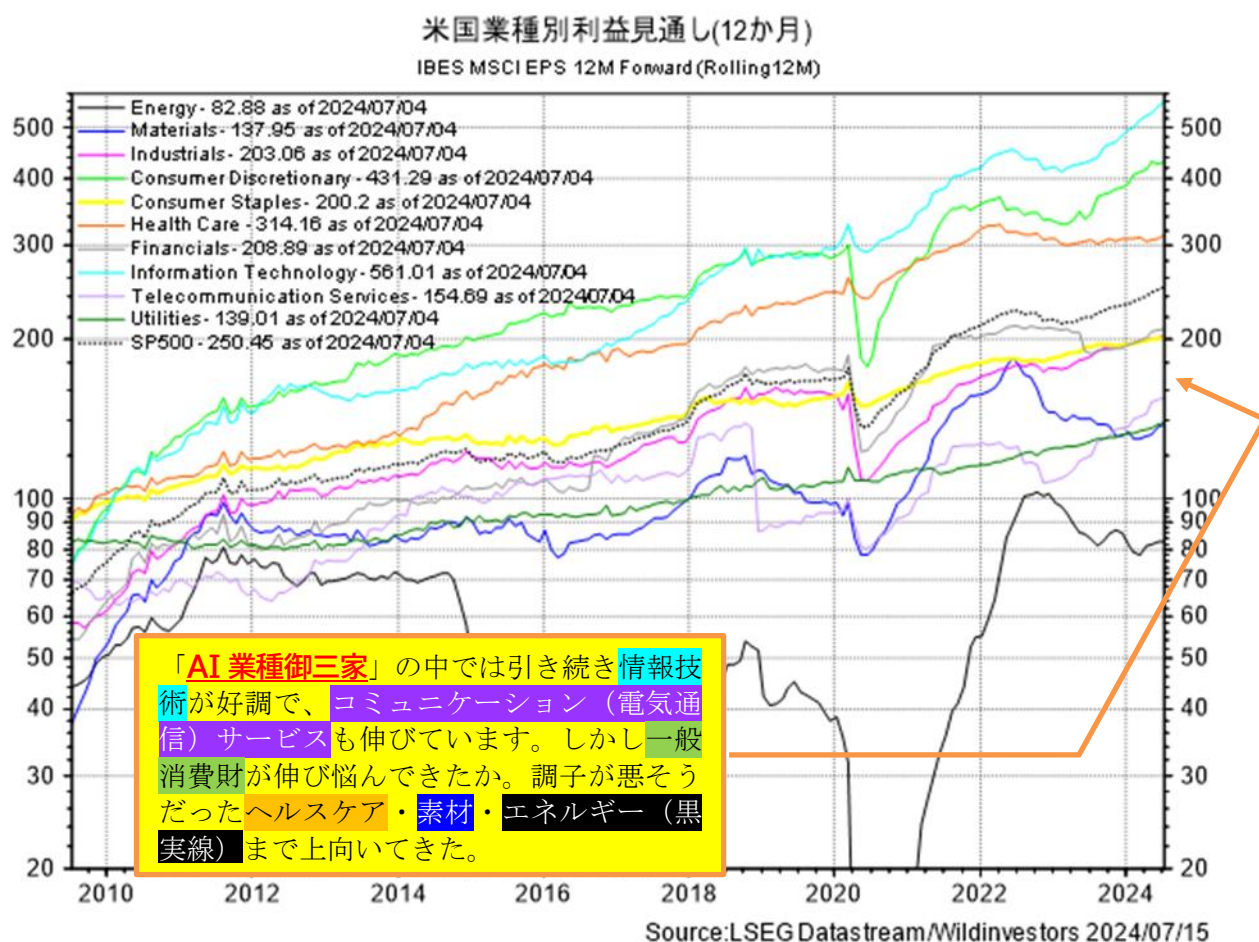
シティグループ **エコノミック・サプライズ指数** は前月の -25.6 から -47.5 へとさらに悪化 (図表 33)。「今は経済指標や業績が悪くなると **ゴルディロックスシナリオ** が復活し、ドル安米株高になる (パターン b) になるので心配無用です」とは書きましたが、これほどまでに米株がブチ上がるといつまで続くのか全く見当が付きません。

図表 33 シティグループ・エコノミック・サプライズ指数, SP500 指数とドル円



米 SP500 指数全体（黒点線）の企業業績見通しは引き続き堅調（図表 34）。「AI 業種御三家」の中では引き続き情報技術が好調で、コミュニケーション（電気通信）サービスも伸びています。しかし一般消費財が伸び悩んできたか。調子が悪そうだったヘルスケアや素材まで上向いてきました。エネルギー（黒実線）も回復気配です。

図表 34 SP500 指数 11 セクターの EPS 予想 (12 か月フォワード)

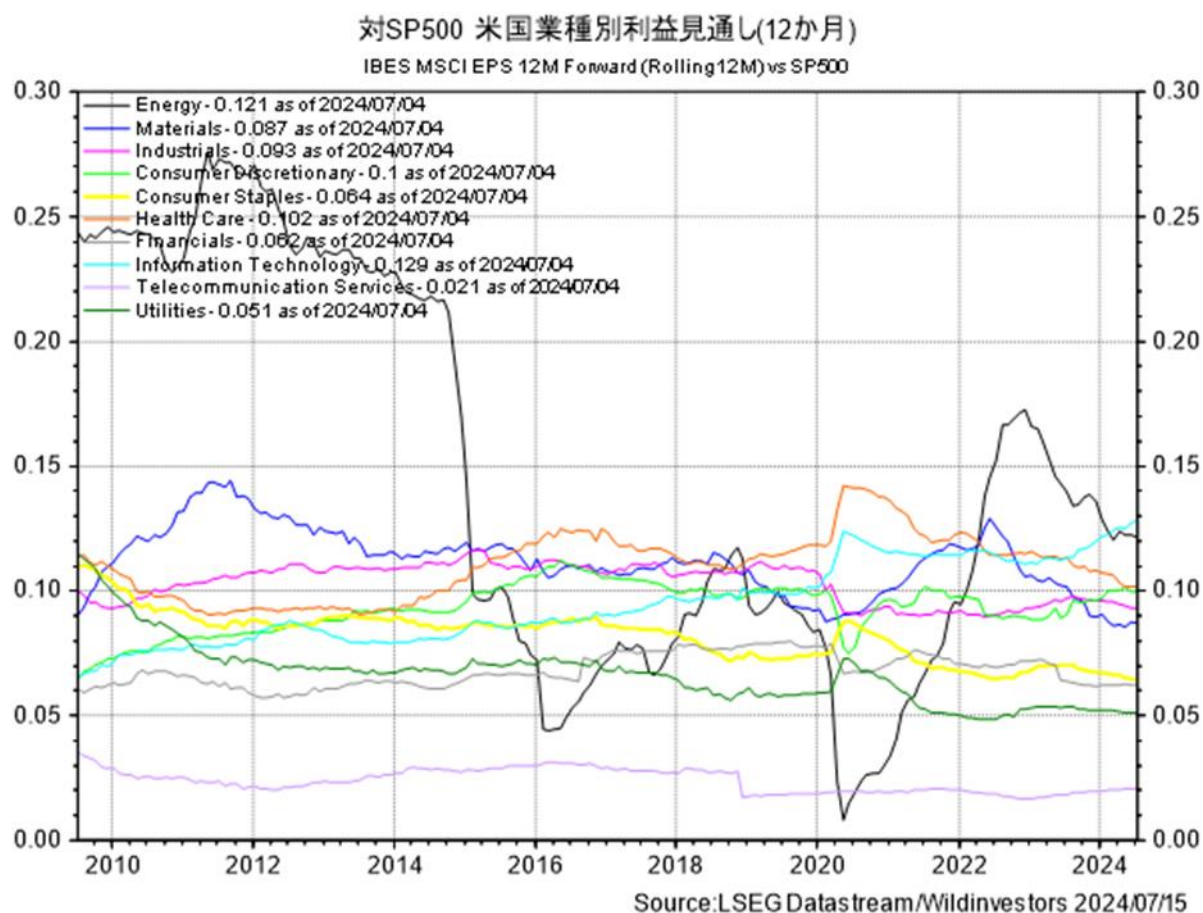


これら業種ごとのEPSをSP500のEPSで割った「相対EPS(一株あたり利益)」も観察します(図表 35)。EPSは株数によって変わるので、水準は問題ではありません。しかしその傾きを見ることによって、

「EPSの伸びがSP500指数を上回っているのか、 下回っているのか」

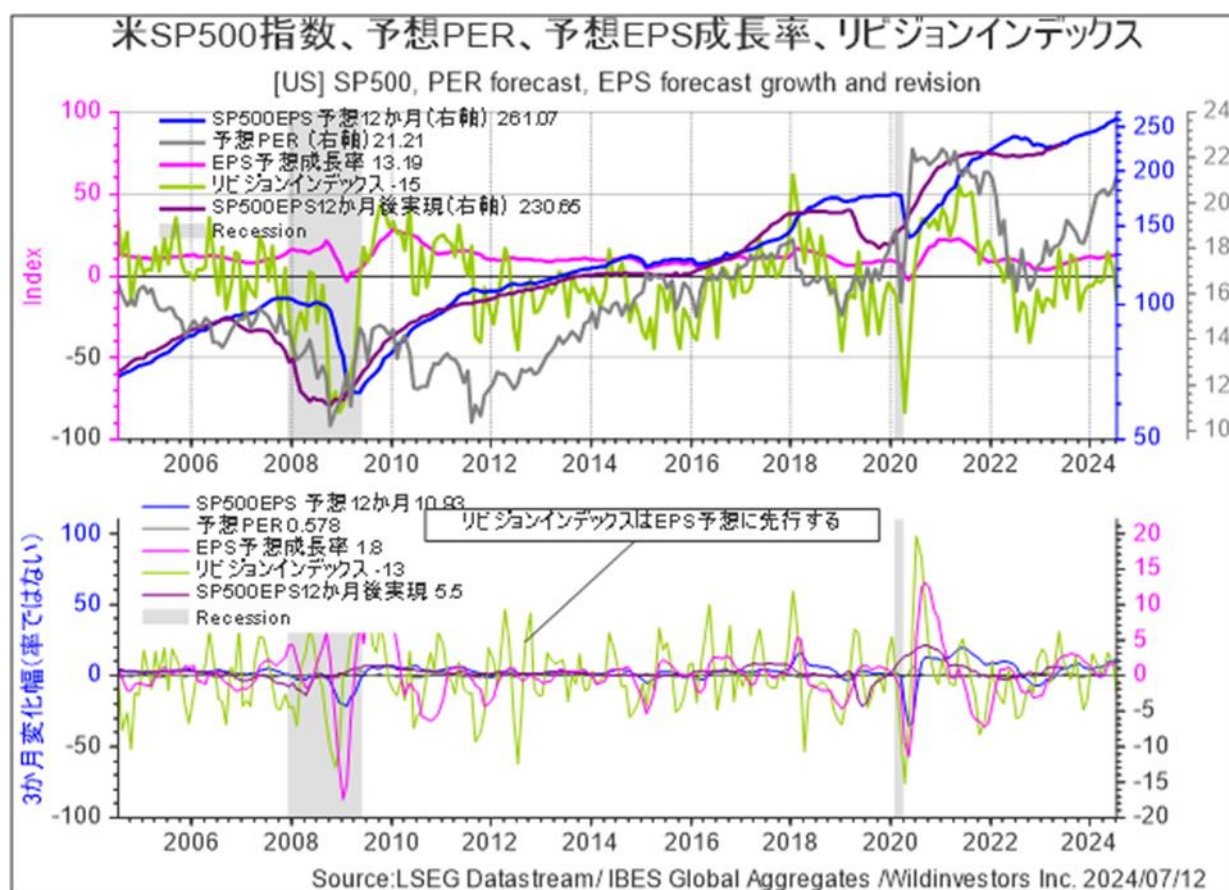
がわかります。最近の傾向を見ると明確に上向いているのは**情報技術**だけになりました。**素材**と**一般消費財**もやや上向き。**コミュニケーションサービス**は横ばいです。

図表 35 【対 SP500 指数】11 セクターの相対 EPS 予想（12 か月フォワード）



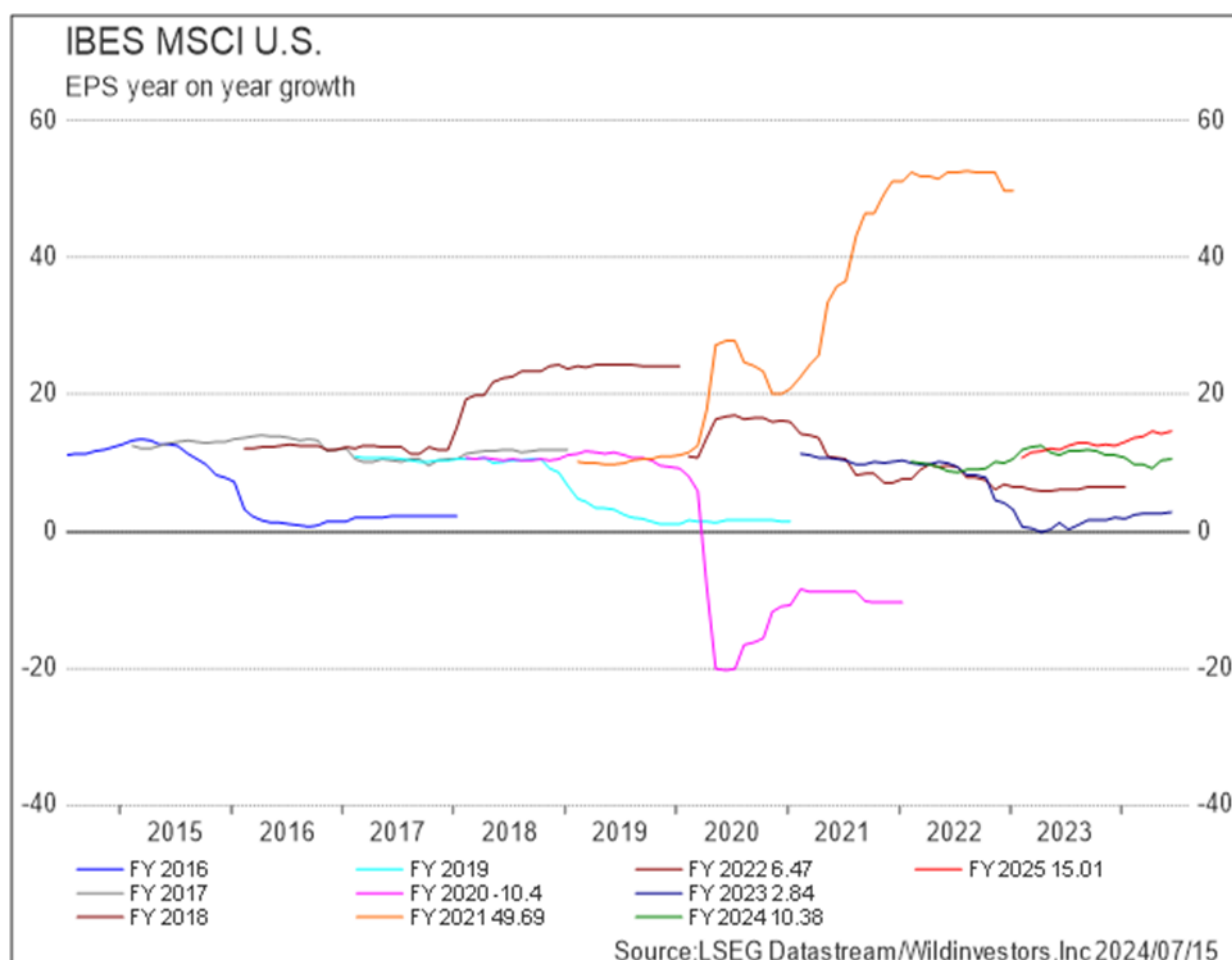
米国株の**予想 EPS**や**予想 EPS 成長率**はまだ伸びが緩やかながら加速し続けています（図表 36）。上方修正から下方修正を引いた**リビジョンインデックス**は+5 から-15 へマイナス転換。二極化でおそらく企業収益が伸びている会社は少数派であるため、この指数はあまり大きくプラスにならないかもしれません。

図表 36 米 SP500 指数、予想 PER、予想 EPS 成長率、リビジョンインデックス



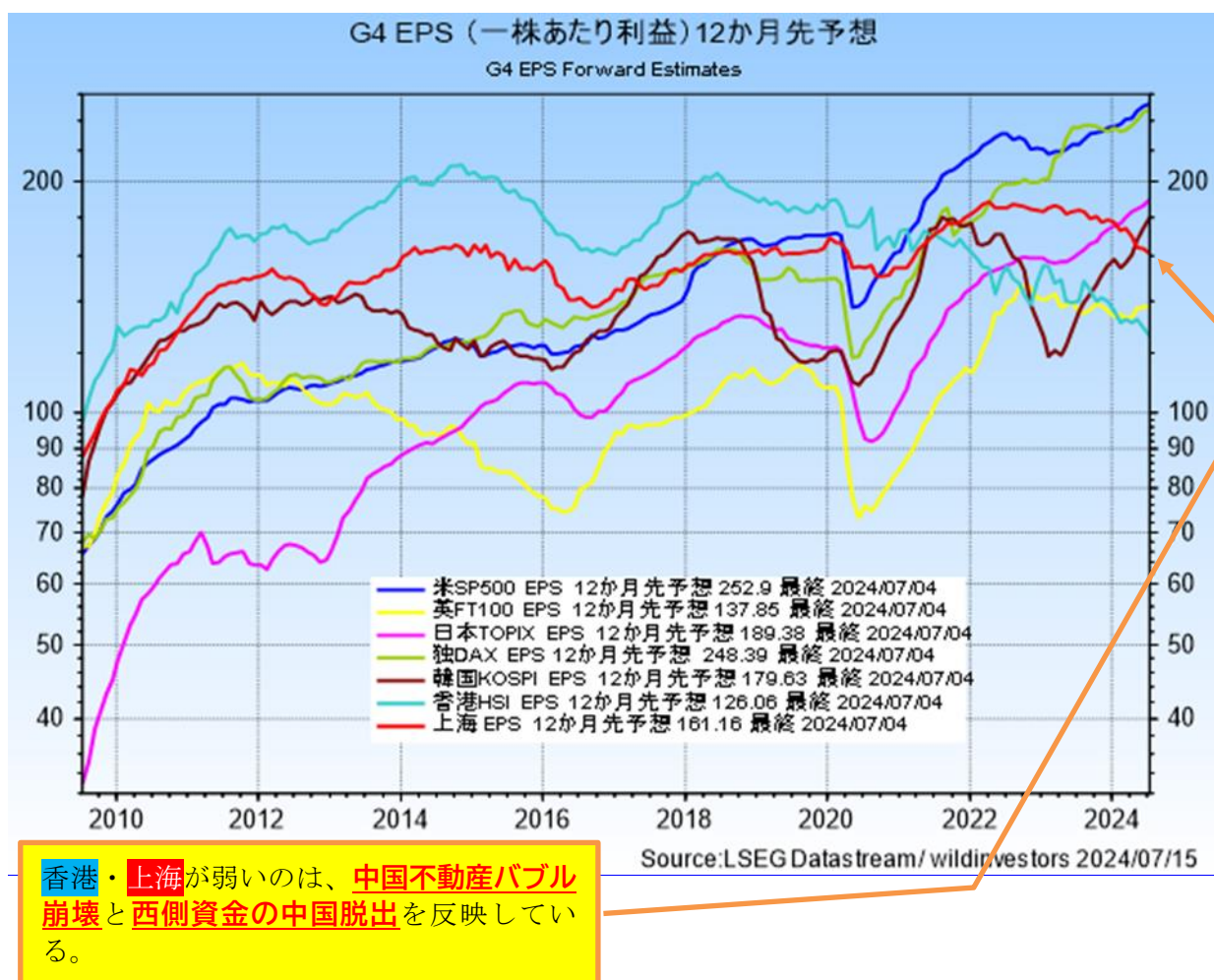
米株 EPS **2023 年予想**は先月の+2.86%から+2.84%とやや軟化（**図表 37**）。**2024 予想**も 10.66%から+10.38%へ軟化。今回から加えた **2025 年予想**は+14.67%から+15.01%と楽観的な予想が加速しています。

図表 37 IBES 米企業業績の前年比成長率予測推移



国別予想 EPS は引き続き**米国**・**日本**・**ドイツ**が好調（図表 38）。**韓国**は新興国の中でも西側寄りなことで、半導体バブルの恩恵を受けているようです。引き続き**英国**が先進国の中では冴えないのですが、やや上向いてきました。**香港**・**上海**が弱いのは、**中国不動産バブル崩壊**と**西側資金の中国脱出**を反映していると私は引き続き考えます。

図表 38 主要国 EPS（一株当たり利益 12 ヶ月フォワード）

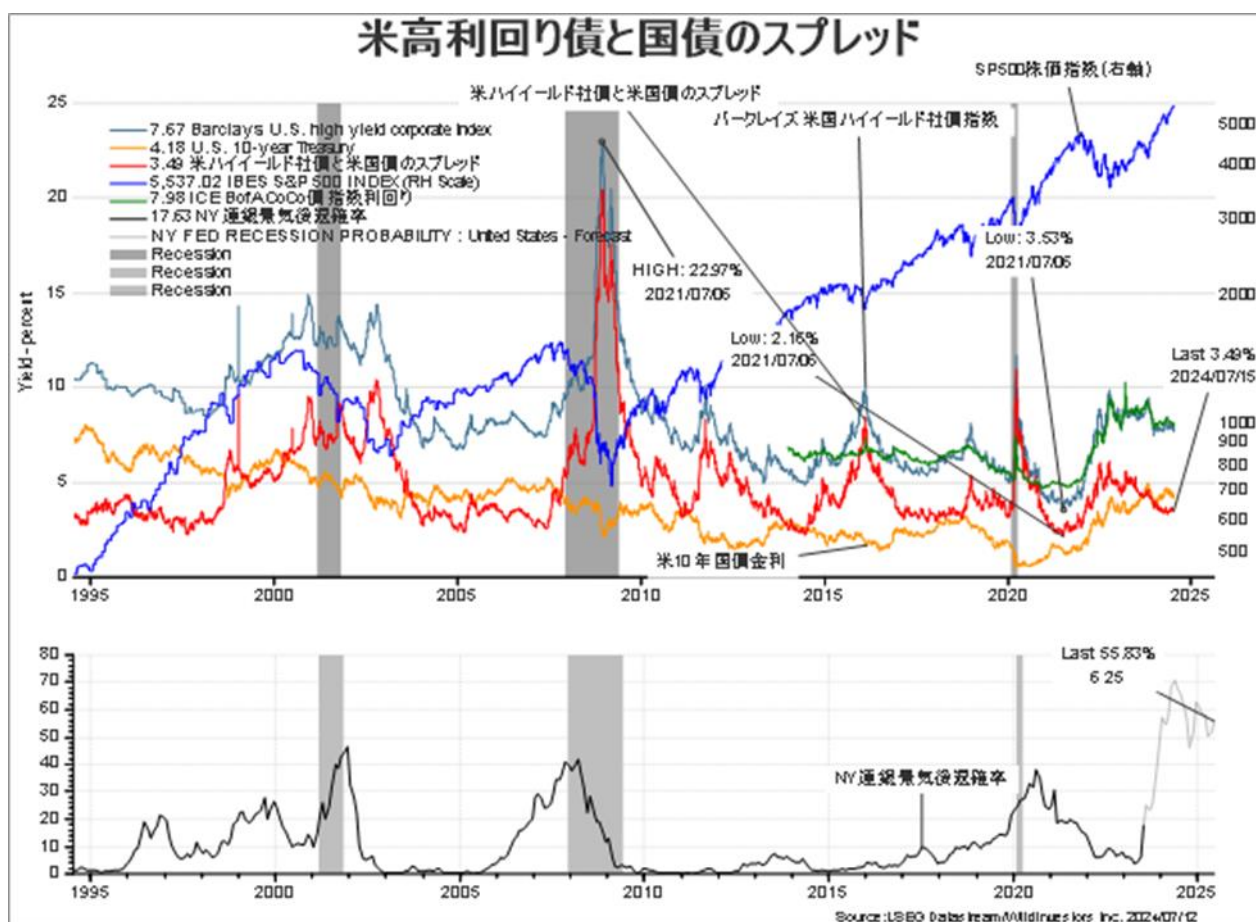


15. クレジット市場は目立った動きなし

ジャンク債スプレッドは前月の 3.64%から 3.49%へ低下（図表 39）。ハイイールド債金利が 7.90%から 7.67%へ低下したことが、米 10 年国債金利が 4.26%から 4.18%へ低下したことよりも大きくスプレッドが縮小しました。AT1 債を含む「ICE BofA CoCo 債指数利回り」も 8.07%から 7.98%へさらに低下しました。

NY 連銀景気後退確率は 55.83%と、比較的高いところで留まっています。1 年後のブレークイーブンインフレ率（BEI）が 1.1%に低下したので、短期的なリセッションを織り込み始めているのかもしれませんが。しかし何度も言うように、米国がリセッションに陥るなら新興国や欧州はさらにひどいことになると思います。

図表 39 ハイイールド債スプレッドと米国 SP500 指数

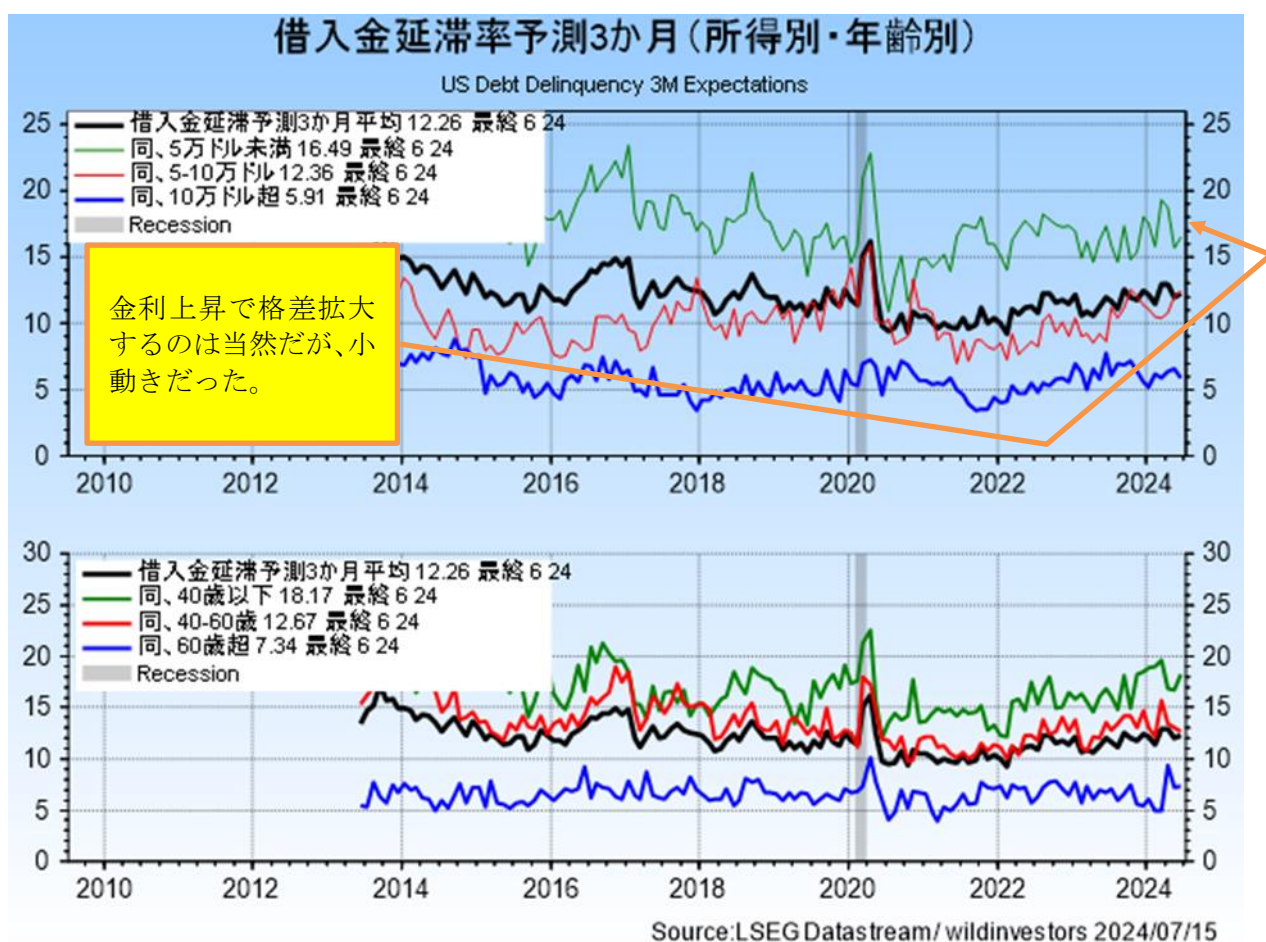


所得による延滞率格差がじりじり拡大してきましたが、先月はあまり変わりませんでした。

米国の借入金延滞率予測 3 か月は上段パネル「所得別」では **5 万ドル以下所得者**と **5-10 万ドル**がやや上昇し、**10 万ドル超所得者**が低下して格差がやや拡大しています（図表 40 上段パネル）。金利上昇によって低所得者層は金利負担が増加しますが、高所得者層は逆に金利収入が増えるので拡大するのが自然なので、放っておくと「どうしても、そうになってしまう」傾向があります。

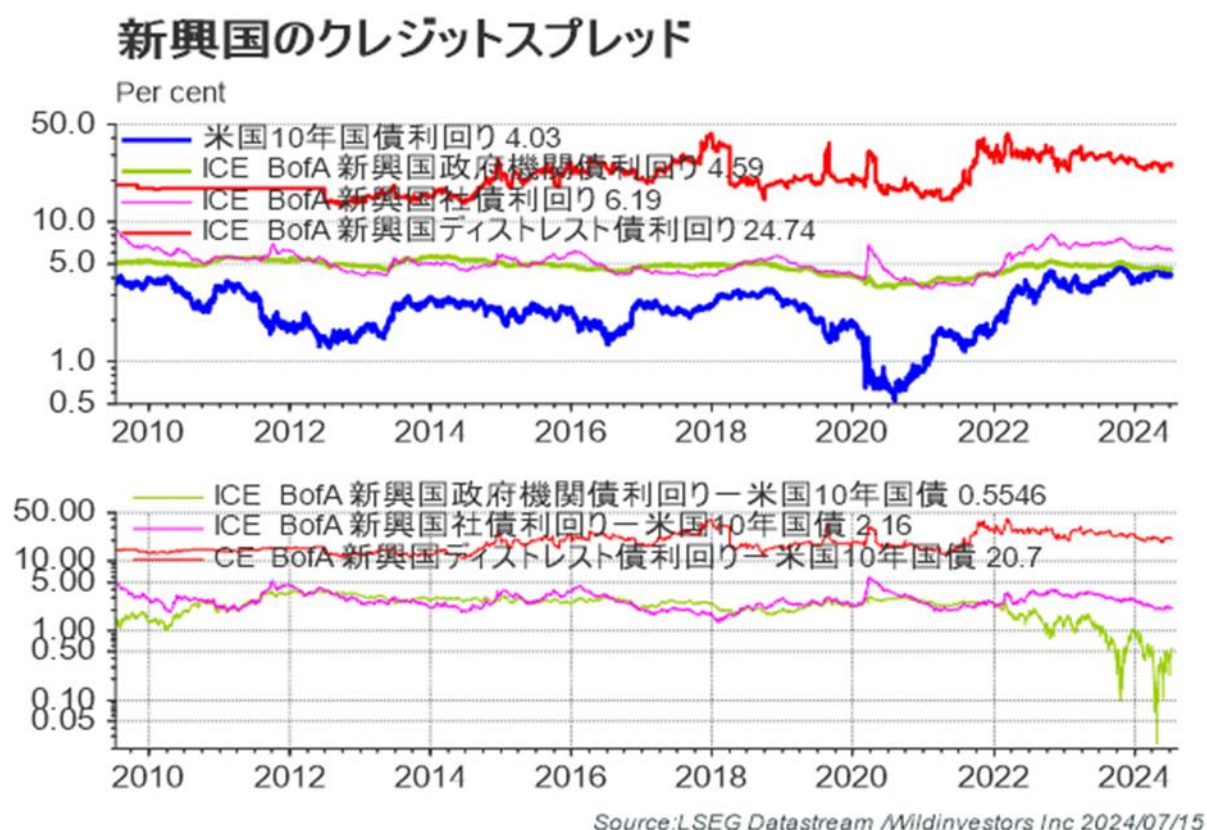
下段パネル「年齢別」は **40-60 歳**が低下し、**40 歳以下**と **60 歳超**がそれぞれ上昇しました。ただしこれは誤差の範囲と考えています。

図表 40 借入金延滞率予測 3 か月（所得別・年齢別）



新興国ディストレスト（破綻）債利回りの米国 10 年国債利回りに対する上乗せ金利（スプレッド）は 20.70%ポイントと、先月の 21.58%ポイントから低下（図表 41 下段パネル）。前者が約 0.98%ポイント低下し、後者が 0.11%ポイント低下した結果でした。新興国社債利回り（上段パネル）は 6.34%から 6.19%へ低下し、米国債金利の上昇と差し引きで前月の 2.20%ポイントから 2.16%ポイントへ縮小しました（下段パネル）。一方で新興国政府機関（ソブリン）債利回りは前月の 4.59%のまま変わらず（上段パネル）、米国 10 年国債利回りの低下との差し引きでその差は前月の 0.45%から 0.55%へ拡大しました（下段パネル）。引き続きこれは新興国政府機関（ソブリン）債利回りが楽観視されているのではなく、データそのものや定義がおかしいのではないかと疑ってしまいます。通常であれば米国の実質金利によって新興国が苦しくなり、そのうち新興国連鎖破綻が起きて新興国内での「質への逃避（フライト・トゥ・クオリティ）」が広がると想定しています。

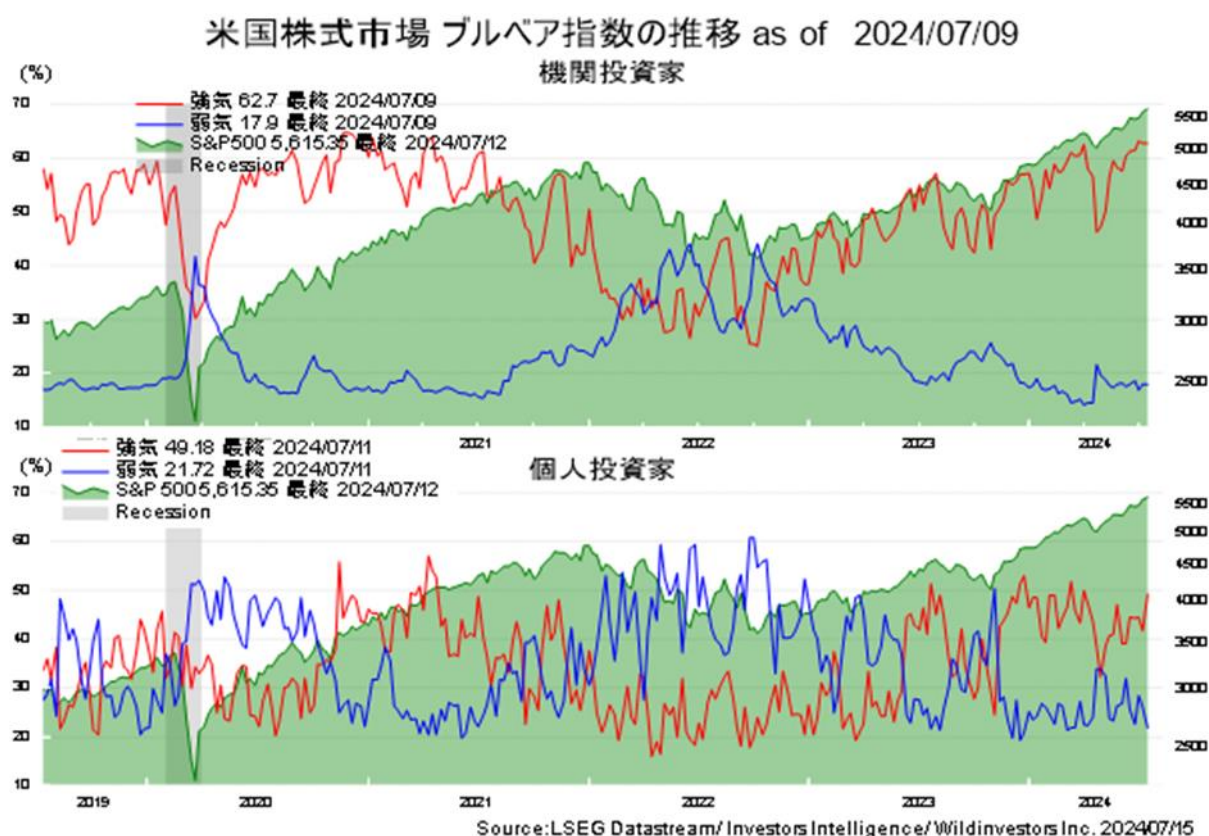
図表 41 新興国のクレジットスプレッド



16. VIX 投機売り増えるもまだ警戒水準ではない

AAII（アメリカ個人投資家協会）のブルベア指数を確認すると、機関投資家（上段パネル）は 05 月の上昇を受けて**強気**が増加し**弱気**が減少したままです（図表 42）。（下段パネル）の個人投資家もそれに遅れて同様の傾向を示しています。

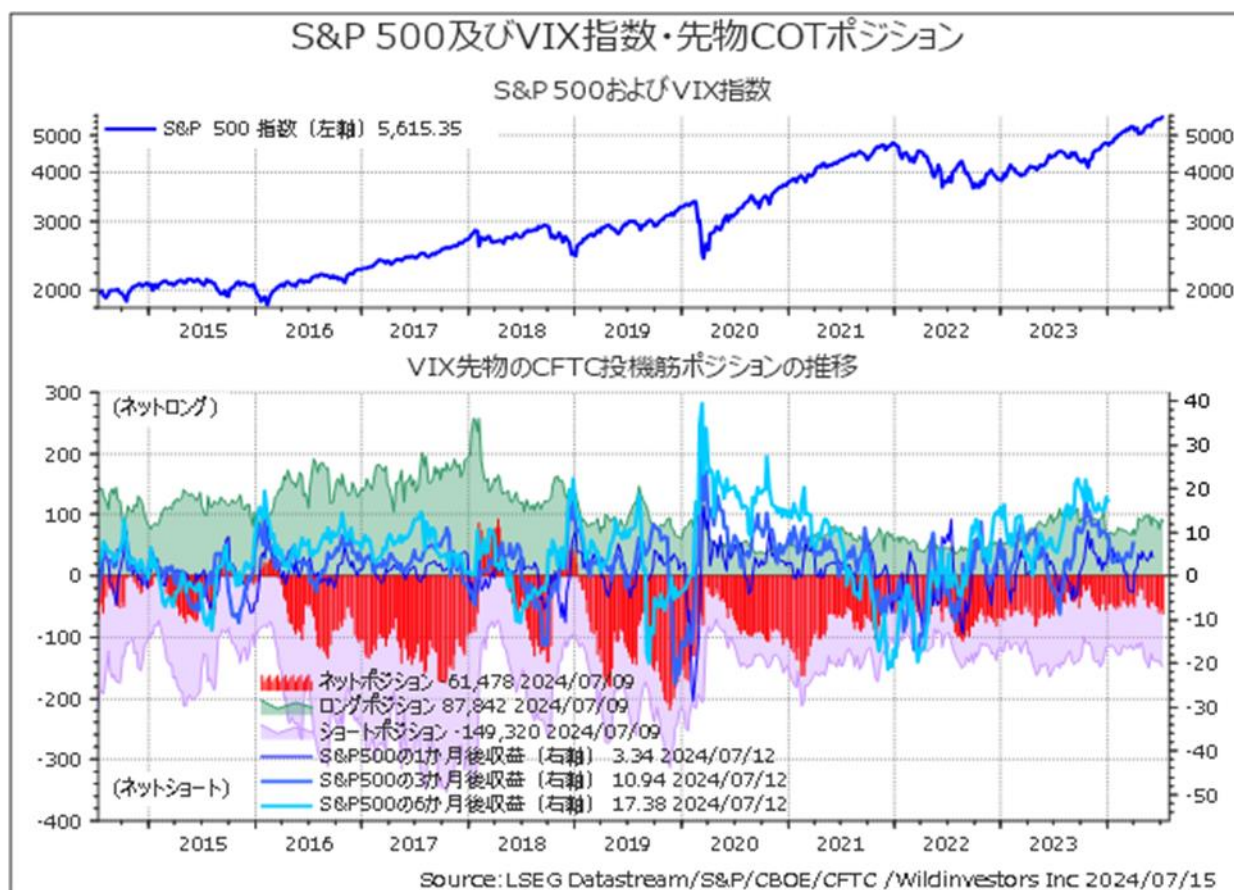
図表 42 AAI 米国株ブルベア指数（機関投資家・個人投資家）



VIX 指数先物ポジションにおけるノンコマーシャル（投機家）の正味売りは先月の約 4.8 万枚から 6.1 万枚に増加（図表 43）。少し増えてきましたが、まだ警戒するほどの積み上がり方ではありません。

この数字は毎週火曜日引け後の建玉が、その週の金曜（米国東部時間）15:30 以降に更新されます。したがってそれを取引に反映できるのは翌週からです。今回は 07 月 09 日（火）引け後（日本時間の水曜明け方）の数字が、日本時間の 13 日（土）明け方にわかったことになります。下段パネルには今回からこの指標に対し、それぞれ 1 か月後、3 か月後、6 か月後の SP500 指数パフォーマンスを折れ線グラフで示しました。やはり売り玉が減ったりプラスに転じたあと、パフォーマンスが良くなる傾向が示されています。

図表 43 米 SP500 株価指数と VIX 指数およびその投機ポジション

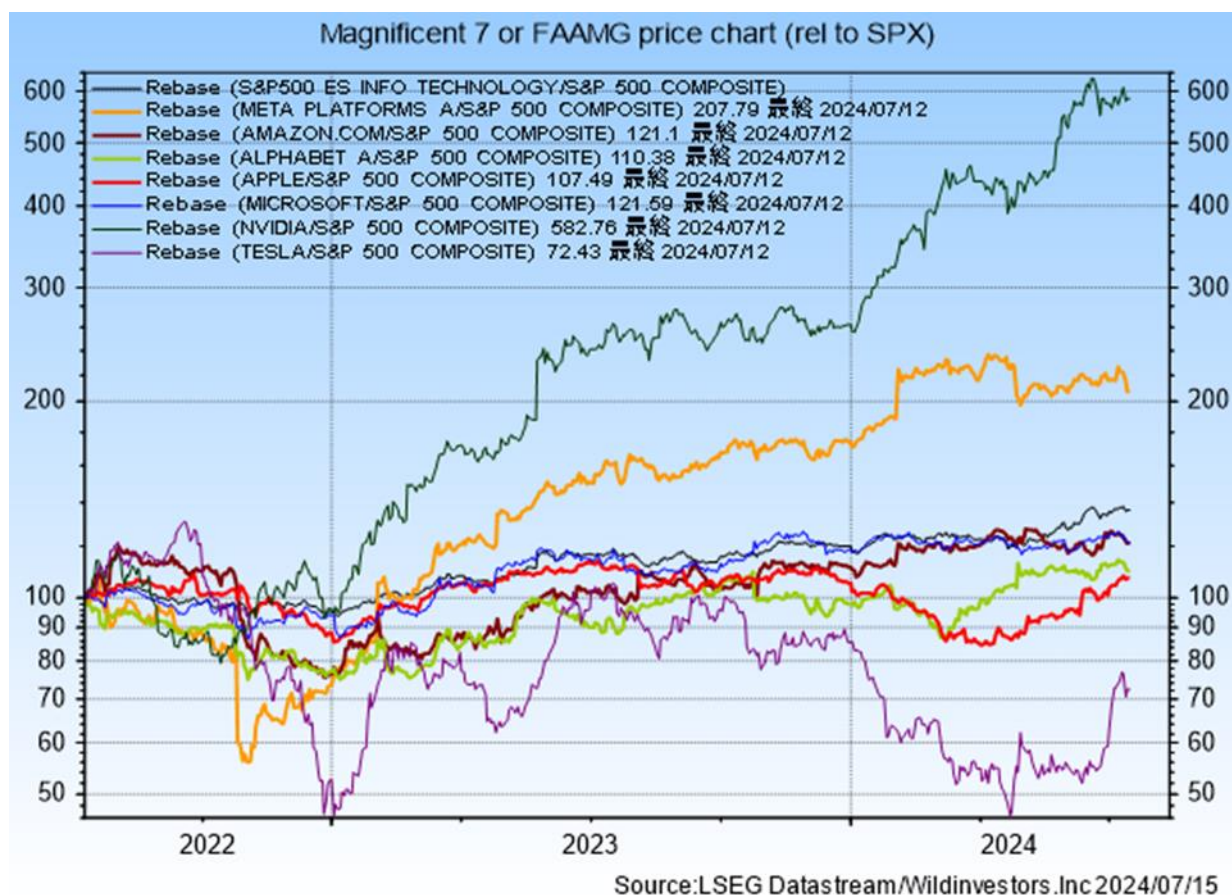


17. マグニフィセント7 占有率が 34%から 35%近くまでさらに昇

米大手情報技術（IT）企業 **FAANG（ファング）** に **エヌビディア** と **テスラ** を加え、**マグニフィセント7（セブン）** として動きを確認します（図表 44）。

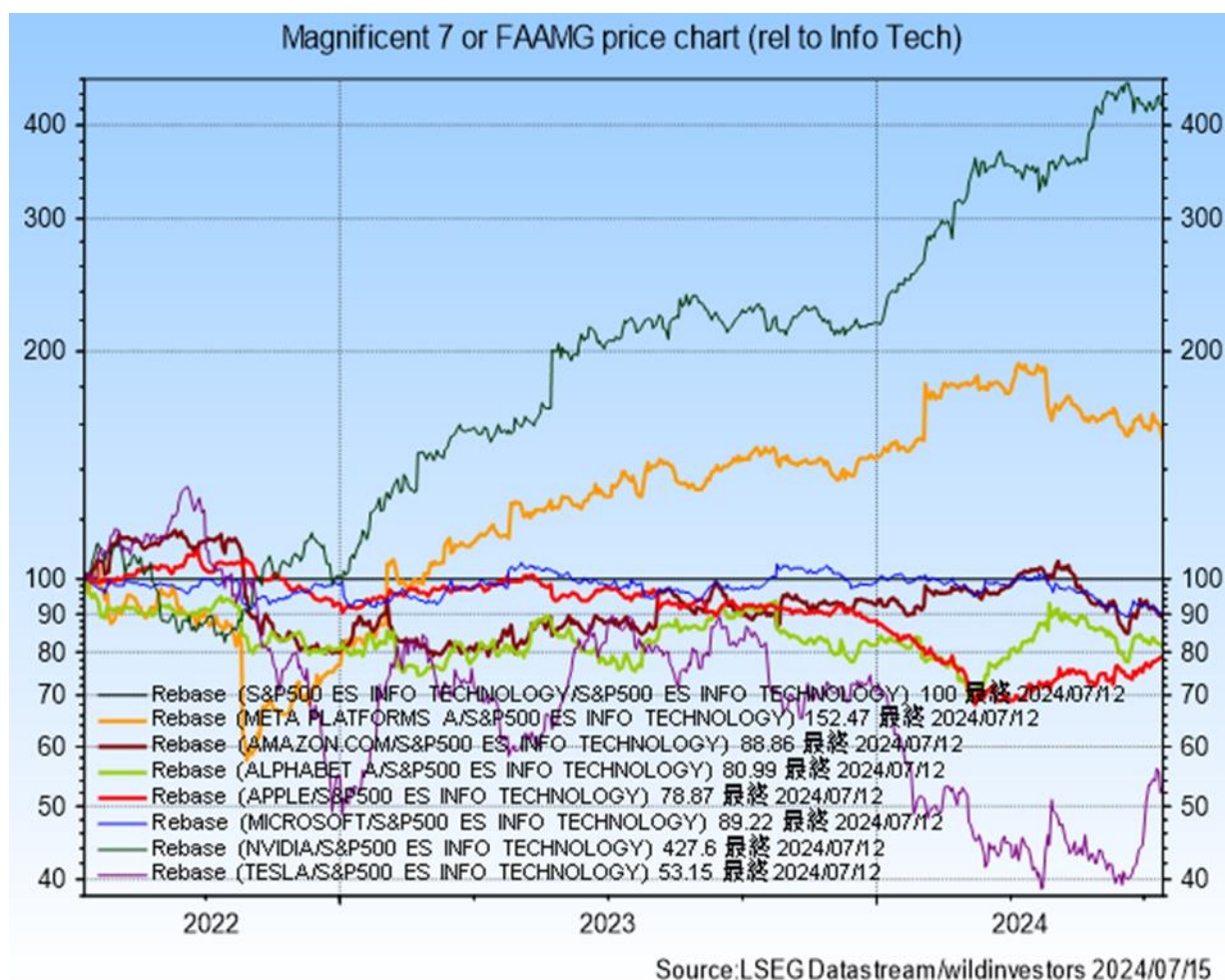
全体的に強い中で牽引したのはまず、急反発した **テスラ** でしょうか。引き続き **エヌビディア** と **アップル** も強く、おかげで **情報技術** が SP500 に対して強くなっているのだと思います。残りの銘柄も SP500 と同程度かそれ以上です。

図表 44 FAAMG の相対株価（対 SP500）



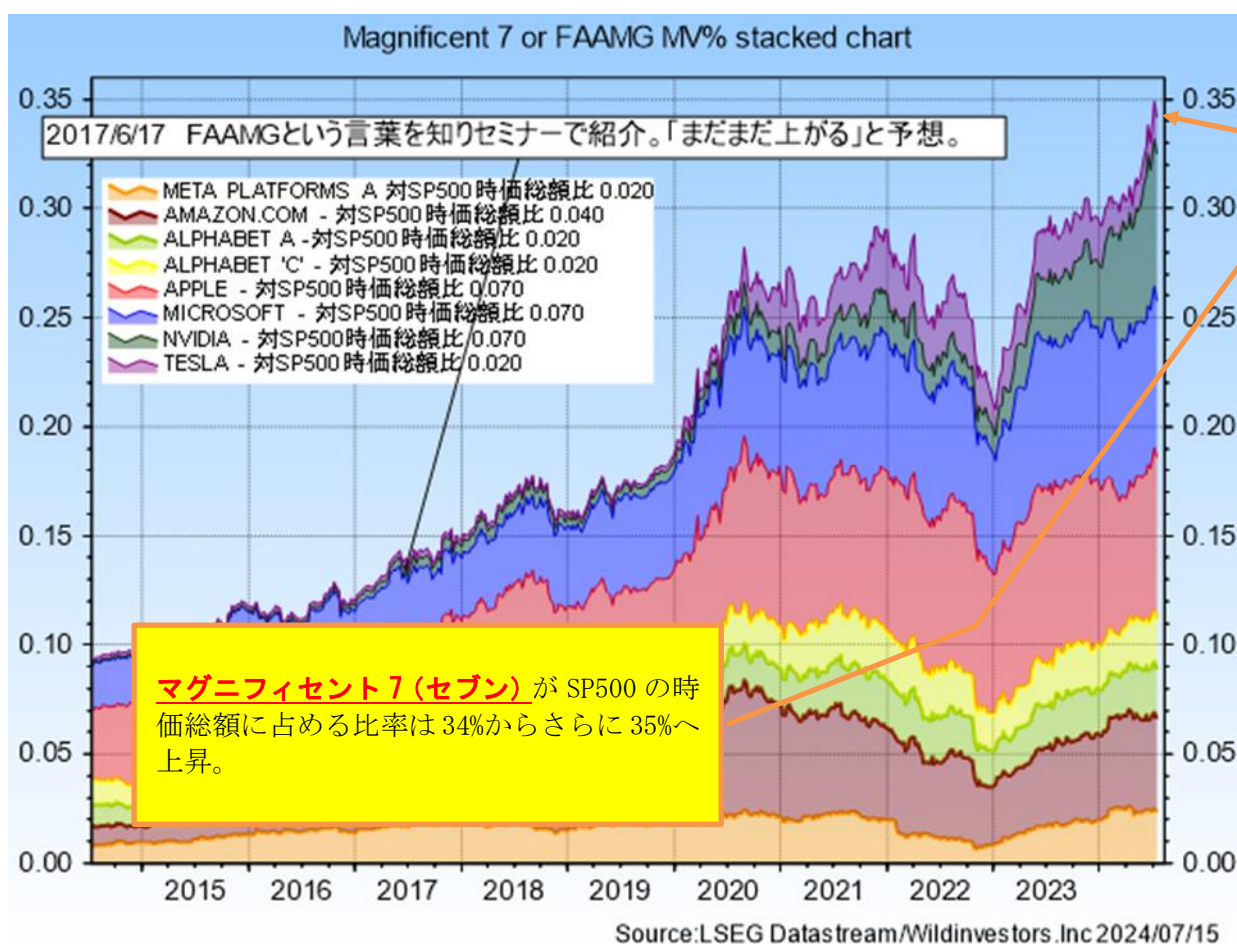
SP500 情報技術指数を基準にすると明らかに強いのは急反発した**テスラ**。**アップル**もその次に強い
です（図表 45）。残りの銘柄はやや劣勢でした。

図表 45 FAAMG の相対株価（対情報技術指数）



マグニフィセント7 (セブン) が SP500 の時価総額に占める比率は 34% からさらに 35% へ上昇（図表 46）。**エヌビディア** と **テスラ** を除いた **FAAMG (ファング)** 5 銘柄だけでも 26% を超え、2020 年の相対的天井を突破しました。これらの銘柄は買収を繰り返すため、放っておくと時価総額に占める割合が増えやすい傾向にあるのは確かですが、それでも凄まじい二極化だと思います。

図表 46 FAAMG の時価総額比率（対 SP500）積み上げグラフ



私はかなり前から

「FAAMG 最良の時代は終わった」

考えています。しかし代わりになる会社がそうそう出てくるわけではありません。

「結局のところはFAAMGが有望な会社を買収し続けて、
長期的には時価総額を増やし続ける」

ような気がしています。それでも

AI バブルの中心銘柄は微妙に違うので、
広く網をかけるかド真ん中銘柄を優先する

方針を続けます。

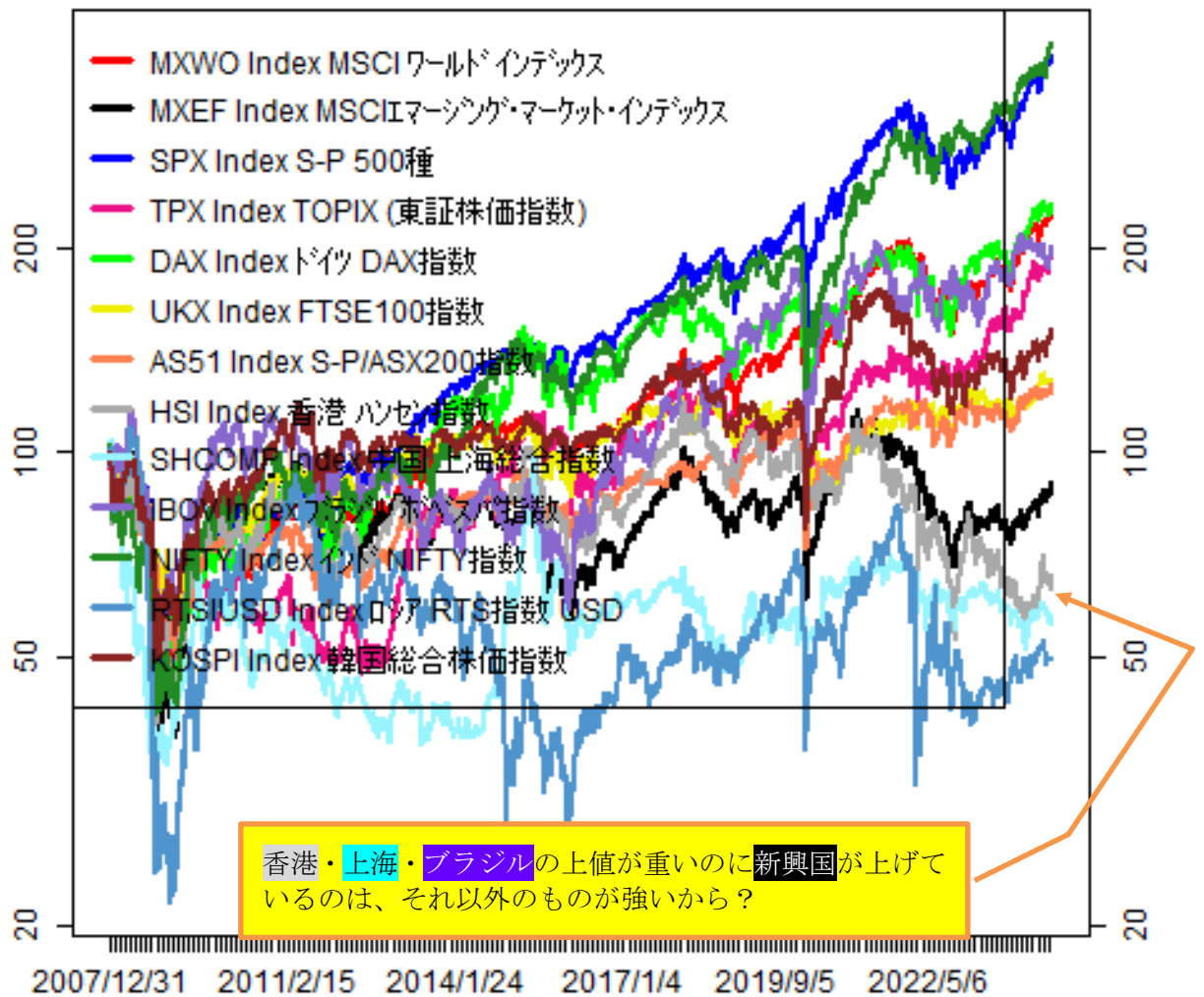
18. 新興国株まで中国の影響を受けなくなってきた

さて中国の不動産バブル崩壊が隠せなくなった頃、中国シンパたちは

**「中国経済がダメになれば世界が破滅するぞ！
だから助ける！」**

と騒いでいました。しかし西側諸国は徐々に中国を切り離し、「再ブロック化」を進めてそのダメージを減らしています。そのおかげで香港・上海などの中国株が下げても米国を中心に西側先進国の株価(MSCI ワールド指数)はずっと上昇し続けました（再掲：図表 27）。

相対株価 vs 比較なし（絶対株価）(1)



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/7/12

さらに先月のパフォーマンス（図表 1）を見てもわかるように、香港・上海など中国株が現地通貨ベースで下げているにもかかわらず新興国株指数は先進国以上に上昇しました。

ということは**中国以外**の新興国が先進国以上に**ブチ上げている**ということで、その表にある主要新興国の中では韓国・インドの上昇が顕著でした。

もはや

**中国株が下げても、西側の株価は上昇し
新興国ですら影響を受けにくくなっている。**

ということです。

19. 新興国連鎖破綻のきっかけは中国以外になるか

この原因について私は

「新興国株の中で中国株を売って、
西側に近い国に資金シフトが進んでいるのではないか」

と考えました。

そのことは以下の週末メールでも解説しました。

[\(20240705\)情報技術、2 か月以上突っ走る。もはや中国株が下げても新興国すら下げない。「トランプトレード」の影響少なく後付けの理由。](#)

これを確認するために、MSCI 新興国指数との相対値で見た主要新興国の株価指数を観察します（図表 47）。下のパネルがドルベースで見た主要新興国の株価指数、上のパネルがそれに対 MSCI 新興国指数との相対値で見た株価指数です。するとやはり香港から資金が逃げ出して、インドや台湾に資金が集まってきたことが明白です。

図表 47 新興国相対株価指数（ドルベース対 MSCI 新興国指数）



2018 年 10 月 04 日に当時のペンス副大統領が演説を行い、中国を仮想敵国と宣言しました。それ以降、中国から投資が逃げ始めて香港は凋落の一途でいまや 6 割の水準に落ち込んでいます。逆に西側に近いインドや台湾は、AI ブームの影響もあり新興国を牽引するようになりそれぞれ 200 近い水準に。韓国は中国への大きな投資が祟ったのか、西側でありながらそれほど大きな恩恵は受けていないようです。ブラジルやオーストラリアも MSCI 新興国指数とあまり変わらない数字です。

私はこれまで「新興国連鎖破綻のきっかけになるのは中国経済の崩壊ではないか」と考えていました。最初は他の地域で始まったとしても、中国という最大の火薬庫に火がついて信用収縮が本格化するイメージです。民族資本が潤沢にある先進国はまだマシですが、そうなれば普通の新興国は巻き込まれてしまうだろうと思っていました。

しかしいま現実には起きていることは、「中国株が下がっても他の新興国が元気よく上がってゆく姿」です。西側に近い新興国はもちろんですが、他の新興国も中国と距離を置き始めたのかかもしれません。

中国が市場に与える影響がこのまま減ってゆけば、

新興国連鎖破綻の引き金は

中国以外のものになるかもしれない

と考え始めています。

20. J. D. バンス副大統領候補はトランプ氏以上に保守的

今週は重要なターニングポイントになる予感がします。しかし詳しく述べるとレポートが遅れてしまうので、まずは概要だけリリースします。

トランプ氏が副大統領候補に指名した **J.D. バンス上院議員** は、非常にユニークな経歴の持ち主です。それだけでも「活動家ではなく実務家」として期待できます。

そして最近の記事を見ると、マスメディアや欧州指導者が警戒しています。これも良いサインと言えるでしょう。先進国をズタボロにした彼らが嫌うのであれば、まともな人に違いありません。

それに加えて下のような記事が出てきました。そのバンス上院議員が

「米国にとって中国が最大の脅威であるにもかかわらず、われわれはそこから完全に目をそらしている」

と発言したのです。

それはまったくその通りで、地政学を知っている人であれば常識です。

しかし「ずっと目をそらしていて欲しい人たちが」トランプ氏を引きずり降ろし、環境だ人権だロシアだと騒いできました。

このことから、彼は地政学や軍事をよく理解している人物であることがわかるでしょう。つまり

**「J. D. バンス氏はトランプ氏以上にリアリストで、
視野が広く保守的」**

と言えるでしょう。

トランプ氏の視野が狭いわけではありません。しかしトランプ氏が主にビジネス経験を積んでいるのに対し、バンス氏は軍事と金融の経験を積んでいるのです。

反米勢力にしてみればトランプ氏を排除してもバンス氏が出てくるとなれば、これは厄介です。特に中国にとって、トランプ＝バンスのコンビは特にイヤな相手になるでしょう。

=====

バンス副大統領候補、「真の課題」は中国－米国に最大の脅威

2024 年 7 月 16 日 20:52 JST 更新日時 2024 年 7 月 16 日 21:05 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-07-16/SGPR6DT0AFB400>

中国の脅威に対し、米国は「完全に目をそらしている」

米選挙が中国を問題にすることには反対－中国外務省報道官

米共和党の副大統領候補に起用されバンス上院議員（オハイオ州）は指名後に受けたインタビューの一つで、米国にとって中国が最大の脅威だと指摘した。当選した場合、同党の大統領候補として正式に指名されたトランプ前大統領と共に中国に対してタカ派的な姿勢を取っていく可能性が高いことが強く示された。

バンス氏は 15 日の F O X ニュースのインタビューで語った。ウクライナでの戦争について聞かれると、同氏はトランプ氏ならロシア、ウクライナと交渉し、「この問題を速やかに決着させるだろう。そうすれば米国は真の課題、つまり中国に集中することができる」と述べた。同氏はまた、「米国にとって中国が最大の脅威であるにもかかわらず、われわれはそこから完全に目をそらしている」とも述べた。



The 2024 Republican National Convention

バンス上院議員 Photographer: Al Drago/Bloomberg

トランプ氏は大統領に返り咲けば、対中関税を全面的に引き上げると約束。中国からの全輸入品に 60% の課税を行うと宣言している。

ブルームバーグ・ニュースはこれまでに、米情報機関は中国側にはバイデン、トランプ両氏のいずれにも明確な選好はないと分析していると報じた。(略)

=====

またこの記事からわかるもうひとつのことは、米情報機関が中国の強い影響下にあるということです。

「米情報機関は中国側にはバイデン、トランプ両氏のいずれにも明確な選好はないと分析している」と、中国側が民主党を勝たせようとしていることを隠しています。

中国がトランプ氏を嫌いでなければ 2020 年に再選を妨害するために TikTok で工作したり、「辞めてせいせいした」とは言わないでしょう。

つまり米情報機関は中国の影響を強く受けているため、本当は民主党に勝って欲しいのに「俺はどっちでもいいよ」と米情報機関か米マスメディアに言わせているのです。

21. (予告)「トランプ・バンス＝トレード」でバリュー株が買い戻される可能性アリ

バンス氏はトランプ氏以上に保守的なためビッグテック解体を唱えています。

また彼自身がラストベルト出身であり、没落して行った中産階級を間近で見えています。すると「米国を再び偉大にする(MAGA)」ために、製造業や中産階級を保護する政策を取るでしょう。

07 月 16 日にマグニフィセント 7 が急落したのはそのためであり、これをきっかけに「バリュー株の逆襲」が始まるかもしれません。

ただでさえ極端な二極化が進んでいったところにこれらの要因が重なれば、

「2022 年以来のバリュー株大規模逆襲」

が始まるような気がしています。

すでに一部の会員さんには戦略の変更をメールしました。

レポート会員さんにもおいおい資料を作ってお知らせします。

22. まとめ：新興国内で「西高東低」さらに加速

米国は引き続き史上最高値を更新し、エヌビディアを筆頭に **AI 関連など一部の大型グロース株主導の上昇**が続いています。やはり **米長期金利が空気入れの役割**を果たし、それが少し低下してドル安になると企業収益が好転して株価が買われるという **ドットコムバブル期のパターンに戻って**きました。弊社予想通り米国株の EPS（一株あたり利益）が加速し始めたため、引き続き「米株を売るのは危険」と考えます。

- 一部の銘柄が市場全体を牽引する **AI バブル**が始まった。今は **AI アクセラレータ(プロセッサ)** 関連や周辺機器にまでに注目が集まっている。
- 経済指標を見るとインフレ圧力が低下し、特に **住居費が低下**し始めた。 **ゴルディロックシナリオ**が織り込まれている。これ以上景気がスローダウンすれば **リセッション懸念**が高まるはずだが、今のところその兆候は薄い。
- **米実質金利の上昇**や **新興国通貨の下落**など物価引き下げ要因との綱引き続く。米国に資金が集まり、資金が流出する新興国はさらに苦境に陥る。
- 商業不動産(CRE)は **オフィスビルに引き続き注意**。 **住宅販売も腰折れ気配**。新築よりも中古の価格中央値が高いという異常事態になっている。
- 米中小銀行の中に不動産融資比率が高いものがまだ残っており、そこから危機が波及する可能性は十分ある。
- **米中小銀行の信用収縮**や **新興国連鎖破綻**の可能性続く。しかし中国株が下げてもそれ以上に他の新興国が上昇しているので、新興国連鎖破綻のきっかけや中心になるのは中国ではないかもしれない。

状況としては引き続き、1990 年代後半の **ドットコムバブル**に酷似しています。下の 2 つの局面が循環的に訪れ、二極化とリバーサルを繰り返しながら果てしない高みへと昇ってゆくパターンです。これまでのバブルと同じように、**米国のイールドスプレッドはおそらくマイナスへ**と突入するでしょう。

(パターン a) 好調な経済指標 → インフレ懸念強まる → 米金利上昇・ドル高 → 米株は小幅高

(パターン b) 経済指標悪化 → インフレ懸念やわらぐ → 米金利低下とドル安 → 米株は大幅上昇

中国の実態を知る人が増え、「**中国からの大脱出が始まった**」と解釈しています。私はかれこれ 20 年以上、中国を成長させることの危険性に対し警鐘を鳴らしてきました。それを多くの人々が知るようになり、**資本流出が本格化**してきたのだと思います。また情報やサプライチェーンのセキュリティが重視され、米中ともに **経済ブロックを強化し潜在敵国企業を追い出そう**としています。そこを見誤った企業や投資家は大損を食らう可能性があると考えてください。

米実質金利が再び上昇し **新興国から資金流出**が続いているため、1997-98 年のような、「新興国連鎖破綻を契機とした **世界的信用収縮**は近い」と覚悟しておくべきでしょう。 **世界史上最大級の中国不動産バブル崩壊**が現実になれば、人類史上見たことがないような **クラウディングアウトが中国で起きる**と考えます。しかしそのインパクトは、私が想像していたよりも小さくなりそうです。

先月と比較すると弊社の「三大潮流シナリオ」のうち「(1)ドットコムバブル型の米株上昇」はまだ続いています。米国の対中半導体輸出規制強化で「AI バブル第一段階」が正念場を迎えつつあります。「(2)新興国クラッシュ」は新興国内で資金シフトが起きているようで、いずれ連鎖破綻に至るにしても中国が与えるインパクトは限定的かもしれません。「(3)再ブロック化」も米国の「再ブロック化」政策と中国の「鎖国・囲い込み政策」の両輪で、お互いの企業を追い出し「戦時経済色」をさらに強めてゆくと考えます。バイデン政権が自傷行為のような政策を連発しているため米国の威信はガタ落ちですが、世界的な金融危機が起きれば新興国も手のひらを返して米国に「米ドルと通貨スワップ」を結んでくれ」と寝返ると考えます。仮にトランプ氏が大統領になりバンス氏が副大統領になれば、急速に保守回帰が進んで米国は繁栄するでしょう。

ワイルドインベスターズの三大潮流

1. ドットコムバブル型の米株上昇
2. 途中で新興国クラッシュ
3. 再ブロック化

ただし危険な兆候として、紅海などで米英が海洋覇権を失いつつあります。船舶を攻撃するフーシ派に屈し、欧米諸国は紅海を避けるようになりました。その裏には当然、中国・ロシア・イランが居ます。バイデン政権がトランプ派潰しに血道を上げている間に、中国は海上交易で重要なチョークポイントを奪い取って行きました。世界最強の米軍もトップからしてポリコレの毒に冒されており、敵味方の区別すらつきません。もはやカネを食うだけの利権集団に近いかもしれません。中国はこの時を逃さず、台湾・尖閣というチョークポイントを奪うことを考えているでしょう。

すでに第三次世界大戦が始まっているというのに、岸田政権はこの期に及んで中国に接近しています。伝統的な保守派からは完全に見放されたので、リベラルの票田を狙っているのかもしれませんが。しかし極左の人々は民主主義や資本主義を嫌っているため、自民党に投票することはないでしょう。消去法で自民に投票していた人々が中道や右派に流れたら、立憲民主党などが競り勝つ選挙区が増えて自民党が少数与党になっても不思議ではありません。

総合的には引き続き

「中国など新興国から逃げた資金が米国に向かう」

という潮流に変化はないと考えます。米国の覇権は揺らいでいますが、だからといって中国がすんなりその地位を奪い取れる感じではありません。再ブロック化が進めば、新興国のほうが危うい状況にあることは変わりありません。したがって

米株ロング＋新興国ショートの本流ポジションを維持

しつつ、

米株の中では情報技術関連のウェイトを落とし、 大型バリュー株のウェイトを増やす

ことを基本戦略とします。

まとめの表を少し変更しました。↓↓↓

株の上昇要因	順位	下落要因
世界経済は米国が牽引		新興国危機
製造業が好転し始め、米 EPS が加速する気配アリ 中国から逃げた資本が西側に戻る 新興国通貨が下落し、先進国のインフレ懸念が解消しつつある。 米最高裁が正気に戻れば、米国唯一の弱点である「内戦状態と社会不安」が解消する可能性がある。 おそらく AI バブルが始まった。 米企業はインフレの価格転嫁ができており高い粗利を確保。所得の再配分もうまく行って「米国だけ良いデマンド・プル・インフレ」。 「再ブロック化」が進み、「サプライチェーン再構築」はやはり終わりつつあるか。	1	米国は内部から破壊され、特に民主党地盤の治安が致命的に悪化 重要なチョークポイントを米国が中国に奪われている 中国から西側資本が撤退本格化。しかし先進国はもちろん新興国にすら与える影響は少ない？ ←New! 第三次世界大戦の戦火拡大 中国で「不況型貿易黒字」が広がり、デフレ圧力が強まる可能性が高い 不動産ローン貸し倒れや金融機関の連鎖倒産で信用収縮が始まる。 ダイベストメントで化石燃料の供給が阻害される 中東諸国は米国に愛想を尽かし、ロシアに接近 ウクライナ侵略によりロシアを西側経済から強制排除、デフォルト連鎖でクレジットリスクが上昇。 中国が第二文革・毛沢東化・鎖国へと向かう。さらに民間人の報道も禁止。 中国地方自治体も土地使用権売却益が減り給料削減のデフレ政策 隠せなくなった中国の外貨不足。 新興国危機。中南米から中国へ 中国不動産バブル崩壊・シャドーバンキング問題・韓国デフォルト・ブラジルもヤバい。
選挙で共和党が勝ち始め、ポリコレの毒が抜かれるかもしれない。米国の内戦が終結して無敵になるかも。	2	EU で不満高まり崩壊の危機 移民問題でドイツ自滅。ブランド価値が揺るぎ欧州全体がピンチ！ 気候変動ビジネスで自縄自縛 グリーンフレイションをめぐる先進国内の対立
	3	東アジアの地政学リスク。 買い占め・粗悪品で脱中国が加速 韓国は米国ブロックから破門。ホワイト国から除外された影響が顕在化。

		時間稼ぎはもう通じない 香港人権法・ウイグル人権法で米国は民主勢力を援護 中国企業を米市場から締め出す可能性アリ 中国企業のデフォルト増加
	4	欧州ソブリン問題 イタリアなど欧州各国で反 EU 政党が躍進 銀行・不動産などの不良債権処理。バランスシート調整。(二極化の源)。 ドイツ銀がヤバくなれば新興国危機と欧州ソブリン問題が再燃
	5	日本の潜在的デフレ圧力。 日欧のマイナス金利で金融政策の限界が露呈 消費増税と TPP でデフレ脱却は困難に。 しかしそれが顕在化するのには米国株バブルが終わってから。と思っていたら スタグフ円安 (不況下のインフレと円安) が来そうで怖い
	6	北朝鮮が水爆開発。米国の覇権喪失・核拡散ドミノ・テロ組織による核恫喝・中国の内部抗争と分裂・押し寄せる難民・先進国に飛び火する人種・民族・宗教紛争などの危機。
	7	経済のブロック化で成長率鈍化。さらには国際紛争の可能性高まる。
	8	
	9	
	廃棄	

日銀・ECB の大規模追加緩和で米国バブルの燃料増える。新興国は「米国への資金流出」「政情不安」「資源価格下落」などの 3 重苦で出口なし。

米金利上昇により新興国で金融危機の恐れあり。特に中南米に注意

東アジアは常に武力衝突の危険がある。**中国不動産バブル崩壊・韓国デフォルト**は確定的。しかし

日本の失策でそのツケは日本が払うかもしれない。

欧州ソブリン問題（特にスペイン）も、米国好景気と日本の対策で爆発が先延ばしになった。しかしブラジルやアルゼンチンへの投資が、欧州危機を再燃させる可能性がある。またウクライナの騒乱は東欧のリスクを高める。

[基本戦略]

【米国株】

- 米企業は依然として強いが、米株は高いバリュエーションの反動が出る可能性アリ
- 景気後退させないとインフレ鎮静化しないかも
- 1970-80年のインフレ時代を再研究すべし
- 絶対正義のバイデン政権でどこまで沈むか

【欧州株】

- 欧州は簡単には立ち直れない
- そもそも脱炭素を言い出してドツボに嵌った人たち。ポリコレ亡国の先頭を突っ走っている

【新興国株】

- 新興国は米金利上昇で死ぬ
- 80年代に米金利上昇で中南米危機が起きた

【日本株】

- 日本株はかなり魅力的
- 再ブロック化の超追い風→高度経済成長再び
- 円安で外国人から見ると超割安
→日本製品購入や投資が増える
- 株価バリュエーションも米株より割安
- 日本はデフレ体質なので、インフレ緩和される
逆に米国はインフレ体質でインフレ加速

日本株のリスク

- 中国側に取り込まれ、米国に制裁される
- 少子化
- 政府や企業が追い風を生かせない。これがあったので、日本株への投資をためらっていた

(終)

02 【再掲】投資戦略[週末]メール

23. 【再掲】投資戦略アップデート[週末]メール

(20240628) えっ！中古価格が新築より高いんでっか？ 「レバビディア」に恐怖するベテラン勢。バブル佳境の脳筋戦略「松竹梅」のほうがはるかにまとも。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20240628) えっ！中古価格が新築より高いんでっか？ 「レバビディア」に恐怖するベテラン勢。バブル佳境の脳筋戦略「松竹梅」のほうがはるかにまとも。

ただいま 2024 年 06 月 28 日 (金) 20:56 です。

*****[動画]*****

動画は長いので 2 倍速推奨です。

公開用の動画を用意しましたので、そちらを先にご覧ください。

それを前提に投資戦略を組み立てています。

2024 年 06 月 27 日 23:14

投資戦略動画（公開用）20240627 英国も右翼台頭で保守党惨敗観測。都知事選、保守は泣きながら小池氏に投票か。 左派は権力を失わぬよう露骨に工作する。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290008.html>

全会員さん用動画 (19 分)

<https://youtu.be/CVRVueBayQY>

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはこれらを踏まえてさらに詳しい動画を用意しています。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

wi@wildinvestors.com

*****[投資戦略 公開用]*****

=====

【公開用アップデート概略】

1. 英国も右翼台頭で保守党惨敗観測
2. 都知事選、保守は泣きながら小池氏に投票か
3. 左派は権力を失わぬよう露骨に工作する

関連リンク

保守党、創設以来最低議席も 労働党優勢、右派政党に勢い―英総選挙まで1週間

時事通信 外信部 2024 年 06 月 27 日 07 時 05 分

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2024062600681&g=int>

小池氏がリード、蓮舫・石丸両氏迫う 都知事選序盤情勢

2024 年 6 月 23 日 20:00

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC2319G0T20C24A6000000/>

A P E C の舞台裏で攻防 防衛ラインの第 2 列島線めぐり日米豪と中国

2018/11/17 20:03

<https://www.sankei.com/article/20181117-AETOTYQCWRK7BHPZW3FJHGSZCQ/>

トランプ氏が新党結成を側近と協議、党名は「愛国者党」希望―D J

2021 年 1 月 20 日 11:08 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2021-01-20/QN7M2RDWX2PT01>

トランプ氏、22 年選挙で共和党の下院奪還支援へ―下院院内総務と会談

2021 年 1 月 29 日 15:13 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2021-01-29/QNNZIJT1UM0Y01>

ティンホイル・ハット

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://tinyurl.com/58my4tpn>

【1. 英国も右翼台頭で保守党惨敗観測】

フランス総選挙や東京都知事選に埋もれてしまっていますが、英国でも 07 月 04 日に総選挙が行われます。

そこでスナク首相の保守党が歴史的惨敗の見通し。

ファラージ氏の右派政党「リフォーム UK」が保守党から右側の票をごっそり削ってゆくので、左派の労働党が漁夫の利を得ます。

「リフォーム UK」は人気上昇していますが、自分たちはいくつかの議席を得るだけで保守党を負けさせてしまうのです。

これは以前から私が言っていたように、

「右派政党が乱立して育つ過程で左派が政権を取る」

逆説的な現象。

しかし保守派や右派がその後一緒になっても、政権を握った左派は二度とそれを手放すことがないように独裁体制を強化します。

米国はバイデン政権が不法移民を「わかっているだけで 1000 万人」招き入れ、彼らに投票させようとしています。

今の権力を使ってさらに権限を強化したり、検閲監視を強化したり、ライバルが立候補できないようにすれば独裁国家へ一直線です。

【2. 都知事選、保守は泣きながら小池氏に投票か】

この構図を今回の東京都知事選に当てはめてみましょう。

有名どころとしてはまず立憲民主党の蓮舫氏が立候補を表明しました。

わざわざ離党して党派色を薄めたのに、日本共産党や社民党が強い支持を表明しました。

ただでさえ左派色が強い蓮舫氏に、極左のイメージがついたわけです。

中道から右側の人々としては蓮舫氏が勝つと最悪なので、泣きながら小池氏に投票する人が多いかもしれません。

今回は保守派にとって、**強力な保守候補が出たら危なかった**と言えます。

英国のように保守票が割れて、蓮舫氏が勝つ可能性もあったからです。

しかし意図的か偶然か、強力な保守派の候補は出ませんでした。

おかげで下馬評では小池氏がリードしているそうです。

それを聞いて一部の右派は、自分が大好きなその他候補に投票しそうです。

蓮舫氏は中国や極左の応援を受けて、逆転できるかどうか。

中国は蓮舫氏を応援しているはず。

岸田政権+デニー沖縄知事で第一列島線を奪うことができました。

同じように岸田政権+蓮舫都知事で**小笠原諸島など第二列島線も奪える**と期待できるでしょう。

蓮舫氏にとって、あまり良くないことかもしれません。

ただでさえ多いアンチがさらに増殖し、典型的な「左派衰退ルート」に入ったように見えるからです。

蓮舫氏はたとえ負けてもすぐに衆院選東京 26 区で議員に戻れると考えて立候補したのでしょう。

しかし不人気が明確になれば、立憲民主党からハシゴを外されるかもしれません。

一方、**石丸伸二**氏は動画やツイッターを活用した選挙戦略を展開。

無党派層では蓮舫氏を抜き二番手に浮上したとの話もあります。

それを聞くと私は「左派のアイドルが世代交代するのか？」とってしまうのです。

左翼の「スターシステム」は、人気が陰ると残酷なほど無慈悲に「古い左翼アイドル」を切り捨てます。

しかし私の「**妖気アンテナ**」は同じゴリ押しでも、また違った手法のように感じています。

蓮舫氏を持ち上げていたのとはまた別の組織なのかもしれません。

【3. 左派は権力を失わぬよう露骨に工作する】

このような保守派分裂の危機を回避した例が最近でもありました。

2021 年 01 月 20 日に大統領を退任したトランプ氏と共和党の場合です。

当時トランプ氏は「**愛国者党 Patriot Party**」を立ち上げる構想を持っていました。

それによって共和党が分裂し、民主党が強くなるのではないかと私は危惧しました。

会員さん向けメール

投資戦略アップデート (20210125) [大統領選]

★★★ トランプ氏への弾劾は 2 月 9 日からスタート。米共和党が割れ、続いて米民主党も割れる予感。

しかしマッカーシー下院院内総務はフロリダのトランプ氏別邸を訪問し、下院奪還で合意。

これは

「江戸城無血開城」並みのファインプレー

だったと思います。

これがなければ保守派が割れ、米民主党がずっと政権を握ることになっていたからです。

その後トランプ氏は党内の争いで勝利を収め、約 3 年かけて **RINO(名ばかり共和党)をほぼ全滅**させました。

これは明治維新で言えば戊辰戦争に当たる掃討戦だったと私は思います。

ただしこのような場合は珍しいのかもしれませんが。

保守と右派がすぐ共闘できれば良いですが、そうしないように左派は工作します。

右派が離脱して保守が負けると、左派が政権を取ります。

左派が権力を握ると、二度とそれを奪われないよう「権力を固定化」します。

バイデン政権やカナダのトルドー自由党が行っている保守派弾圧はまさにそれです。

検閲強化・言論弾圧・議会の権力縮小・任期の延長などを繰り返して独裁化が進むのです。

保守派としてはそうならないよう、左にも右にも偏らないようバランスを心掛けなくてはなりません。

(終)

=====

【会員さん用アップデート概略】

1. えっ！中古価格が新築より高いんでっか？
 2. 「レバビディア」に恐怖するベテラン勢
 3. バブル佳境の脳筋戦略「松竹梅」のほうがはるかにまとも。
-

関連リンク

米新築一戸建て住宅販売、11月以来の低水準—価格・金利高止まりで

2024年6月27日 0:02 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-06-26/SFOXZZT1UMOW00?srnd=co.jp-v2>

エヌビディア株のレバレッジ型ETF、株価急落前に記録的な資金流入

2024年6月25日 7:48 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-06-24/SFLMV5TOG1KW00>

エヌビディア株の2倍のリターン提供のETF、記録的資金流入

2024年3月12日 10:19 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-03-12/SA7CI1T0AFB400>

エヌビディア2倍ブルETF

GraniteShares 2x Long NVDA Daily ETF (NVDL)

<https://finance.yahoo.com/quote/NVDL/>

Direxion Daily Nvda Bull 2X Shares (NVDU)

<https://finance.yahoo.com/quote/NVDU/>

2013年05月26日 00:24

似て非なるもの。レバレッジ2倍とダブルブル投信の違い(シミュレーション用 Excel シート付き)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51117613.html>

失敗者続出の「レバナス」悲惨な末路とは？

利上げで乱高下する米国株。今日も聞こえるレバナス民の悲鳴

2022. 8. 24

一度下がった株価が元の水準まで回復しても、レバナスの価格はプラスマイナスゼロどころかマイナスのまま

https://mon-ja.net/220824-01_tragedy-of-leverage-nasdaq/

【1. えっ！中古価格が新築より高いんでっか？】

今週発表された**新築住宅販売の価格中央値は、なんと中古住宅を下回り**ました。

5月の米新築一戸建て価格中央値も下げ始め前年比-0.9%の41.74万ドル（約6700万円）。

一方で先週金曜に発表された「中古」住宅価格中央値は41.93万ドルでした。

しかしこの逆転現象は不思議なほど騒がれていません。

住宅在庫に至っては128万戸で前年比+18.5%と急増していますが、価格が下落すると言われている200万戸からはほど遠い水準。

したがって価格が急落する可能性も低いです。

家計に与える影響は限定的。すでに低利で住宅ローンを組んだ家は特にそう（ロックイン効果）だと思います。

しかし販売戸数が低迷することで、関連する消費は冷え込むことでしょう。

また気になるのは米金融機関への影響。

すでに商業不動産(CRE)で損失を抱えている金融機関にとっては厳しいかもしれません。

住宅価格の下落率は小さくても、すでにCREで打撃を受けているのですから「ロバの背骨を折る一本の藁」になりかねないからです。

それでも米株が下がるかどうかはわかりません。

2023 年 03-05 月のように、米株の値上がりによってそれらを上回る信用創造がなされるかもしれません。

住宅価格下落によって金融緩和されたり、「自宅は諦めてエヌビディア株を買おう」ということになれば逆にバブルの燃料にもなりえます。

ただし 新興国連鎖破綻や欧州金融危機よりも先に、米国の住宅市場から信用収縮が発生する可能性も頭の片隅に入れておきます。

【2. 「レバビディア」に恐怖するベテラン勢】

エヌビディア株に対し 2 倍のリターンを提供する ETF (NVDU や NVDL) が日本で取扱開始。

巷ではこれを

「レバビディア」

と呼んでいるらしいです。

私は『ユーチューバーたちがこれで早期引退(FIRE)するんだと喜んでいる』とある人から教えてもらい、悶絶しました。

数年前に流行した「レバナス」を思い出しますけれども、それよりもさらに強烈なことになりそうです。

これら ETF が米国で上場されたのは昨年 06-09 月のようです。

そこから十分利益が乗ったので、「出口戦略」として日本の投資家に売りに来たのではないかと勘繰ってしまいます。

NVDL は先週「記録的な 7 億 4300 万ドル (約 1186 億円) の流入」したとのこと。

その後「18 日終値から約 25%下落したが、年初来ではなお約 329%上昇」と記事に書かれています。

しかしそもそもブル投信は、原資産（この場合エヌビディア株）が乱高下するだけで価値が減る性質があります。

ましてやボラティリティ(価格変動率)が高いエヌビディア株でそれをやるのはキチガイ沙汰と言えるでしょう。

【3. バブル佳境の脳筋戦略「松竹梅」のほうかはるかにまとも。】

数年前にも、ナスダックの価格に 2 倍 3 倍の価格変動を提供する ETF への投資が流行しました。

ナスダック指数にレバレッジをかけた商品なので「レバナス」と呼ばれていました。

つてのレバナス民はどうなったかと確認したところ、NASDAQ100 ブル 2 倍 ETF は半年で-54%という時期もありました。

これをずっと持っていれば、つい最近高値を回復しています。

しかしレバレッジなしの NASDAQ100ETF (QQQ) はそれよりずっと早く最高値を更新更新しています。

かつてのレバナス民たちは、半年で半値以下になった時期を耐えられたのでしょうか。

基本的に長期投資はレバなしで積み立てるのが一番です。

ましてや NISA はそうなのです。

「レバビディア」「レバナス」に比べると、今月号のレポートで私が提唱したバブル佳境の脳筋戦略「松竹梅」のほうがはるかにまともです。

「松竹梅」はそもそも、「2024 年 05 月ポートフォリオパフォーマンス解説動画」20240608 で紹介したアイディアでした。

ポイントは、エヌビディアをアンダーウェイト（指数より少ない比率）にしないこと！

リスクとリターンが高い順に

(1) 松: エヌビディア+情報技術 ETF

(2) 竹: エヌビディア+NASDAQ（先物・ETF）

(3) 梅: エヌビディア+SP500（先物・ETF）

一見素人っぽく見えますが、バブル終盤では最も効果的だと思います。

まさかこの戦略をすぐ採用するとは思っていませんでしたが、「レバビディア」「レバナス」を見た後だと極めて常識的な戦略に見えてしまいます。

(終)

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 06 月のパフォーマンス（暫定）

「永久保有」はAI 銘柄弱く必需品指数に対するリード+1.78%に縮小。

「グローバルマクロ」は「本流」進むも指数強くリード+0.25%に縮小。

「個別銘柄」は「本流」進むも個別冴えず指数+0.09%に縮小。

+4.43% 永久保有

+5.05% グローバルマクロ

+4.81% 個別銘柄

円ベース	現地通貨	通貨
+4.72%	+2.35%	+2.32% MSCI ワールド指数(*)
+5.98%	+3.58%	+2.32% MSCI 新興国指数(*)
+6.30%	+3.89%	+2.32% 米 S&P 500 指数
+9.19%	+6.71%	+2.32% 米 NASDAQ 総合指数
+1.69%	+1.69%	+0.00% 東証株価指数 TOPIX
+3.19%	+3.19%	+0.00% 日経平均
+2.58%	+0.25%	+2.32% 米国生活必需品指数(*)
+12.34%	+9.79%	+2.32% 情報技術(*)
+8.81%	+6.34%	+2.32% 一般消費財(*)
+9.00%	+6.53%	+2.32% コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 06 月 27 日 23:14

投資戦略動画（公開用）20240627 英国も右翼台頭で保守党惨敗観測。都知事選、保守は泣きながら小池氏に投票か。左派は権力を失わぬよう露骨に工作する。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290008.html>

2024 年 06 月 26 日 21:47

【週末だけのグローバル投資】会員レポート DEEP INSIDE 2024 年 06 月号「バブル佳境の脳筋戦略
「松竹梅」

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51289973.html>

2024 年 06 月 22 日 08:00

【週末だけのグローバル投資】「いわゆる右派」躍進で動く欧州政治。マクロン仏大統領、解散総
選挙で自爆か。国益重視のナショナリストは標的にされやすい。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51289848.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>

(20240705) 情報技術、2 か月以上突っ走る。もはや中国株が下げても新興国すら下げない。「トランプトレード」の影響少なく後付けの理由。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20240705) 情報技術、2 か月以上突っ走る。もはや中国株が下げても新興国すら下げない。「トランプトレード」の影響少なく後付けの理由。

ただいま 2024 年 07 月 05 日 (金) 17:07 です。

*****[動画]*****

動画は長いので 2 倍速推奨です。

公開用の動画を用意しましたので、そちらを先にご覧ください。

それを前提に投資戦略を組み立てています。

2024 年 06 月 29 日 23:49

投資戦略動画 (公開用) 20240629 第 1 回討論会、「老人虐待」がトレンド入り。「若い候補者で大逆転」にシナリオ変更か。それでも勝ったら選挙制度が怪しまれる。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290079.html>

2024 年 07 月 02 日 22:16

投資戦略動画 (公開用) 20240702 民主党大統領候補の変更は意外と難儀。米最高裁、司法の武器化にダメ出し判決。それでも投票機・投票制度へ工作続く。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290180.html>

全会員さん用動画 (21 分)

https://youtu.be/D6Y_jNR5sNQ

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはパフォーマンスレポートと動画をリリースしまし

たので今週はお休みさせていただきます。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

wi@wildinvestors.com

*****[投資戦略 公開用]*****

=====

【公開用アップデート概略】

1. 第1回討論会、「老人虐待」がトレンド入り
2. 「若い候補者で大逆転」にシナリオ変更か
3. それでも勝ったら選挙制度が怪しまれる

関連リンク

CNN Presidential Debate: President Joe Biden and former President Donald Trump

<https://www.youtube.com/watch?v=-v-8wJkmwBY>

CNN でさえ 67 対 33 でトランプ氏（事前予想は 55 対 45）

<https://x.com/RNCResearch/status/1806541631639703812>

バイデン氏は夫人に手を取られないとステージを降りられなかった。その後司会 2 人に挨拶。

https://x.com/greg_pricell/status/1806521728564363729

「トランプはうそつき！」で戦略は統一されているらしい。討論後のコメンテーターたちもそう連呼していた。

<https://x.com/bennyjohnson/status/1806527820719349906>

嘘だらけのトランプ、的を得ないバイデン。大統領討論会で民主党の間に生まれた不安
第一回目のテレビ討論会。バイデン氏の発言は「弱々しい」と捉えられ不安が広がった

2024 年 06 月 28 日 17 時 55 分 JST

https://www.huffingtonpost.jp/entry/presidential-debate_jp_667e4a23e4b036ae7cea010d

民主党議員ら、バイデン氏に「絶望」 大統領討論会終え

2024.06.28 Fri posted at 12:45 JST

<https://www.cnn.co.jp/usa/35220795-2.html>

NYタイムズ論説委員会、バイデン氏に撤退要請 討論会での低調受け

2024.06.29 Sat posted at 09:20 JST

<https://www.cnn.co.jp/usa/35220826.html>

米カリフォルニア州知事のリコール選挙、現職が続投へ＝米報道

2021 年 9 月 15 日

<https://www.bbc.com/japanese/58569223>

【1. 第 1 回討論会、「老人虐待」がトレンド入り】

米国大統領選挙の第一回討論会は「惨劇」でした。

バイデン氏の隠されていた「症状」が衆目にさらされたのです。

その兆候は 4 年前の討論会から出ていたのですが、「トランプ派は嘘をつくな！」と認めようとしませんでした。

それが今回、世界中の人々が目撃することになって誤魔化することができなくなったのです。

CNN は過去 2 回の大統領選挙で、討論会のたびにスコアをすぐ出して喜んでいました。

2016 年はトランプ氏に対してヒラリー氏が 3 回とも圧勝。しかし選挙で負けてしまいました。

2020 年は 2 回ともバイデン氏が勝利。それでもトランプ氏が勝ちそうになって「あんな選挙」が起きました。

今回 2024 年 CNN はなかなかスコアを出そうとしなかったのですが、33 対 67 でトランプ氏がダブルスコアで勝利しました。

**この時点でもはや、「えっ、もう無理じゃん」
となりました。**

CNN スタジオでコメンテーターたちは大混乱となり、「トランプはうそつき！」と連呼しました。

正直に「バイデンは好きだけど不安」と言った人もいましたが、二度と CNN に呼ばれないかもしれません。

さらにショックだったのは討論後、夫人が迎えに行って手を取るまで壇上から降りられなかったことです。

夫人の介護を受けながら低い階段を右足で降り、左足を揃え、また右足で降り、左足を揃えと繰り返し返しました。

その後 CNN の司会 2 人と握手し癒着を暴露。

その「圧倒的ホーム」である CNN で負けたなら、ほぼ絶望的なのです。

惨敗した民主党は、左翼得意の「どっちもどっち(DD)論」にすり替えてきました。

トランプが勝ったとは絶対に言いたくないので、「勝者なし、敗者はアメリカ」と偉そうに評しています。

ハフポストも「嘘だらけのトランプ、的を得ないバイデン」と DD 論。

CNN コメントーターもジル・バイデン婦人も「トランプはうそつき！」と連呼しているので、その戦略で統一されているのでしょう。

前回選挙でハンターPC やウクライナのブリスマ疑惑を指摘されても「それは事実ではない」と言い続けたのと同じです。

嘘がバレても、言い続ければ誰かが信じるだろうと思っているのです。

【2. 「若い候補者で大逆転」にシナリオ変更か】

ただトランプ氏側としては、これ以上バイデン氏の年齢や認知能力を問題視すべきではないと思います。

すでに世界中に知れ渡ったので、これ以上そこを突いても追加的利益はないからです。

今は共和党側がバイデン氏を「操作」するジル夫人のことを指し「高齢者虐待(ELDER ABUSE)」がトレンド入りしてします。

しかし やり過ぎると、共和党側が老人虐待しているように映ってしまう でしょう。

若い候補者にチェンジされたとき、まるでバイデン政権のすべての問題が解決したかのように思われてしまいます。

彼らが繰り返してきた「司法の武器化」「外交・軍事上の失敗」「治安悪化」「警察・軍の破壊」「教育破壊」などに焦点を絞るべきです。

それでは民主党の勝利条件から、今後どのような動きになるか考えてみましょう

=====

民主党の勝利条件

(絶対条件) トランプ氏を大統領にさせないこと

(できれば条件) 選挙結果を国民に怪しまれるないようにすること

=====

(シナリオ 1) 確率は低いですが、バイデン氏から若い候補に変更することです。

CNN や NYT は「民主党議員ら、バイデン氏に「絶望」」などと報道し始めました。

また「大統領になるには両氏とも年を取り過ぎているが 59%」など、候補者変更のための印象操作を加速させています。

民主党全国委員会は、直前に候補者をスイッチできるよう党規約を変更してあります。

「若くて」「顔が良くて」「まだ知られていない」候補者を出して、今の劣勢をチャラにするわけです。

その時は必ず「有権者は若い候補を望んでいる」「民主党はバイデン氏を降ろしたのだから、共和党もトランプ氏を降ろせ」と言い出すでしょう。

【3. それでも勝ったら選挙制度が怪しまれる】

トランプ氏対バイデン氏のままであれば、掛け率は 35 ポイント差 (54.8 対 19.2) に急拡大しており「勝負は決したも同然」です。

しかしニューサム CA 州知事に対する確率が 10.8 ポイントに上昇しており、次の人形は見た目も良い彼になるかもしれません。

彼は 2021 年にコロナ自粛を呼びかける中で高級レストランで会合を開いていたことがバレ、200 万人分の署名とともにリコールをかけられました。

その時は対立候補が乱立し、対立候補の票が分散した結果リコールは失敗しました。

ところがもし大統領候補になってしまえば、トランプ氏相手なら地元「青い州」CA 州を落としてしまうかもしれません。

今から候補者をチェンジして「奇跡の大逆転ストーリー」を演出するには、2020 年以上の「努力」が必要になると思います。

もし今回それをやって選挙結果を怪しむ人が増えたら、前回の結果も怪しまれることになるでしょう。

その動きを今以上の弾圧で黙らせる覚悟があるかどうかです。

(シナリオ 2) 本気で注意しなければならないのは、トランプ氏に「偶然」不幸が起きて民主党が

大逆転勝利することです。

この場合、大統領が共和党のヘイリー氏になっても構いません。

なぜなら彼女はグローバリストで民主党寄りなので、これまでの所業が不問になるからです。

そのために民主党支持者が資金を出して、最後までトランプ氏と争わせたわけですから。

彼らにとってより好都合なのは 「トランプ氏がいなくなること」。

今なら有罪「評決」が出たばかりなので、自分たちで○しておいて「あいつは○んで罪を逃れた」と強弁できます。

安倍首相をモリカケサクラで追及し、暗殺されたら「あいつは○んで罪を逃れた」と言い始めたのと同じように。

それまで黙っていた統一教会と結び付け「カルトの広告塔だったからだ」と言い始めたのと同じように。

特に「司法の武器化」でメチャクチャやっていたことが米連邦最高裁から正式に否定され始めたので、有罪評決が取り消される前に急ぐ必要があります。

これについては続きの動画でもう少し説明します。

(終)

【公開用アップデート概略】

1. 民主党大統領候補の変更は意外と難儀
2. 米最高裁、司法の武器化にダメ出し判決
3. それでも投票機・投票制度へ工作続く

関連リンク

バイデン氏は風邪？ CNN が報じる 米大統領選討論会

2024/6/28 11:46 (最終更新 6/28 11:46)

<https://mainichi.jp/articles/20240628/k00/00m/030/099000c>

2024 General Election: Trump vs. Biden(5-Way)

<https://www.realclearpolling.com/polls/president/general/2024/trump-vs-biden>

米民主はなぜ「バイデニー択」か 党分断で敗北ジンクス

2024 年 2 月 2 日 5:00 [会員限定記事]

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD313280R30C24A1000000/>

ヘリテージ財団、バイデン氏が DNC 指名から外された場合の選挙法的挑戦に着手

少なくとも 3 つのスイングステート（ジョージア州、ネバダ州、ウィスコンシン州）では、バイデン氏の指名外しが制限される可能性がある。

Published June 29, 2024 10:38am EDT

<https://www.foxnews.com/politics/heritage-working-election-legal-challenges-case-biden-pulled-from-dnc-nomination>

6.29 ついにきたあああ!!!!保守狩りに連邦最高裁が NO 判決

カナダ人ニュース

2024/06/30

<https://www.youtube.com/watch?v=4gaddsPhYH4>

Supreme Court rules in favor of Jan. 6 Capitol riot participant who challenged obstruction conviction

The challenge was brought by Joseph Fischer, one of more than 300 people charged with obstruction by the Justice Department

Published June 28, 2024 10:52am EDT | Updated June 28, 2024 12:25pm EDT

最高裁、威力業務妨害の有罪判決に異議を唱えた 1 月 6 日の国会議事堂暴動参加者に有利な判決

司法省によって威力業務妨害で起訴された 300 人以上のうちの 1 人、ジョセフ・フィッシャーが起こした異議申し立て

公開 2024 年 6 月 28 日 10 時 52 分 EDT | 更新 2024 年 6 月 28 日 12 時 25 分 EDT

<https://www.foxnews.com/politics/supreme-court-rules-favor-jan-6-capitol-riot-participant-challenged-obstruction-conviction>

<https://static.foxnews.com/foxnews.com/content/uploads/2024/06/Supreme-Court-Jan-6-Decision.pdf>

7.1 勝訴!!!!

カナダ人ニュース

2024/07/02

<https://www.youtube.com/watch?v=pL52YW3-SAc>

マリコパ郡臨時選挙職員、集計センターから窃盗、逮捕される

6 月 24, 2024, 9:37 AM | 更新日時: 2024 年 6 月 25 日 9:16 AM 2024 年 6 月 25 日午前 9 時 16 分

Temporary Maricopa County elections worker arrested after theft from tabulation center

<https://ktar.com/story/5577947/maricopa-county-elections-temporary-worker-arrested-theft-ballot-tabulation-center-walter-ringfield/>

ロサンゼルス郡の元検察官は、ジョージ・ギャスコン地方検事が選挙ソフト会社に対する刑事告発を取り下げ、その後この会社の重役に 500 万ドルの和解金が支払われたことについて、その「公式発表」に疑問を呈している。

A former prosecutor in Los Angeles County is questioning the “official story” behind the decision by District Attorney George Gascon to drop criminal charges against an election software company and the subsequent \$5 million settlement paid to the firm’s executive.

<https://thecongressionalinsider.com/prosecutor-raises-doubts-about-soros-backed-das-dismissal-of-charges-against-election-firm/>

前回に続き、以下の3点を説明します。

その前に細かい点を2件説明していますが、詳しくは動画をご覧ください。

- (1) 民主党がバイデン氏から候補者を変更することは意外に難しいらしい
 - (2) 司法の武器化がひどすぎて、最高裁からダメ出しが出始めている
 - (3) 選挙制度や投票機を巡り、引き続き裏で動いている人たちがいる
- 民主党の候補者が誰であれ「トランプ氏を確実に落選させる準備」が進んでいる
- 怪しまれてもゴリ押しを続けるか？

【1. 民主党大統領候補の変更は意外と難儀】

民主党内でバイデン氏に代わる候補者選びが難航しているようです。

まず上層部は「党内候補の指名争いが長期化すると資金が枯渇したり反対政党に攻撃材料を与えてしまい本選で敗北する」というジंकスを恐れています。

また保守団体ヘリテージ財団によると、ウィスコンシン(WI)州・ネバダ(NV)・ジョージア(GA)の接戦州は法律上、候補者の変更が非常に難しいとのこと。

それでも変更するのであれば、法廷闘争に着手すると宣言しています。

それらが正しいとすれば、バイデン氏の身に何かあったほうが喜ぶ人があるのかもしれませんが。

トランプ氏もそうですが、気を付けてもらいたいものです。

【2. 米最高裁、司法の武器化にダメ出し判決】

また米連邦最高裁が、トランプ氏に有利な判決をいくつか出しました。

ひとつめは1月6日事件の魔女狩りに使われている法律「司法妨害セクション 1512(c)(2)」の適用が不適切であると6対3で判決。

これにより、トランプ氏を含む350人の重罪疑惑が吹き飛んでしまいます。

すると約1400人が起訴されているがほとんどが軽犯罪となり、うちトランプ氏を含む350人の重犯罪が無効になる可能性がある。

「1月6日事件は真珠湾攻撃並みのテロ」という民主党側の物語が根拠を失ってしまうのです。

口止め料裁判と同じように、せいぜい軽犯罪どまりのことを重犯罪にしようとした工作が失敗したということです。

ところで「1月6日は大勢の人が死んだのではないか？」と思うかもしれません。

しかしアシュリー・バビットさんを無警告で撃った警官は起訴されていません。

デモ隊は他に翌日までに4名が「自然死」しました。

その翌日以降に4名の警官が「自然死」「自殺」。

ステンガー上院衛視長も公聴会中に「なぜ直前に警備を薄くしたのか理解できない」と発言したあとすぐ死亡。

実は誰ひとり、殺人や過失致死で罪になっていないのです。

それでも疑問に思う方は、米下院が公開している当日の無修正動画を見ると良いかもしれません。

また少なくとも70人近く現場に居た潜入捜査官や内通者、どの駅からどうやって来たのかわかっているのに捜査打ち切りとなった「爆弾魔」についても検索してみると良いでしょう。

もうひとつ米連邦最高裁が下したのは「大統領の私的行為は免責されないが、すべての公的行為は推定免責で場合による」という判決。

これはもともと高裁が「トランプだけに限り、大統領として行った行為であっても免責されない」というメチャクチャな判決を出しました。

「大統領として行った行為であっても免責されない」のであればバイデン氏・オバマ氏・クリントン氏なども危険になりますから「トランプ氏に限り」と魔女狩りを行ったのです。

しかしトランプ氏は「すべて免責される」と、これまた正反対にメチャクチャな反論をしました。

その意味で最高裁は当たり前の判決を出したのですが、「トランプ氏に罪を着せるために私的行為であることを証明しなくてはならなくなった」反トランプ側が怒っています。

一方で米連邦最高裁は「国家による大規模検閲」は容認しています。

「アンタ当事者じゃないからワシ判断せんわ」と、判断を避けたのです。

これは2020選挙の時と同じ「責任回避」。

歪選挙や大規模検閲は国民全体に影響がありますから、誰でも当事者になれるはず。

州の司法長官でもダメだったら、だったら誰が当事者になれるんだよと思います。

【3. それでも投票機・投票制度へ工作続く】

米民主党が劣勢になればなるほど、選挙では 2020 年以上の工作をする可能性が高いです。

「なぜかいつも選挙で共和党に不利なトラブルが起きる」アリゾナ州マリコパ郡では、投票機のセキュリティデバイスを盗んだ人物が逮捕されました。

彼は重罪で保護観察中だったそうですが、なぜそんな人物が選挙管理委員会で仕事を得られたのか不思議です。

また中国に情報漏洩し逮捕された投票機メーカー・コネッチ (Konnech) CEO を、CA 州ロサンゼルス郡極左地方検察官ジョージ・ガスコン氏が起訴しました。

それを共和党は「まともな裁判官だ」と称賛しました。

するとガスコン検察官は方針転換して起訴を棄却。

逆に CEO に 500 万ドルの和解金を払ったそうです。

同地方検察オフィスを辞めた（辞めさせられた？）元検察官は、「トランプ氏が言っている歪選挙の言い分を補強してしまうことを危惧したのではないか」と述べています。

今後のシナリオは二段構えになりそうなので、以下のように修正しておきます。

=====

民主党の勝利条件

（絶対条件）トランプ氏を大統領にさせない

（できれば）選挙結果を国民に怪しまれない

（手段 1：工作中）

バイデン氏から若い候補に変更

（手段 2：本気で注意）トランプ氏に「偶然」不幸が起きて民主党が大逆転勝利。

共和党ヘイリー氏になっても良し。グローバリストで民主党寄りなのでこれまでの所業が不問になる。そのために民主党支持者が資金を出して最後のひとりになるまで粘らせた。

=====

（終）

=====

【会員さん用アップデート概略】

1. 情報技術、 2 か月以上突っ走る
2. もはや中国株が下げても新興国すら下げない
3. 「トランプトレード」の影響少なく後付けの理由

関連リンク

日経平均最高値 始まった「トランプ・トレード」

2024 年 7 月 4 日 11:58 (2024 年 7 月 4 日 15:13 更新) [会員限定記事]

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB03E0K0T00C24A7000000/>

バイデン氏の候補辞退警戒する世界の市場、トランプトレード模索

2024 年 7 月 4 日 4:17 JST 更新日時 2024 年 7 月 4 日 13:01 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-07-03/SG272HDWX2PS00?srnd=co.jp-v2/>

焦点：A I 主導の米株高、ドットコムバブルと類似点 バブル崩壊を警戒

2024 年 7 月 3 日午前 7:00 GMT+9

<https://jp.reuters.com/markets/world-indices/WJR6UFVMJFN5BHFQMTGZYKDAILI-2024-07-02/>

【1. 情報技術、 2 か月以上突っ走る】

2024 年 06 月の弊社パフォーマンスはそれほど悪くありませんでした。

しかしもっと利益が取れたはずだと、敗北感が強いです。

先月、持つ意味があったのは「大型かつグロース」だけ。

中小型グロースや大型バリューはほとんど上昇せず、中小型バリューに至ってはドルベースで下落しました。

「AI 業種御三家」がやたら強い一方で、11 業種中 6 業種が下げる極端な二極化相場でした。

仮にバリュー株や中小型を中心に投資を行っていたら、指数に大きく置いて行かれたことでしょう。

特に情報技術は 2 か月連続で突っ走りました。

「情報技術以外持つ意味がないのではないか？」

と考えさせられるほどです。

米株は毎日のように史上最高値を更新していますが、何を持つかによって収益が全く違っているはず。

NASDAQ 総合指数は 2023 年初頭から値下がりする銘柄のほうが多かった（＝AD ラインが下がっている）にもかかわらず、指数は上昇し続けました。

そして今回の上昇相場では、SP500 でさえ AD ラインが下がり始めています。

つまり極端な二極化相場が、SP500 指数にまで広がってきたということです。

先日は「バブル佳境の戦略 松竹梅」を紹介しました。

少数の AI 銘柄を「サテライト（トッピング）」として指数「コア」と組み合わせる戦略です。

この先、ますますこれらの戦略が有効になってくる気がしています。

松: エヌビディア+情報技術 ETF

竹: エヌビディア+NASDAQ（先物・ETF）

梅: エヌビディア+SP500（先物・ETF）

【2. もはや中国株が下げても新興国すら下げない】

いま市場では「トランプトレード」なるものが記事になっています。

しかし日米でややニュアンスが異なるようです。

「日本株のトランプトレード」は日本株が大型バリュー中心に上昇すること。

- 「2016年のトランプ氏当選で米金利上昇。株式市場では資本財や鉄鋼などオールドエコノミーのバリュー（割安）株が買われた」
- 「トランプ氏再選なら米国の対中強硬姿勢がいつそう強まるとの見方から、日本やインドといったアジアの他国に資金を移す動きが再び強まっている可能性がある」

とのこと。

前回とは状況が違いますし、米株はグロースが上げて日本株はバリューが上げるのも不思議なのですが、一定の説得力があります。

米国の「トランプトレード」も概ね妥当ですが、中にはおかしい点もあるので解説します。

- (1) 財政緩和と保護主義強化からインフレ誘発
- (2) 米国債利回り上昇・ドル高・株高（？）
- (3) 特に銀行株・医療株・エネルギー株が上昇
- (4) 関税引き上げ政策によって下落する可能性があるのはメキシコペソと中国人民元。
- (5) 中国株にとってマイナス。中国市場へのエクスポージャーが高い日本株も打撃を受ける可能性が高い。→後述
- (6) 暗号資産を支持しており、好意的

まず(2)(3)でトランプ氏返り咲きが株高要因と思われることは意外でした。

だいたい悪いことはトランプ氏のせいにされがちです。

たとえば米金利が上昇すると「トランプ氏返り咲きを警戒！」と悪く書かれるのですが、同時に米株が史上最高値を更新していても「トランプ氏のおかげ」とは言われません。

そして(5)「中国市場へのエクスポージャーが高い日本株も打撃を受ける可能性が高い」というのは全く逆でしょう。

再ブロック化は日本にとって大きな利益です。

そして先月のパフォーマンス表を見てもわかるように、**もはや中国株が下げても西側の株価は上昇し続けるのが普通**になっています。

それどころか香港株が下げても代わりに韓国・インドがブチ上がり、新興国指数が先進国以上に上げました。

つまり**中国株下落による悪影響は、先進国はもちろん新興国にすら及ばなくなっている**のだと私は考えます。

【3. 「トランプトレード」の影響少なく後付けの理由】

ここまで説明しておいてなんですが、「トランプトレード」の影響はほとんどないと思います。

というのも米国政治が大混乱に陥っていることとは関係なく、米国に世界中から投資資金が集まっているからです。

トランプ氏がすんなり大統領になれるとも思いませんし、その当選確率と関係なく AI 関連がブチ上がると私は予測しています。

そのリバーサルが起きた時だけ「トランプトレードにより」と後付けの説明に使われそうです。

二極化が進み、住宅価格が怪しいので私は米セクターの銀行やヘルスケアは期待できないと思います。

ただしエネルギーは脱ポリコレで面白いかもしれないと考えます。

今回の米株上昇を「ドットコムバブルの再来」と考える記事が増えてきました。

下の記事は「一部巨大テックが牽引している点は類似しているものの、当時よりもバリュエーションや投資家心理はまだ危険ではない」という結論付けています。

- (ロイター) AI 主導の米株高、ドットコムバブルと類似点 バブル崩壊を警戒 2024 年 7 月 3 日
- 予想株価収益率 (PER) は 2000 年の 48 倍と比べ、現在は 31 倍
- エヌビディアの予想 PER は 40 倍にとどまり、シスコは 00 年 3 月に 131 倍
- 21 倍となっている S&P 500 の PER は過去の平均を大きく上回っているものの、1999 年と 2000 年の約 25 倍
- 強気心理の割合は 00 年 1 月には 75% に達した。最近 は 44.5% で、過去平均は 37.5%。

ドットコムバブルを見てきた人々は、同じような感想を持つはずです。

この上昇相場が続くと言われると、あまり自信がありません。

しかし当時に比べて人々の狂い方が『まだまだ』おとなしいので、『もうダメだ暴落する』という自信もないのです。

それでも私がずっと「構造がドットコムバブル期と全く同じ」と言って戦略を取り続けたことは正しかったようです。

やはり似た展開・結末になるはずと考えて、投資戦略を提供します。

(終)

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 06 月の助言パフォーマンス (確定)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290246.html>

「永久保有」は成長銘柄が強く必需品指数を 1.94%ポイント上回りました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分が健闘しロングショートも利益を上積みしたものの、バリュー株 ETF を組み入れていたことが裏目で MSCI ワールド指数に対して 0.42%劣後しました。

「個別銘柄」はバリュー株 ETF を組み入れていたことが裏目に出て MSCI ワールド指数に対し 0.81%ポイント劣後しました。

+3.99% 永久保有

+3.93% グローバルマクロ

+3.54% 個別銘柄

円ベース	現地通貨	通貨
+4.35%	+2.07%	+2.24% MSCI ワールド指数(*)
+6.34%	+4.01%	+2.24% MSCI 新興国指数(*)
+5.78%	+3.47%	+2.24% 米 S&P 500 指数
+8.33%	+5.96%	+2.24% 米 NASDAQ 総合指数
+1.34%	+1.34%	+0.00% 東証株価指数 TOPIX
+2.85%	+2.85%	+0.00% 日経平均
+2.05%	-0.18%	+2.24% 米国生活必需品指数(*)
+11.77%	+9.32%	+2.24% 情報技術(*)

+7.24%	+4.89%	+2.24%	一般消費財(*)
+7.15%	+4.80%	+2.24%	コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

2024 年 07 月のパフォーマンス（暫定）

「永久保有」は成長銘柄が引き続き強く冴えない必需品指数に対し 1.83%ポイント上回っています。

「グローバルマクロ」はロングショートでわずかに利益足すも永久保有部分の必需品が冴えず MSCI ワールド指数に対し 0.01%ポイント劣後しています。

「個別銘柄」は逆流食らうもネットロング奏功し個別銘柄も好調で MSCI ワールド指数に対し 0.67%ポイント上回っています。

+1.78% 永久保有

+1.77% グローバルマクロ

+2.25% 個別銘柄

円ベース	現地通貨	通貨	
+1.78%	+1.65%	+0.12%	MSCI ワールド指数(*)
+2.00%	+1.88%	+0.12%	MSCI 新興国指数(*)
+1.53%	+1.40%	+0.12%	米 S&P 500 指数
+2.70%	+2.57%	+0.12%	米 NASDAQ 総合指数
+3.06%	+3.06%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
+3.66%	+3.66%	+0.00%	日経平均
-0.05%	-0.17%	+0.12%	米国生活必需品指数(*)
+3.47%	+3.35%	+0.12%	情報技術(*)
+3.01%	+2.88%	+0.12%	一般消費財(*)

+1.29% +1.16% +0.12% コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 07 月 04 日 20:50

助言パフォーマンス 2024 年 06 月

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290246.html>

2024 年 07 月 02 日 22:16

投資戦略動画（公開用）20240702 民主党大統領候補の変更は意外と難儀。米最高裁、司法の武器化にダメ出し判決。それでも投票機・投票制度へ工作続く。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290180.html>

2024 年 06 月 29 日 23:49

投資戦略動画（公開用）20240629 第 1 回討論会、「老人虐待」がトレンド入り。「若い候補者で大逆転」にシナリオ変更か。それでも勝ったら選挙制度が怪しまれる。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290079.html>

2024 年 06 月 29 日 08:00

【週末だけのグローバル投資】英国も右翼台頭で保守党惨敗観測。都知事選、保守は泣きながら小池氏に投票か。左派は権力を失わぬよう露骨に工作する。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290037.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらへどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>

(20240712) 広範囲にインフレ鎮静化で 9 月利下げ確実視。中国、この秋に向け大混乱ありそう。ポリコレで破壊されたドイツの産業。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20240712) 広範囲にインフレ鎮静化で 9 月利下げ確実視。中国、この秋に向け大混乱ありそう。ポリコレで破壊されたドイツの産業。

ただいま 2024 年 07 月 12 日 (金) 23:33 です。

*****[動画]*****

動画は長いので 2 倍速推奨です。

公開用の動画を用意しましたので、そちらを先にご覧ください。

それを前提に投資戦略を組み立てています。

2024 年 07 月 07 日 23:53

投資戦略動画 (公開用) 20240707 都知事選、若い無党派層の奪い合い。あの人たち、バイデン降ろしに手段選ばず。FBI のお気に入り MI 州知事ホイットマー氏。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290361.html>

全会員さん用動画 (16 分)

<https://youtu.be/8k0aj0gWDko>

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはこれらを踏まえてさらに詳しい動画を用意しています。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

wi@wildinvestors.com

*****[投資戦略 公開用]*****

=====

【公開用アップデート概略】

1. 都知事選、若い無党派層の奪い合い
2. あの人たち、バイデン降ろしに手段選ばず
3. FBI のお気に入り MI 州知事ホイトマー氏

関連リンク

東京都知事選挙

<https://www3.nhk.or.jp/senkyo2/shutoken/20336/skh54664.html>

バイデン氏、撤退は「全能の神」が降臨した場合のみ ABCインタビュー

2024.07.06 Sat posted at 11:25 JST

<https://www.cnn.co.jp/usa/35221140.html>

2024 General Election: Trump vs. Biden

<https://www.realclearpolling.com/polls/president/general/2024/trump-vs-biden>

2024 U.S. President Betting Odds Data

<https://www.realclearpolling.com/betting-odds/2024/president>

(DeepL 翻訳)

ホイットマー知事誘拐計画裁判 4 日目、FBI の潜入捜査官が証言

アダム・フォックスとバリー・クロフトの第 2 回公判 4 日目、裁判所は複数の FBI 捜査官から、捜査に使用した潜入情報源について話を聞きました。

By Michael Martin 投稿日時：2022 年 8 月 12 日午前 11 時 19 分 最終更新日時：2022 年 8 月 13 日午前 5 時 22 分

<https://www.fox17online.com/news/governor-kidnapping-plot/undercover-fbi-agent-testifies-on-day-4-of-governor-whitmer-kidnap-plot-trial>

【1. 都知事選、若い無党派層の奪い合い】

東京都知事選は小池百合子さんの圧勝に終わりました。

二番手争いは石丸伸二さんが蓮舫さんを凌駕。

最後まで若い無党派層を奪い合ったようです。

期日前投票で小池百合子さんが優勢だったのは、女性のアンチ蓮舫が迷わず投票したから。

アンチ共産党もすぐ投票したと思います。

一方で若い無党派層は蓮舫さんと石丸伸二さんで迷い、投票日にフレッシュな石丸さんを選んだ感じ。

両者のバックは微妙に違う感じがしますが、若い有権者は「やっと良い人が現れた」と思っているはずです。

蓮舫さんは予測通り左派衰退ルートに嵌まってしまい、全く得をしなかったと思います。

逆にこの選挙で石丸伸二さんは国政選挙で当選する知名度を得ました。

私の印象だと石丸伸二さんは「河野太郎さん系」だと思います。

若者は「新しく若い人が出た！」と喜ぶでしょうが、ベテランから見ると「また顔だけ変えてきたか」という感じ。

あのセルフプロデュースを自分で行っているとすれば、ひとかどの人物であることは確かです。

しかし一緒に仕事をするのはキツイ感じで、部下になったら死ぬでしょう。

実務家が多い保守派とは、おそらく犬猿になると思います。

逆に人気者が好きな左派からは、「顔」として重宝されるかもしれません。

【2. あの人たち、バイデン降ろしに手段選ばず】

さて米国大統領選挙ではバイデン氏が民主党の候補として撤退はせず、このままトランプ氏と対決する構えです。

特に妻ジルさんと、息子ハンターさんが頑張っているとのこと。

しかし民主党議員やスポンサー、マスメディアから「バイデン辞めろ」キャンペーンが広がっています。

その理由として「バイデン氏のままだと上下院が勝てないから」と説明していますが、後ろにいる人々からすればそれは建前。

今の状況からバイデン氏が勝つと選挙そのものが疑われるので、フレッシュな顔に代えてから「奇跡が起きて大逆転勝利」という物語を作りたいのです。

バイデン氏以外が候補になれば「いつもの手口」で何とでもできると考えているのでしょう。

したがってバイデン氏が頑張れば頑張るほど、「あの人たち」は手段を選ばなくなってくると思います。

「急病」「事故」「家族の都合」何でもいから早く引きずり降ろさないと不自然さが際立つからです。

もしかすると家族を脅し始めるかもしれません。

「撤退していただければこれまで通り特別な配慮でバイデン一族を守りましょう。さもなくば我々

が持っている資料も公表しようと思うのですが、どちらが良いですか？」

現職のトランプ大統領にあれほどのことをして何の罪にも問われずいまだに権力を握っている人たちなので、バイデン氏なんかもっと楽勝だと思います。

両者の支持率はようやく、討論会後のものに塗り替わりました。

平均は 3.3 ポイント差で、WSJ・CNN・NYT すべて 6 ポイント差でトランプ氏がリード。

これでバイデン氏が大逆転勝利となれば強く疑われてしまうので、**「バイデン対トランプ」にしなければ良い**のです。

そして一時期掛け率で 10%まで急上昇していたニューサム CA 州知事が反落し、代わりにカマラ・ハリス副大統領がバイデン氏を上回ってきました。

別の人になると「バイデン＝ハリス」で集めた選挙資金が使えなくなってしまうので、代わりの大統領候補はカマラ・ハリス氏が濃厚です。

しかし彼女はバイデン氏以上に不人気で、能力が微妙であることがバレています。

「最後に奇跡が起きた物語」を信じてもらうためには、副大統領候補がカギとなることでしょう。

【3. FBI のお気に入り MI 州知事ホイットマー氏】

その意味で私が注目しているのはミシガン **（MI）州知事グレッチェン・ホイットマー氏**です。

彼女は FBI など米諜報機関のお気に入りなので、彼女に白羽の矢が立つかもしれません。

今のところホイットマー氏やニューサム CA 州知事は次の 2028 年を狙っており、今回は出たがっていないようです。

しかしそれでもムリヤリ脅して副大統領候補にする可能性があります。

前回大統領選のちょうど 1 か月前になる 2020 年 10 月 08 日、FBI はホイットマー MI 州知事の誘拐を計画していた保守派組織「ウルヴァリン・ウォッチメン」の複数のメンバーを逮捕。

この事件は裁判を経て、FBI 内通者たちによる「自作自演疑惑」が囁かれています。

同知事はこの事件をあらかじめ知っていたとの噂もあります。

他の接戦州はトランプ氏や共和党が優勢になっているのに、この州だけはなぜか 2022 年中間選挙で同氏と民主党が勝ちました。

ホイットマー氏は FBI に大きな借りがあるはずで、バイデン一族と同じように「使い勝手が良い」

のではないかと思います。

ホイットマーMI 知事に関しては、会員さん向けに記事を何度か紹介しました。

投資戦略アップデート (20210728) [大統領選]

☆☆☆ その「ホイットマーMI 知事誘拐事件」を捜査していた FBI 捜査官が妻への暴行で告発される。大丈夫かいな FBI や CIA。

投資戦略アップデート (20220110) [大統領選]

☆ 「ミシガン州知事誘拐未遂事件」、容疑者たちは FBI の情報提供者「ダン」が資金を提供して煽ったと弁護団が反論。

投資戦略アップデート (20220130) [大統領選]

同誘拐事件を企てた民兵組織「オース・キーパーズ」の創設者でありリーダーであるスチュワート・ローズが FBI 内通者であったと告発さる

投資戦略アップデート (20220820) [大統領選]

ミシガン州知事（民主党）誘拐未遂事件裁判で FBI による「やらせ」ではないかとの疑惑。

「FBI 潜入捜査官『レッド（暗号名）』が爆発物の専門家で FBI 作成の映像を提供」

このときの MI 州デトロイトオフィスの FBI トップ、スティーブン・ダンツァーノ氏がその後ワシントン DC に「栄転」し、数か月後に 01 月 06 日議会乱入事件が起きてその捜査を担当

「ホイットマーMI 知事誘拐事件」と「1 月 6 日事件」の共通点は「FBI ダンツァーノ氏」と「大量の内通者や覆面捜査官」「起訴されないメンバー」

ミシガン州知事誘拐未遂事件が「やらせ」なら、01 月 06 日議会乱入も「やらせ」と考える人が増えるはず。

尻込みするメンバーたちを内通者たちが扇動。

12 人も内通者を潜りこませておいて、13 人逮捕（うち 2 人はすでに無罪確定）って効率悪い

おまけにマリファナを一緒に吸ったり、計画を中止しようとした男のリーダーに女性内通者が同衾したり、重犯罪者に銃を渡したり、資金提供して訓練を施していた。

誘拐のため車 2 台で下見に行ったが、そのうち 1 台の運転手が FBI 内通者。

FBI や内通者たちは「失業」するのを恐れて、計画をどんどん主導して行ったのではないかな。

自分たちは罪に問われないと思えば、何だってやる。しかし議事堂警察の人々が「次々に自殺」していることを見れば末路は見えている

日本ではなかなか報道されませんが、裁判で出た人名を並べておきますので興味のある方は調べてみてください。

FOX ニュースの記事がよくまとまっています。

(DeepL 翻訳)

ホイットマー知事誘拐計画裁判 4 日目、FBI の潜入捜査官が証言

アダム・フォックスとバリー・クロフトの第 2 回公判 4 日目、裁判所は複数の FBI 捜査官から、捜査に使用した潜入情報源について話を聞きました。

By Michael Martin 投稿日時：2022 年 8 月 12 日午前 11 時 19 分 最終更新日時：2022 年 8 月 13 日午前 5 時 22 分

<https://www.fox17online.com/news/governor-kidnapping-plot/undercover-fbi-agent-testifies-on-day-4-of-governor-whitmer-kidnap-plot-trial>

【被告 1】バリー・クロフト

【弁護士】ジョシュア・ブランチャード

【ウルヴァリン・ウォッチメン民兵内の FBI 内通者】

(1) スティーブ・ロベソン

(2) ジェニー・プランク (女)

クロフト氏とホテルで同室に。

重犯罪者であるロベソンに対しピストルを売る (違法)。

【証人 1】FBI 特別捜査官クリストファー・ロング

ロベソン氏と昔から知り合い。

プランク氏に“旅費と食費”として約 8000 ドルを払い戻した。

【被告 2】アダム・フォックス

【証人 2】 FBI 特別捜査官マーク・シュワイアーズ

潜入捜査官として「マーク・ウッズ」の名で活動

アダム・フォックス氏と接触する任務。

(終)

=====

【会員さん用アップデート概略】

1. 広範囲にインフレ鎮静化で 9 月利下げ確実視
2. 中国、この秋に向け大混乱ありそう
3. ポリコレで破壊されたドイツの産業

関連リンク

米 C P I は広範囲に鈍化、総合指数が低下＝利下げの論拠強まる

2024 年 7 月 11 日 21:40 JST 更新日時 2024 年 7 月 12 日 0:40 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-07-11/SGGLJETOG1KW00>

ドイツ倒産件数、上半期は前年比 41% 増 予想大幅に上回る＝独紙

2024 年 7 月 10 日午後 3:47 GMT+9

<https://jp.reuters.com/markets/japan/funds/2Y0AQMKI2JMWLE02IBMZDBZNPM-2024-07-10/>

(DeepL 翻訳)

ドイツで破産件数が 10 年ぶりの記録更新

2024 年 7 月 10 日

金融紙『ハンデルスブラット』が発表し、ドイツのメディアが分析したデータによると、ドイツの

ビジネス部門からのニュースはネガティブなものだった。

2024 年上半期に倒産を申請した企業は約 11,000 社で、前年比 40%増、10 年ぶりの記録となった。

<https://in-cyprus.philenews.com/international/decade-long-record-in-bankruptcies-reported-in-germany/>

【1. 広範囲にインフレ鎮静化で 9 月利下げ確実視】

2024 年 06 月の米 CPI は広範囲に鈍化。

前年比で総合は+3.0%、コア+3.3%となりました。

- ガソリン価格下落
- 住居費の伸びが鈍化。
- 食品とエネルギー商品を除く財のコア価格は 4 カ月連続で低下
- エネルギーと住宅を除いたサービス価格も 2 か月連続で低下

など、米国のインフレが 2%に向かい始めた感じです。

CME の FED ウォッチツールでは 9 月の利下げ確実視され、年内 3 回利下げ多数派になりました。

【2. 中国、この秋に向け大混乱ありそう】

しかし米国以外は引き続きの危険であると思います。

米株でこれ以上景気がスローダウンすると、リセッション懸念が台頭します。

ドットコムバブル期はそれでも消費が下支えしてくれて、そのうちに景気が再浮上しました(タッチ・アンド・ゴー)。

それを繰り返して米株はブチ上げて行ったのです。

一方それ以外の国は米国に資金を奪い取られ、特に新興国は金融引き締めと同じ状態になりました。

その結果が 1997 年アジア危機と 1998 年ロシア危機です。

今回はそれ以上に大きな爆弾「中国」が控えていると私は思っていました。

しかし最近の動きを見ると西側寄り新興国の株価が強く、中国の混乱に巻き込まれずに済むかもしれないと考え始めています。

また中国に関して言えば、この秋に向け大混乱がありそうな予感がしています。

というのも人民元はデフレ通貨なので、通常は高くなるはずなのです。

しかし過去 2 回跳ね返された 7.3 人民元/ドルに接近しているということは、それ以上に資金流出圧力が強いのではないかと思うのです。

中国からの資金流出が加速すれば、中国株は 1997-98 年のアジア危機・ロシア危機に近い動きになると思います。

しかし他の新興国は巻き込まれずに済むかもしれません。

そして SP500 指数はさほど下げないと予想しています。

【3. ポリコレで破壊されたドイツの産業】

中国をはじめとする新興国の次に気を付けなくてはならないのは欧州です。

ドイツで中・大企業倒産件数が急増しており、なかなか悲惨です。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 2024 年上半期に倒産を申請した企業は約 11,000 社で、前年比 40%増、10 年ぶり記録。(2) 年間売上高が「1000 万ユーロ」を超える企業が 160 社以上倒産(3) 債務を履行できなくなった部門は、建設、自動車販売・部品、機械製造など(4) パンデミックの影響、近年の高インフレ、エネルギー・原材料価格の高騰からまだ立ち直っていない。(5) 専門家は自動車、原材料、建設、不動産などドイツの重工業に関連する企業の倒産をより懸念(6) ドイツ全体の国際競争力の低下、多くの分野で続く労働力不足、官僚主義的な障害が状況を悪化→EU 全体の問題 |
|---|

この原因は「ポリコレの毒（≡共産主義）が 欧州全体に回った」から。

「科学技術でなく政治」「競争力でなく障壁」で産業を甘やかし、科学技術や競争力で米日に置いて行かれました。

ドイツの産業は見る影もなく、軍事もボロボロ。

「ドイツ製」と書かれた製品は、実はアジア製にシールを貼っただけだったりします。

もちろん良いものも一部残っているのですが、その領域がどんどん狭まっています。

フランスも左派政権で凋落が加速しそうだと私は考えます。

意外とイタリアが右派政権で復活するのかもしれませんが。

(終)

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 07 月のパフォーマンス (暫定)

「永久保有」は成長銘柄強く必需品指数に対し+1.88%ポイントとリードしています。

「グローバルマクロ」は「逆流」で指数に対し-0.88%ポイントと劣後しています。

「個別銘柄」は「逆流」で指数-0.22%ポイントと劣後に転じました。

+1.56% 永久保有

+0.79% グローバルマクロ

+1.45% 個別銘柄

円ベース	現地通貨	通貨	
+1.66%	+2.73%	-1.04%	MSCI ワールド指数(*)
+2.86%	+3.94%	-1.04%	MSCI 新興国指数(*)
+1.21%	+2.27%	-1.04%	米 S&P 500 指数
+2.04%	+3.11%	-1.04%	米 NASDAQ 総合指数
+3.11%	+3.11%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
+4.37%	+4.37%	+0.00%	日経平均
-0.33%	+0.72%	-1.04%	米国生活必需品指数(*)
+2.38%	+3.45%	-1.04%	情報技術(*)
+2.09%	+3.16%	-1.04%	一般消費財(*)
+0.06%	+1.11%	-1.04%	コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 07 月 07 日 23:53

投資戦略動画（公開用）20240707 都知事選、若い無党派層の奪い合い。あの人たち、バイデン降ろしに手段選ばず。FBI のお気に入り MI 州知事ホイットマー氏。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290361.html>

2024 年 07 月 06 日 08:00

【週末だけのグローバル投資】（動画 2 本分）第 1 回討論会、「老人虐待」がトレンド入り。民主党大統領候補の変更は意外と難儀。それでも投票機・投票制度へ工作続く。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51290280.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>



03 【再掲】投資戦略[特別]メール

24. 【再掲】投資戦略アップデート[特別]メール

今月も整理する時間がなかったので、後日まとめます